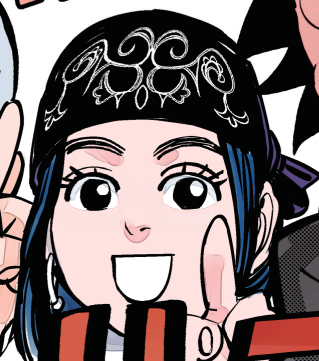


マンガ大賞

2016

ありがとう
「はい」

カタネ



野田サトル

コミックマーケット

マンガ大賞2016決定!

選考員コメント掲載!

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2016 マンガ読みが選ぶ2015年の一巻!!
マンガ大賞決定!
選考員コメント掲載!

マンガ大賞2016 大賞受賞作品

週刊ヤングジャンプ / 集英社

「ゴールデンカムイ」野田サトル

選考員コメント・1次選考

- とにかくお話も絵も勢いがあって五巻まで読んでも全く飽きません！メインストーリーパートとアイヌ飯パートの緩急がよいですね。主人公・杉元の説得力ある不死身感も好きなのですが、アシリパさんのかわいさ、かっこよさ、けなげさ、天然さ…全てを兼ね備えたキャラクターが最高です。歴史物、メシ物、パラレルなどクロスオーバーな作品で色んな好みの人に読んでいただけるのではないかと思いますので、あちこちで推されていますがやはり今季イチオシです。

会社員 / 宇田川 結衣子

- 飯ネタ漫画にしては壮大な設定・ストーリーが描かれていて先も気になる漫画。アイヌ飯で絶対に体感することのない料理が続々出てくるところが想像力を掻き立ててくれて楽しいです。

株式会社来知 WEB デザイナー / 河本 智芳

- 2015 年らしさを一番感じた作品。

マンガ研究 / 会田洋

- 常に死と隣り合わせで、尋常でない緊迫感溢れるバトル。大自然の恵みである食。詳細に取材されたアイヌ文化。そして絶妙なタイミングのギャグ。それらすべてが奇跡的に絶妙に混ぜ合わさっていて、読まないとい損と言いつける。白石のフキダシについで小さい白石！

医師 / 岸本倫太郎

- 面白い、とはこういうことか！荒唐無稽な大風呂敷設定の一方で、説得力あふれる詳細な民俗考証、サプライズに満ちた展開、まさに「マンガチック」な大げさなキャラクター、派手なアクション、見たことないグルメ、ギャグとシリアスを同じ目線で行き来する温度感、ねっとり濃いのどこか爽やかな画風、どれをとっても最高！マンガを読む快感に充ち満ちた作品！そしてこれを「結末を知らずに」読むことができる 2016 年…！いや、今読まずしてどうする！！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

- 少数民族が大好きで、アイヌ文化！だ〜！！それに自然の驚異と埋蔵金もからんできて、続きが気になって眠れん！！と思ったら、カワウソや鹿を食べてやがる！！うお！！とつっこみを入れつつも料理もおいしそうで許しちゃう。むしろ料理にも引き込まれちゃう。血なまぐさい展開はさけられないだろうけど、主人公たちはいつまでもおいしそうにご飯を食べててもらいたいな〜。鍋にはオソマですね！

鳥取県 美術教諭 / 佐川由加理

- 時代背景を戦時に絡めたり舞台設定に極端な郷土要素を入れるなど、第一印象が手塚治虫が原作かのようなマンガ。すべてがハードでエッジが立っているしが、絵柄そのものとアイヌの郷土料理シーンが全体をいい意味でマイルドに仕立ててくれてます。ここまで残虐なシーンが多いにもかかわらずいやっとならしさがないのは本当に作り手のうまい漫画家さんのマンガなのだと思います。

デザイナー / 佐藤 ユウ

- アクション＆食をガッツリ融合させた力作。ギャグも豊富で茶目っ気にあふれているのも良い。

ライター / 芝田隆広

- アイヌの遺した金塊を、元日本兵士の杉本はアイヌの娘アシリパと、囚人の刺青を手がかりに探していく。いろいろな謎がわかってきてとても面白くなってきたそしてアイヌの娘とのやりとりや、アイヌの文化、食事が暖かく描かれていて、とても愛おしくなる作品。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

- 本気のジビエ。滴る肉汁。戦争、兵士、死刑囚、皮剥ぎといったシリアスで怖ろしげなモチーフに彩られているのに、なぜかコミカルで笑ってしまう。味噌は美味しい食べ物です。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一

- 新鮮で美味しい料理の数々を、ヒンナ、ヒンナと美味しそうに食べる姿や、死んだ魚のような目をしながら食材（希少部位）を口に運ぶ姿をみていると神に感謝したくなります。命のやり取りを感じさせてくれるストーリーがたまりません。

教師 / 持丸宏司

- アイヌ版「山賊ダイアリー」。メインはアイヌたちが先祖の代に集めて隠していた大量の砂金の在り処を巡る様々な勢力の死闘の物語なのだが、それ以上の割合で狩猟と食事の様子が詳細に描かれるので、そんな感想を抱いてしまう。主人公もそうだが、敵役である男たちも譲れない信念を持つ人間味のある人達ばかりなので、最初は嫌な奴だと思っても、読んでいく内に不思議と全員を好きになってしまい、みんなに幸せになって欲しいという気になる。とにかく熱い男たちの血沸き肉躍る冒険活劇。ワクワクしながら続きを楽しみにしています。

丸善ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

- いろいろてんこ盛りで野田さんのサービス精神とマンガ愛を感じます。

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- 主軸ストーリーだけでなく、アイヌ文化を感じることができる楽しさがある作品

自営業 / 小野ゆうこ

- アシリパさんがかわいいのです。そして、最近料理するときたたきを作るときチタタブ、チタタブとうたいながらやっています。やっちゃってます。これはそう。はまってる証拠です。

スタジオフーズ / 小林智之

- 明治末期の北海道を舞台に、『宝島』みたいな財宝争奪戦、日露戦争で傷ついた男たちの国家への復讐、厳しくも美しい自然描写、人間に襲いかかる狼やヒグマなど、ありとあらゆる冒険小説的エンタメ要素がてんこ盛り。その上ヒンナヒンナ（読まないの意味不明）なのだから文句のつけようがない。昨年1年間で最も眩目し、夢中になった作品です。アイヌの人々の狩猟文化や暮らしがこれほど克明に描かれたのも驚きで、これは手塚治虫が『シュマリ』でやりたくてできなかったことではないか？ 1970年代とは時代が変わったということだろうけれど、取材先との調整等、編集者の苦労は察するに余りある。それを含めて、よくぞこんなマンガを読ませてくれたと平伏します。最近に変なギャグの切れ味も増してきて、血生臭くハードな物語が、ヘタすればコメディーになりかねないのが心配でもあり楽しみでもあり。このまま突っ走って欲しい。ヒンナヒンナ！

読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局 専門委員 / 石田汗太

- 大自然の中での冒険活劇で、アイヌ文化も描かれていて、登場人物は皆魅力的で、目指すは黄金！面白く無いわけが無い

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田充

- 隠されたアイヌの埋蔵金を追う本筋のサスペンスはもちろん、そこに挿入される日常の知恵とごはんの描写がたまらなく好き。お陰で美味しそうなものをみると、つい「ヒンナヒンナ！」(アイヌ語で美味しいの意)と言いたくなってしまう身体に…。見開きやコマの使い方や描き方もかっこいい。見逃せません。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- 食×アイヌ×日本兵×お宝×新選組×脱走×……と内容盛りだくさんの作品。いろいろな要素が上手いこと組み合わさって・絡み合って、なんとも言えない、お腹が空くお話になっています。決してこの作品を空腹状態で読むはいけません。

ホビー会社勤務 / 畑中 瀬路奈

- 年末のこのマンガがすごいで2位になったのは知っていますが、やっぱり押さざるを得ません。こちらもフードまんがとして最高に面白い。一般にあまり知られていないアイヌ文化にスポットを当てていて、不勉強なことに知らないことばかり。そこにもたいへん興味をそそられます。

お菓子研究家 / 福田里香

- 表情豊かな作品です。だから、食べ物がとても美味しそうですし、生きてる感じが強くします。うんちくが多いものの、そのうんちく話の後のキャラクターの豊かな表情があるからそれほど気になりません。展開もはやく、どんどん話に引き込まれます。

会社員 / 林礼春

- 血が湧きます。ストーリーの組み立てが神業！アイヌの説明～回収が面白い程、上手いです。もう感動。しかも、「えええ～」という、ストーリーの差し込み。 夢中です。

アニメイト 営業支援部 販促宣伝課 / 鈴木寛子

選考員コメント・2次選考

- 金塊を狙って殺し合い、人皮を地図とする等、殺伐とした漫画になりそうなのに笑えるし、料理シーンはかなり美味そうだしで、読んですぐ好きになりました。殺し合いした後のギャグシーンに最初は違和感を感じたりもしましたが、永倉新八が存命しているあの時代の人たちの死生観は現代人の自分の価値観では解らないので、割と早めに納得して読むことができました。この先死刑囚ですが人として惹き付けるキャラクターが続々出てくることに期待する気持ちと、出てきたとしてもほぼ確実に死んでしまうのかと思うと複雑ですが、3?4話くらい一気に読みたくなる作品です。

バンドマン / TA-SHI

- 食べ物の描写が最高においしそう！伏線と回収が見事で、読んでてわくわくする作品です。あと、アイヌ文化のちょっとした説明が面白い。

アニメイト / 鈴木寛子

- 巻を追うごとに様々な思惑が入り乱れてどんどんエスカレートしていく、北の大地のお宝ぶんどり合戦。息を飲むほどのエグい戦闘シーンの合間に、アイヌ娘のジビエ料理にほっこりさせられたり。抜群に面白いです。まとめて読むならこのタイミングだろうということで、こちらに投票いたします。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

- アイヌの隠し財宝を巡って様々な勢力が函館の地で激突する、というと血なまぐさい感じしかしないが、ヒグマが出れば争いどころではなくなるし、狩りや食事のシーンが多く描かれることによって、牧歌的な雰囲気さえ漂う。財宝の在り処を示すヒントとなる脱獄囚は24人もいるので、次から次へと出てきて、あっさり死んだりもするので、物語の展開が早く、飽きさせない。

丸善ジュンク堂書店営業本部 / こいそひろし

- 「美味しそうなアイヌ料理が出てくるマンガ」としての良さはまずあるよなあ。もちろん、骨太な「宝探しモノ」としての良さはあるのだけど、そこをどれだけ活かしていけるのか。今後に期待。

ブロガー / サイトウマサトク

- なんか流行ってるなーと横目で見ながら、最後の最後まで読まなかったゴールデンカムイ。やっぱり心奪われ、次の巻が待ち遠しいのです。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- コメントを考えている間にも次のストーリーが気になって仕方がない

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部大介

- 読み始めたら止まらなくて、冷や汗かきつつぐいぐい読んでしまった。生と死のギリギリの狭間を命がけで渡り歩く、男たち、そしてアイヌたち。自然の厳しさ、戦争の過酷さ。そんな生易しい言葉ではとても言い尽くせない、まさに壮絶な世界。圧巻。なのに随所にユーモアもちりばめられているところがまたいい。

主婦 / 安田奈緒美

- 今期最も勢いのあるまんがと言っているんじゃないでしょうか。アクションアイヌ飯冒険マンガと言うには説明が足りません。色んな要素がたっぷり混ざりあってるのに、散らからずに楽しめます。最初からフルスピードで読み手をぐいぐい引っ張っているのに、ますます加速するストーリーに目が離せません！

会社員 / 宇田川結衣子

- 個人的には黄金にまつわる戦いよりもおどろきのアイヌ食と、主人公×アシリパさんのやりとりがツボ。最後まで不死身でいてほしいです。

漫画家専門鍼灸師・理学診療士 / 碓氷麻里子

- 『聖闘士星矢』からギリシア神話、『るろうに剣心』から幕末、と優れたマンガは得てして、その作品の奥にあるものに読者の好奇心をいざないます。あるでしょ、こう、『ヒカルの碁』を読んだだけで碁を打てるような気になったり、『アイシールド 21』を読んだらアメフト部に入りたくなるような感覚。読んだら、何となく雪山で生き残っていけそうな気がする。アイヌ料理が作れるような気がする。そんな『ゴールデンカムイ』は、まちがいなくその優れたマンガの系譜の最先端にある作品です。というのも、杉元や白石をはじめとしたキャラクターたちが、この過酷な北の大地を（なぜおまえらそんなに……というくらい）楽しんでいるからです。金塊を巡っての殺し合い、というドシリアスな状況に身を置いているのにやれこの汁物には何が合うか考えていたり、コマの間にしれっと調味料を調達していたりと、北海道ならではの――主に食方向の――楽しみを味わうことに必死。楽しく読んでみると、気づけば「あれ、杉元たちは飯を食いにここに来てたんだけ？」とすっかり油断してしまいますが、そこから一気に命のやりとりへと引き戻されます。追ってくる敵方も全員プロフェッショナル。みんな超強そう。ほのぼのの北海道グルメから、極限環境の殺し合いへ。このギャップ、メリハリが『ゴールデンカムイ』の『ゴールデンカムイ』たる所以です。絵や漫画表現が革新的なものではありませんが、面白くって為になる、少なくとも私がマンガに求めるものの、およそ全てが詰まった、現在進行形マンガの最高峰であると自信をもって推薦します！

株式会社アニメイト 町田店 / 岡ノ部亭 真奈

- ハラハラドキドキの冒険パートとほっこりする食事や杉元とアシリパのやりとりの対比が秀逸な作品でした。少し苦手なマンガかなと思って読み始めたのですが、どんどん引き込まれていきました。読まず嫌いはもったいない漫画だと思います！スケールの大きい、男子はもちろん女子にも面白いと思ってもらえるオススメの漫画です。

株式会社スマイルアクス 営業 / 岡村光徳

- 一癖もふたくせもあるキャラばかりで、黄金を巡るサバイバルという設定、先の見えないストーリーが魅力。日露戦争の北海道が舞台、すご腕の元軍人、アイヌの美少女、埋蔵金…と個々のキーワードも際立っています。

まんたんウェブ編集部 副編集長 / 河村成浩

- また食マンガかーと思ったら、壮大でスリリングなドラマ展開と誇りの描写がメインで、食べるという基本欲求を満たす行為が逆に色めき立つ、面白いバランスの漫画。漫画好きにも、そうでない人にも自信持って勧められるのはやっぱりコレ！

株式会社来知 WEB デザイナー / 河本 智芳

- 2015 年を最も強く感じた作品。

マンガ研究 / 会田洋

- 作品中の緩急の差が激しすぎて、ぐいぐいと振り回される心地よさ。ギャグのタイミングが秀逸。

医師 / 岸本倫太郎

- 圧倒的！マンガとは、キャラクターであり、ストーリーであり、取材であり、グルメであり、バトルであり！というマンガが歴史上獲得してきた面白のための素晴らしさが、全部詰まっていて、最後、圧倒的に作ってる人がオモシロがってるのが伝わってくる…！！も一、先が気になるのに、おなじページずーっと見てても幸せ、って最高！！！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

- コミックスの巻数的にも今から読み始めると、どっぷりハマれるんじゃないかなー 作品的に脂が乗り始めた感のある旬なタイトルですね。

凸版印刷株式会社 / 紺野慎一

- 濃密な要素だらけなのに、力を入れずただエンタメとして楽しむこともできる、まさにマンガの魅力にあふれた作品。あーおもしろい。

大日本印刷 / 佐々木愛

- 何度よみなおしても面白い。王道！という作品ではないかもしれないけど、読んでる最中の疾走感読み終わったあとの、爽快感は王道にふさわしい一作

鳥取県 美術教諭 / 佐川 由加理

- ヒンナ！ヒンナ！物語も面白いのだが、その端々で出てくるアイヌの生活、食事が非常に興味深い！そしてうまそーなんだよなあ。。今の時代の食事より遥かに調味料は少なくシンプルなはずなのにとてもうまそうに見える。。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

- 時代背景を戦時に絡めたり舞台設定に極端な郷土要素を入れるなど、第一印象が手塚治虫が原作かのようなマンガ。すべてがハードでエッジが立っているしが、絵柄そのものとアイヌの郷土料理シーンが全体をいい意味でマイルドに仕立ててくれてます。ここまで残虐なシーンが多いにもかかわらずいやっとならさがらないのは本当に作り方のうまい漫画家さんのマンガなのだと思います。

デザイナー / 佐藤優

- 漫画大賞にノミネートされてから初めて出会った作品です。ゴールデンカムイという題名からどんな話が全く想像がつかなく、なんの先入観もなく読み始めました。アイヌのアシリパさんと出会ってから出てくる食事が本当においしいので…！！杉元のリアクションもとても楽しいです♪そしてなにより山の生き物たちとの闘いが臨場感すごいです！！結末が予想がつかなく続きがとても楽しみです！！

薬剤師 / 山崎友里

- この漫画のお陰で、冬の北海道で3秒で死ぬ自信ができました。アシリパさんがいてくれたら、もうちょっと頑張れると思います。金塊を巡るバトルロイヤル・グルメ漫画です。本当です。殺し合いと野趣溢れるアウトドアクッキングの漫画です。緩急の方向がオカシイ（褒め言葉）。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

- ダイナミックなアクション、グルメ要素、ジョークと、読者を満足させてくれる要素がゴージャスにてんこ盛りになっている。アシリパさんも、かわいだけでなくユーモラスだったりカッコ良かったりと魅力的。連載のほうは少し中だるみしてきた感じがあるので、ちょっとペースアップしてガツガツ攻めてほしいところ。

ライター / 芝田隆広

- エンタメ王道の全部入りの作品。ぜひ一気に読みして「ゴールデンカムイ」の世界を体感してください！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- 二次選考に残った作品はどれも面白くてそれぞれの魅力にあふれていて甲乙つけがたいのだけれど、あまり読者を選ばず、「どうなるかわからない物語の続きを一緒に追いかけてませんか？」と気軽に薦められるという意味では、この作品が頭一つ抜けているかなと思う。壮大な自然の中でのサバイバルと戦闘を繰り返しながら少しずつ描かれる、まだまだ解決までには先の長そうな謎と、まるで見てきたかのような当時のアイヌの人々の細やかな日常の暮らし、そしてグルメ漫画ばりのごちそうの数々。戦争がもたらす暗くて辛い現実と、その中で生きる人たちの強靱さのバランスもいい。読むとわくわくできる、頭も心も高揚できる作品。

主婦 / 小田真弓

■ アイヌ文化も知ることができる物語構成はとても新鮮。続きが楽しみな作品です。

自営業 / 小野ゆうこ

■ よく喰うマンガだ。アシリパさん。なんだろ。さん付けしてしまう。チチタブ、キナオハウ、にしんそば、子持ち昆布の串揚げ、くそお極寒の空の下で食べてみたい。チタタ ?? って言いながら刻んでみたい。材料があまり手に入らないものが多いのでおいそれとは食べれないがそれだけにジビエへのあこがれのようなものがある。さあ、みんなでチチタブ。

スタジオフーズ / 小林智之

■ 今回の二次選考で初めて読んだ。舞台である開拓使時代の北海道について考証を重ね、アイヌという異文化の暮らしをていねいに描く手法は、2年前の大賞受賞作『乙嫁語り』(森薫)をも想起させるし、史実を大胆に膨らませながらときにコミカルに織り交ぜるセンスは過去のノミネート作である『ドリフターズ』(平野耕太)にも通じる引力とおかしみがある。作品を通じて訴えかけたい"柱"がより明確になれば、さらなる大化けも期待できる。

有限会社馬場企画／編集者・ライター / 松浦達也

■ 1次推薦で褒め言葉はあらかた書いてしまいましたが、もう一度改めて読み、やはりすごい作品だという思いは変わりません。人間の味覚には甘味、酸味、塩味、苦味、うま味の五種類あって、全部入りだと「完全な料理」と言われるそうですが、この作品ひとつに、美しい、怖い、楽しい、ためになる、ワクワクする、さらに「美味そう」の要素まで入っているのだから、もう「完全なマンガ」と呼びたくなります。前回も書きましたが、アイヌ文化をここまで克明に描いたマンガは読んだことがないし、差別の歴史や、文化の違いを乗り越える可能性(アシリパがオソマ入りの鍋を食べるシーンなど)もきっちり描かれているのだから、志の高さにも感動します。やっぱり今回はこれしかない！

読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局 専門委員 / 石田汗太

■ 大人向けの少年マンガの王道と言えるのではないか。アイヌという独自の文化・風俗への興味と、隠された金塊の地図という謎解き要素。何より並外れた魅力を持つキャラクターたち。これで面白くないわけがない。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

■ アイヌの風習をこんな角度から知ることができるなんてビックリ！いろいろな雑学要素を含みながらも、説教くさくない。漫画としての完成度が非常に高いと思っています。

本と文具ツモリ / 津守晋祐

■ 北海道の厳寒の大地を舞台に展開される壮大な冒険、狩猟、野性のドラマと、敬虔で厳しくもあるがどこか懐かしいアイヌの人たちの穏やかで地に足着いた日常。絶妙な配合で描写される両者の振れ幅に読者はハラハラし、次の瞬間、癒やされる。シャープな絵柄は万人が取っつきやすいとは言えないように思うし、ある意味で残酷な場面が頻出するにしても、雑念が入り込む間もなくぐいぐい展開するストーリーは、嵌まればトリカブトの毒矢のように中毒必至。読まず嫌いはもったいない。ストーリー展開の勢いが優先する荒唐無稽なお話と思いきや、巻末の監修と取材協力のクレジット、参考文献リストをみれば、史実をきちんと踏まえた上でフィクションの想像力を揚げようという誠実な姿勢が伝わるはず。曾祖父が屯田兵だという作者のブログを参照してもそのことは分かる。骨太という表現がふさわしいマンガらしいマンガに没入できるのはうれしい。ヒロイン・アシリパ(正しくは「リ」が小さい表記)のキリッとしたかわいさと、野性の滋味あふれる野外食のうんちくが読む愉しさを高めている。掲載はヤングジャンプ。ノミネートされなければ読まなかった。今回いちばんの収穫でした。

日本経済新聞記者 / 天野賢一

- とにかくにも勢いがある面白いです。粗いところも含めて好きです。二次選考で初めて存在を知り、この作品を知らないまま、今まで来たことを地団駄を踏むという喜びをもらった作品でもあります。

馬場企画 / 島影真奈美

- ストーリーも見せ方もいい。なにより素晴らしいのは「アイヌの文化」に対して一貫してリスペクトが感じられるところ。人間もまた自然の一部。金塊を巡って多くの人間の人生が狂わされているのも自然の大きさととの対比に感じられます。ストーリー部分がこれからもっと大きく動き出すところなので、次巻が待ち遠しい！

三省堂書店池袋本店 / 内野智未

- 民俗学が好きな人、幕末が好きな人、そして食べることが好きな人は迷わず読むべき作品です。読む終わった人は必ず「ヒンナ！！！！」と謎の言葉を叫ぶはずです。

ホビー会社勤務 / 畑中 瀬路奈

- アイヌ文化を蘊蓄以上の形で活かし、異色の冒険譚を紡いだ快作。オリジナリティに根差した物語は強い。

書評系ライター / 福井健太

- 年末のこのマンガがすごいで2位になったのは知っていますが、やっぱり押さざるを得ません。こちらもフードまんがとして最高におもしろい。一般にあまり知られていないアイヌ文化にスポットを当てていて、不勉強なことに知らないことばかり。そこにもたいへん興味をそそられます。

お菓子研究家 / 福田里香

- マンガの中身もしっかりあり、笑える部分も盛り沢山。何が好きかと言えば、食事のシーンが最高。杉元のなんとも言えない顔がたまらない。

デザイナー / 平沼寛史

- 日露戦争帰りの主人公がとにかく最強で読んで気持ちいいです。頭が良くて腕も立つ美少女もいます。この凸凹コンビがとってもいい！隠された金塊の謎に、ワイルドなジビエに、随所に差し込まれる笑いに、そしてちょっと気になる恋の行方にと、いろんな方向から楽しんで読めます。今、最も続きが待ち遠しい！

図書館司書 / 堀江千秋

- ヒグマ！ オオカミ！ 金塊！ 脱獄死刑囚！ 好きなワード大盛り。謎解きはもちろん、アイヌの人々の生活も見えてくる。一気読み確実。

明文堂プランナー金沢野々市店 フロアプランナー / 木村俊介

- 物語設定が巧みで大好きです。扉絵や随所にでてくるギャグ的な要素も物語を崩さない程度に（でもかなり多めに）入っているので、読みながら楽しく、おなか一杯になります。でも単純なおなか一杯ではなく、まだ詰め込まれても大丈夫な感じの、心地の良い。時代考証などもしっかりしているようで勉強にもなります。

メガマソ / 涼平

マンガ大賞2016 ノミネート作品

ビッグコミックスペリオール / 小学館

「岡崎に捧ぐ」山本さほ

選考員コメント・1次選考

- なつかしいような新しいような。40歳になった今でもデュークシ！は使います。岡崎さんしあわせになりますように。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川元良

- 大人になってからわかる大人の事情が子供目線でノスタルジックに描かれていて、物悲しくもドキドキとした童心を思い出した。

マンガソムリエ・コラムニスト / 原田まりる

- 自分の世代がちょっと上なのが悔しいです。ゲーマーだった子供の頃が蘇る良作です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- あるあるネタにまぶして、意外や切ない友情ドラマ。さらっとした語り口ながら鋭く深い人間観察も。ああ自分も中学の時はバカだったなーと読んでチクチク胸が痛みますが、現役中2の息子はゲラゲラ笑って読んでました。

朝日新聞記者 / 小原篤

- 切ないような懐かしいような……それでいて面白いという、とにかく色々な感情に触れてくる作品ですね。自分も、子どもの頃に毎日のように遊んでいた友達がいましたが、元気かな、うえっち。

ミュージシャン / 杉本善徳

- 幼馴染との子供時代を懐かしく面白く、ちょっと辛辣にも描いているコミックエッセイ。子供の頃のいいところだけでなく、ちゃんと影も描いているのがすごいところ。馬鹿みたいに楽しかったり今思えば恥ずかしかったり絶対に思い出したくない黒歴史だったり、自分の子供時代を鮮やかに思い出しちゃいます。

図書館司書 / 堀江千秋

- 友情物語って、言ったら安く聞こえますが幼い頃の普遍的な日常の中に90年代の核家族化の違和感、寂しさが出てきて、同じ世代として（山本先生の方が若いと推測されますが。←はまったゲームの作品名で）共感と懐かしい郷愁のような…気持ちが往来します。山本先生を取り巻く岡崎さんをはじめとするメンバーに色々な家庭の事情や個々人の思いがあって…あの時代、こういう人たちが居た居たと…その人たちとどう関わっていたのだろうと思いついたりして、なんだかとても懐かしい気持ちになりました。小学校の頃の親友と今では、年賀状のやりとりも途絶えていましたが久しぶりに出しました。（住所不定で戻って来てはしましたが…（TT））

アニメイト 営業支援部 販促宣伝課 / 鈴木寛子

選考員コメント・2次選考

- マンガ大賞の動機がなければ正直読まなかった。でも読んだら面白かった。なぜか哀愁アート系と勝手に思い込んでた…。この先どうなっていくのか予想がつくような安心感と、もしかして裏切ってくれるんじゃないかっていう期待と、予想通りになっても許せそうな自然体な空気が好き。勧められないと読まなかったから、推します。

株式会社来知 WEB デザイナー / 河本 智芳

- 僕は 40 歳なので世代がドンピシャな訳ではないんですが懐かしいと思ったり小学生というのはバカだなー、とクスリと笑えたりする部分を共有できるというのがこの作品のすごいところなんだろうな。世代によって面白いというところも違うような気がするのていろんな世代に読んでほしいと思います。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川元良

- 壮大なテーマがなくとも、テンポがよく面白い。エッセイマンガによくある自虐もなく、よんでいてほっこりする作品でした。

マンガソムリエ・コラムニスト / 原田まりる

- note で連載していた頃に、「こんなに面白いのが無料とは！日本はじまた！」と、思ってたけど、お金出して買っても、やっぱり好き。一昔前は、「勝ち組」「負け組」今で言う「マウンティング」人と自分を比べて、優劣をつけたがる人はいっぱいいる。でも、小さい頃の方が、お互いを認めあって、よっぽど大人だったなーと思うよな。二人のような友情はいつの間にかとても貴重なものになってしまった。大事にしなきゃなー。と、読み終わった後に友達に連絡とってみた。そんな一冊

鳥取県 美術教諭 / 佐川 由加理

- 30 代に刺さりそうなマンガだが、30 代じゃなくても面白い。育児放棄された岡崎さんの生活が偽善的でも偽悪的でもなく描写され嫌味なく笑ってしまう。ぐっと来るのに説教臭くない稀有な良作。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一

- 職場で読んでたら「ママー！おなかへったよー！」ときて爆笑。笑いを堪えようとして、失敗。周りに誰もいなくて良かったです。笑い過ぎて腹筋が痛くなるほどでした。

教師 / 持丸 宏司

- 小学生の頃、クラスのみんなど競ってやったゲーム。私も殆ど同じ世代でしたので、「あ、このゲームやったぞ！」とニヤリと笑ってしまったり。『あの頃』を共有する友人と、このコミックを読みながらお酒を飲んで語り合いたい。そう思える作品でした。

LIBRO ecute 大宮店 コミック担当 / 首藤 瑛

- あの頃を思い出します。TV ゲームが好きだった人達に読んで欲しい作品。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 「けんどう！」編が好き。こんないい加減でふざけた部活で、マンガはこんな絵なのに（失礼！）、こんな短いページ数なのに、切なく心揺さぶる青春グラフィティ。けんどう！

朝日新聞記者 / 小原篤

- 可愛く、切なく、優しく、苦い、それなのにユルくて楽しい（笑）絶妙に愛らしいマンガですね。好きです。

ミュージシャン / 杉本善徳

- まだ言葉表現がわからないけど心の奥にどんどん切なさが溜まっていくマンガだと思います。

カメラマン / 平沼久奈

- 世代がドンピシャだと特に！郷愁に襲われまくりなことは間違いなく、仕事の合間に癒やしを与えてくれる。世代じゃなくても、今そばにいてくれる友人との関係を改めて愛おしく感じさせてくれる作品。主人公さほの友人「岡崎さん」の優しさと愛情への感謝は沁みる。なぜこんなに傍若無人の女子には、素敵な女友達ができるのだろうか。ところどころに散りばめられたゲームやおもちゃの話題はどれも「あるある」で、小学校のときセーラームーンやツインビーにハマった人にはぜひ読んで欲しい。

アニマックス 広報 / 西尾美里

- 小学生当時、友人のカンベくんの家に通っては、スーパーファミコンで遊んでいた。僕はカンベくんの家で生まれて初めて幽霊を見た。たくさんの不思議な出来事が起こった。そんなことを思い出しながらも、この特殊な人生模様とユーモアの融合に、なぜだか憧れてしまうのだった。

シンガーソングライター / 谷澤智文

- 社会的身分やその人の家族がどんななのか、なんて全く関係無く、“どれだけ自分と気が合うか”が一番重要だった子供の頃の自由な気持ちを思い出させられる作品でした。人生って楽しいのが一番だよ…と初心を思い出させられます。

ホビー会社勤務 / 畑中 瀬路奈

- 「クラスの主流派でないひと」の世界がこんなに活き活き描かれるなんて、とても嬉しい！「当時はみんなああだったよね」みたいな万人のノスタルジーに回収されない、「ちょっとヘンな子」の日常描写ににじむリアリティが好きです。中学生編に入る2巻ではそのへんも際立ってきまして、ああ山本さん、岡崎さんがどうのというより、あなたも相当ヘンな子だったんですねと言いたい。

会社員 / 末永龍介

- いつも一緒にいた岡崎さんとの思い出がたくさんつまったあの頃の話。1巻は小学生の頃、2巻は中学生の頃を扱っていて、思春期あるあるのような感じで笑いつつ読んでうちがいいのだけれど、何度か読み返すうちに、岡崎さんの家庭事情とか、彼女が持つ依存傾向とかに嫌な汗をかいてしまう自分がある。ただ、特に印象深かったのは1巻に出てくる家出の話で、家出してきた主人公の山本さんが岡崎さんの家で土日過ごし、日曜日の夕方には何事もなかったかのように母親に呼ばれて帰っていくという筋なんだけど、サラッと描かれているだけに母親の心配などをついつい考えてしまう。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

- 久しぶりに、とにかくノスタルジーと勢いを感じる漫画でした。こんなことあったよな…という思い出をまるで自分が経験したかのように見せてくれる、等身大の自分を漫画の中に美しい傍観者として入り込ませてくれるそんな漫画です。岡崎さんご結婚おめでとうございます！

メガマソ / 涼平

「恋は雨上がりのように」眉月じゅん

選考員コメント・1次選考

- この恋の行方がとても気になります。テンポが、丁度良いです。

有隣堂 / 桶谷佳代

- 誰もが読んでファミレスの店長に憧れたに違いない(笑)というのはさておき、思春期の女の子が恋したのはファミレスのちょっと冴えないおじさん。片思いから始まる恋。表情の変化や、気持ちの表現がとても素敵です。恋がしたくなる漫画。

三省堂書店海老名店・嘱託社員 / 近西 良昌

- 高校生のあきらちゃんの恋する気持ちとか悩みとか、キラキラしていてまぶしい。恋されてる普通のおじさんの店長も見ていて切なくて。甘酸っぱい気持ちがいっぱいです！

主婦 / 紺野 泉

- この恋に未来は無い。そう思う大人だからこそ、あきらの恋心を応援したくなる。オバチャンの錆びついた乙女回路がきゅんきゅん回っております。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

- よくある恋愛物ではあるが、落ち着いた雰囲気と、純粋なところが、男女ともに楽しめる作品だと思います。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- 2015年のコミック界に彗星のようにあられ、男女問わずわたしたちの心をきゅんとさせた女の子、それがこの作品の主人公・女子高生のあきらちゃんです！発する言葉は少ないのに、そのキラキラの大きな瞳が恋する胸のうちを雄弁に語ります。恋が叶うか否かはさておき、彼女の大切な青春時代の一瞬一瞬を、一秒も逃さず見届けたい気持ちで読んでいます。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- 45歳バツイチのさえないファミレス店長（10円ハゲあり）に恋をしてしまった17歳の女子高生、橘あきら。なかなか伝わらないじれったい思いや、それゆえに大切に感じる気持ちの揺れひとつひとつを、主に女子高生の視点から丁寧に描いていく……。そうまとめてしまえばファンタジーというか、あり得ない設定の絵空事の作品のようだ。なんだけど、読んでいて醒めるわけでもなく、わたしのような40代男性を含む読み手の気持ちを掴み、ページをめくらせる現実感がある。年の差28歳という設定でなければ、かつて少年マンガにたくさんあった王道のラブコメディのように「胸キュン」だし、いまや絶滅危惧種のそんな雰囲気が感じることが出来るマンガだからこそ、この作品は人気があるのだろう。で、読み手を引き込むそのリアリティーの力とは、逆説的なんだけど、「現実に蓋をする」力だ。実際にこういう状況に置かれれば、どうしたって下心を持ってしまうのが男心というもの。だから、この作品では店長の下心をいかに「描かない」かが最大のカギとなっている（年明けに出たばかりの4巻では少し違ってきているが）。少しでも「それ」を描いてしまえば一瞬で冷める、読者から作品に対する恋。「あり得ない」のは橘さんのキャラクターではなくて、店長のキャラクターなのだ。

日本経済新聞記者 / 天野賢一

- 高校生とおじさんの恋の物語。そんなのあるわけじゃないじゃん！って思って読み始めるのに、実際にあるかどうかとか関係なくいつの間にか面白く読めてしまうのは名作だと思っています。フィクションがずっと現実のような感覚でなだれ込んでくるのが気持ちいい。二人の人物の描き方が素敵で、「いや、こんなことだってありそう！」って思っちゃいます。

メガマソ / 涼平

- 45 歳のおっさんに 17 歳の女子高生とか、どんなファンタジーかと思って読み始めましたが、既刊分を一気に読んでしまいました。お互い自信が無いながらも卑屈にならないところが、この清々しさにつながっているのかと思います。

会社員 / 林礼春

選考員コメント・2次選考

- 眩しすぎるほどまっすぐな恋の物語。だから読むのは、つらい。女子高生が20歳以上も上の、客観的にはうだつのあがらないファミレスの店長に恋をしたらどうなるか。輝くその気持ちに寄り添うのか、店長の感じる「申し訳無さ」を実感するのか。

ブロッガー / サイトウマサトク

- 冴えないオジサンと女子高生、という組み合わせから想像される「ああ…そういう系ね…」みたいな感じが、良い意味で裏切られました。店長とあきらのどちらにも似ていないわたしがなんでこんなに感情移入して、なんならちょっと泣いているのか……それは、これがリア充（とか人生の勝ち組）のための物語ではないから。ふつうに生きて、ふつうに困ったり挫折したりしているひとが、ふつうなまんまトキメキという贈り物を受け取れるというのが、最高です。

ライター・研究者 / トミヤマユキコ

- 全おじさんに読んでほしい。

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

- ヒロインが可愛い。美人。1巻の最後のページを読み終わった後、その隣のページに小さく書いてあった「恋は雨上がりのように」というタイトルを、暫くの間見詰めました。

金海堂イオン準人国分店 コミック担当 / 園田美智子

- 何気ない日常が題材の漫画ですが、誰もが少しは感じた事のある題材ならではの没入感が心地良く、甘酸っぱい青春の感じが本から薫ってくるような作品でした。読み始めるとあっという間に読んでしまう、みんな少し読み始めてみてほしいなという作品です。

株式会社スマイルアクス 営業 / 岡村光徳

- これからどうなるのか、気になります。

有隣堂 / 桶谷佳代

- 普通の恋愛を扱った漫画ではないはずなのに、登場人物の純真のため、すごく甘酸っぱい！細かい心情の描写が凄いい。

医師 / 岸本倫太郎

- うだつのあがらないおっさんに恋する女子高生、と設定だけみるとおっさんのためのご都合主義なマンガのように思われがちだが、予想を裏切られた。高校生時に感じた、土曜日の放課後の静かな開放感、部活に賑わうグラウンドに聞こえる声と、あたりを染める夕日。学生生活時特有の風景と季節感が随所に描かれていて、切なくも懐かしい気持ちを味わえる作品でした。

マンガソムリエ・コラムニスト / 原田まりる

- 甘酸っぱくてキラキラしてる、まぶしくて切ない、そういうものが詰まっています。あきらちゃんのまっすぐなまなざしに目がそらせない。

主婦 / 紺野 泉

- 「橘さんは、いつも雨の日に突然現れるね。」との作中のセリフにあるように、この“年の離れた恋”は雨をテーマに少しずつ進んで（ときには戻って）いきます。ちょっとした心理描写を何コマにもわたる情景でつづるシーンは詩的ですらあります。親子ほどの年の差が、若やいだり背伸びしたりしてそっと触れ合う瞬間は、誰しもが覚えのあるあの甘酸っぱさを感じさせてくれます。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- 大人のための少女漫画。かつて恋をしていた人に。ただ好きだという気持ちが恋なのだと思います。思い出させてくれます。まだ恋をしていない人に。嬉しいことも苦しいことも全部含めて恋なんだと教えてくれます。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

- 年上のおじさん店長に秘かに想いを寄せている、クールなあきらが、不器用ながらも、一生懸命なところが、可愛らしく、応援したくなっています。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- 女子高生と45才のおじさんとの恋・・・人によっては夢の設定、そして人によっては嫌悪感の産まれてしまう設定。でも大丈夫（大丈夫って何だろう）。とても清潔で、とても純粋な恋愛物語になっています。設定だけで嫌がらずに読んでみてほしい。愛されるおじさん店長は素朴で悪意がなく、主人公もすこし天然で美少女という最高さ。キャラクターの絵（とくに女子）がかわいい。とてもかわいい。恋愛真っ最中の人にもオススメだけど、しばらく恋をお休みしている人にもぜひ読んで欲しい！ときめきが蘇ります！

アニマックス 広報 / 西尾美里

- いいねいいね。こんな淡い感じ。あじさいがぴったりの漫画です。ちょっと大人になった人におすすめです。読んでいるうちに何かを思い出してきゅんとしちゃいます。

ブックエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

- 甘酸っぱく、そして歯がゆく。読みながらドキドキと高校生時代を思いおこしてしまいました。うだつが上がらないおっさんだって、大人っぽく思えて見えるもの。高校時代、学校の先生に淡い恋心を抱いていたけれど、今思えば、店長みたいな人だったな…。

女優・セミナー講師 / 大倉照結

- 「第一印象から決めてました！」というかつての常套句がありますが、このマンガの中であきらちゃんと出会ってからずっと、その瞳にくぎづけです。我ながらちょっと気持ち悪いくらいあきらちゃんが大好きです！1次選考でも推しましたが、やっぱり推さずにいられません！

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- ビッグコミックスピリッツを今読んでいるのはどんな人たちなんだろう。自分が毎週この青年誌を買っていた80年代に連載されていた「めぞん一刻」「軽井沢シンドローム」「ツルモク独身寮」「東京ラブストーリー」などなど、そうそうたる恋愛マンガの系譜は、当たり前だけど主要な登場人物はみな「若者」だ。そんな「スピリッツ」に「恋は雨上がりのように」が人気作品として連載されているという2016年の現実は、やっぱり象徴的なんだろう。読者が自身を投影するだろうファミレス店長・近藤は「45歳のさえないおじさん」なのだから。いや、店長のキャラクターに思い入れるというよりは、その境遇に、か。いずれにしても、まっすぐ自分を見つめる女子高生を前にしたときの逡巡は「おじさん」だからこそあって、それは「若者」には無縁な感覚だ（分かると言われたって、ねえ）。おしぼりで顔をこすったり、10円ハゲがあったりする「いわゆる中年」。どこから見ても「おじさん」。じれったくプラトニックな恋愛マンガを今つくるなら、これくらいの極端なバリエーションが必要だ。そんなあり得なさそうな設定なのに意外にリアリティーが感じられるのは、真夏の陽光と青空、雲、日陰の涼しさ、溶けるアイス、教室のカーテンを揺らす風、豪雨といった空気感の描写に時間と手間をかけているからということもある。言うまでもなくファンタジーはリアルだ。絵空事でなく。店長に思いを寄せる女子高生・あきらの上気した表情もそう。あ、読者が自身を重ねているのは店長ではなく、もしかしてあきらの心情だったりして。

日本経済新聞記者 / 天野賢一

- 女子高生に好かれる！？羨ましいと思う気持ちと、店長の葛藤がわかる自分の年齢が悔しい。

芳林堂書店高田馬場店コミック責任者 / 天野能宏

- 個人的にこういうヒロインが好きです。一所懸命恋する女の子って容姿とかとは別に、可愛く見えますよね。もう応援したくなっちゃいます。でも相手は子持ちのおじさま!? 別に不倫がしたいわけではなく好きになった人に偶々奥様(もう別れてるはず!?)や子供がいただけで…年齢を重ねて忘れてしまった、ただ一途に人を想う真っ直ぐな気持ちを思い出させてくれる一冊。ヒロインと一緒にキュンと切なくなれますよ!

通販部 / 日吉 雄

- 久しぶりに、男性も女性もキュンとくるから読んでみな!とオススメしたくなる作品。とくに私が店長の近藤さんに近い年齢ってのもあるのかもしれませんが、ストーリーも絵も魅力的。あきらが笑うシーンは眩しくてたまりません。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

- 久しぶりにこういう恋愛漫画でツボに入っています。こんな恋をやっぱり体験してみたい…とかいつまでも考えてしまうのが漫画好きの性であり、だからこそこの漫画は漫画好きのみなさんから多大な支持を得ていると思います。

メガマソ / 涼平

- 「恋」は良いなあ、と思います。今後の展開で店長とあきらの恋がうまくいってもいなくても、きっと素敵な記憶として残るんだろうと思います。恋愛ものでもここまで直球ど真ん中なのは、私は久しぶりでした。

会社員 / 林礼春

「ダンジョン飯」九井諒子

選考員コメント・1次選考

- この作者の描くファンタジーがメチャクチャ好きです。鎧騎士のモンスターを調理して食べる発想がヤバイです。各話のモンスターに関するオマケ漫画も必ず書き下ろしてくれる所も好きです。読むとその世界に引き込まれる漫画だと思います。

バンドマン / TA-SHI

- そこを切り取るかという題材。20代後半～40代前半であればどれもこれもツボです。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

- 少し前まで「目の付けどころが」と言えばを〇ヤープさんでしたが、今それを継ぐのは九井諒子先生しかいないでしょう。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- 飯もの漫画にそろそろ飽きがきていたところに出現したビッグバン！こんなにスライムを食べてみたいと思う人生になるとは！！人生やっぱり何が起ころかわかんないし、漫画ってすごいよねー

bar 図書室 店主 / 岡部愛

- 近年流行の「飯もの」系だが、空想世界の（ゲテモノ）怪物を狩り、料理するという発想が斬新。パーティーメンバーの視点で、それぞれの物語が見えるのも面白い。

まんたんウェブ編集部 副編集長 / 河村成浩

- 「愛の感想劇場」を読めた頃が懐かしいです。

マンガ研究 / 会田洋

- 誰もが抱く RPG の疑問への、ひとつの明確な回答…なんてなことはどうでもよく、未知なだけで誰もが知っている食材の味を真剣に検証するというパカパカしさが素晴らしい。身内の死という重いテーマを匂わせつつ、そんなことはすっかり忘れさせる力技に翻弄されるのが気持ちいい。実際。主人公もたまに忘れてるフシがある。たまに入ってくる小ネタに気付くのも楽しい。

医師 / 岸本倫太郎

- 今まで遊んでいた RPG の主人公たちの食事って実はこうだったのかなと思うマンガ。または RPG の世界にクッキングパパが入ったらこうなるのかも。

会社員 / 金子幸恵

- 中3、高3、大学4年。と、将来の進路や就職を考えると頭に浮かぶこと「ドラ○エみたいに、モンスター倒してお金稼ぐ世界に生まれてたらよかったのに…」きっと、福利厚生とか大変と、友人たちにとめられましたが、みんな一度は思った事あるはず！そんな夢とリアルが混じったような漫画とついに会うことができた気分。魔法とリアリティのバランスがちょうどいい。なるほど！そういう生き物は、こうやって生きていたのね！！と、空想の世界なのに目からうろこというのもらいます。空想の食べ物でおなかになったの初めて！という一冊でした

鳥取県 美術教諭 / 佐川由加理

- モンスターなのに美味しそう。それでいて栄養バランスもしっかりしているだなんて！冒険者がしとめたモンスターを食べるのが、当たり前のように感じてきます。よくよく考えると、しとめた獲物を調理しているわけで、これってジビエってやつですか？

教師 / 持丸宏司

- ダンジョンにいるモンスターを調理して食べるとは衝撃的でした。なんでもトライする主人公たちだが、さすがにゾンビは食べないんだなと納得(笑) 異色な飯マンガ。読んだ後にRPGをやるとまた違った目線でゲームができそうです(笑)

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- ファンタジー世界の裏舞台！王道ダンジョン RPG の世界の裏では、退治したモンスターを食べる「モンスター食」が！あのキノコの化け物を！？スライムを干したら！？鎧の化け物も食べられるところが！？等々。なんとなく馴染んできた空想世界も見方を変えると、新しい境地が見えてきます。ファミコン・PC・TRPG と、かれこれ 30 年ほどファンタジーに親しんでいます、この視点はありませんでした。脱帽！

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- 最初に読んだ時、「こうきたか」と思った。グルメ漫画は近年多く見受けられるようになってきたが、ダンジョンに出てくるモンスターを、その場で調理して食べるなんて想像もしたことが無かったからだ。調理するモンスターは RPG をやったことがあれば一度は戦ったことのある姿で、こんな料理になってしまうなんて……と感心してしまったりもある。あの『さまよう鎧』を調理してみようとは、誰が思っただろうか……。また、リアリティを徹底的に追及しているのが惹きこませる。パーティーへの賃金だったり、トラップに使われる油の種類など細かいところも綿密に書かれるから、読み手はこの世界観への興味が尽きない。キャラクターのコミカルな表情も良い。エルフ族のマルシルはゲテモノ料理に嫌だ嫌だと反抗しますが、最後は笑顔で「美味しい！」と言うのだから、見ていてとても微笑ましいです。全体を通して質の高い作品。一度読めばファンタジーの世界の魅力をもっと広げさせてくれる。そんな作品です。自信を持ってオススメできる作品です。

LIBRO ecute 大宮店 コミック担当 / 首藤 瑛

- マンガの素材の組み合わせが抜群で、楽しみながら美味しく読めて、実際に食べてみたいけど決して食べることはできない。ぜひご賞味あれ！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- みんなが子供のころに経験しているちょっと懐かしい RPG のとっつきやすさを最大限に利用した設定、全然食べたくないけれど美味しそうな料理とグルメ漫画定番の蘊蓄&工夫、安全よりも好奇心を優先してしまうオタクの悲しい性、限界を超える挑戦による成長、サークルオブライフへの感謝、なんでもかんでも詰まっているのにこんなに全力でばかばかしい。天才！

主婦 / 小田真弓

- 冒険者とダンジョンと料理というかけ算でどんどん読みたくなる作品

自営業 / 小野ゆうこ

- いくらグルメ漫画ブームとはいえ、倒したモンスターを調理して食うって・・・そんなんアリか！？結果全然アリだった。ちょっと美味しそうだなと思っちゃう自分が悔しい。画力の高さやギャグのうまさも然ることながら、なによりこのとんでもない設定を生み出した久井先生の想像力の豊かさにゾクゾクしてしまう。

醤油製造業 / 小野塚博之

- マンガやアニメの中にしかない「美味しいもの」には特殊な魅力を感じることがある。いわゆるマンガ肉や、ジブリ作品に出てくる謎料理など……。このマンガはダンジョンで出会うモンスターを調理するという完全フィクションの料理がメインになっているのに、なぜか味が想像できる。また、不思議な癒やし効果がある。殺人ゲームや辛い悩み、逆にいうと強い笑いなどが全く無い。どこか淡淡として、キャラクターはみんないい奴で……。殺伐としたストーリーに疲れた時にや、会社で疲れた時に気軽に手にとれる。美味しい薄味だから、期間をおかずに何度も読める。毎日食べる和食のような飽きのこない夢中！

アニマックス 広報 / 西尾 美里

- 名実ともに昨年の話題をさらった作品久井さんのファンタジー要素と生物学見地の結実。

住職・ライター / 蟬丸 P

- とても食べられそうにない迷宮の魔物が素材なのに、名料理人のみごとな調理の腕で、やけに美味しそうに見えてしまうのが摩訶不思議。これも作者のマンガの腕の仕業だろう。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

- 九井諒子ワールド、そうきたか???！という感じです。特にドラクエ世代にはもうたまらない!!!スライムおいしいの?とか暴れ牛鶏的なのなら焼いたら食べられそうとかつい色々想像上のモンスターの味を妄想しちゃいます!

女優・セミナー講師 / 大倉照結

- 毎回毎回、「いったいどうしてこんな面白いことを思いつくんだ!」と驚かされる九井作品の中でも、これはすごく読みやすい題材だなと思いました。子どもの頃から当たり前に存在していた数々のロールプレイングゲーム。モンスターを倒しながらダンジョンを進み…という過程で、その倒したモンスターを食べちゃおうなんて考えたことありましたか?わたしは無いです!ゲーム好きの方はもちろん、ゲームをしない方が読んでも引き込まれる、説得力のある描写の数々にうならされます。とにかく、おなかを空かせて読んでください!

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- 正直、やられた!画力だけでも魅力ある先生だけに、この切り口(「食」漫画&ゲームネタのコラボ)はもう反則(笑)!2015年各ランキング上位なもの納得の一作です。

本と文具ツモリ / 津守晋祐

- グルメとゲームとファンタジーをこんな風に混ぜ合わせて描かれたら、そりゃ面白いとしか言えないってば!…と、初読の時にわくわくしたのを覚えている。架空の材料で作られている架空の料理がどうにもこうにも美味しそう!児童文学や小説や絵本で知った料理と心躍らせるのと同じわくわくがそこにはあって、そこに冒険の面白さと少しのくだらなさ(褒め言葉)加えられて、絶妙のバランスで成り立っている一作。今年、薦めると言ったらこの作品を抜きには語れません。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- ここ数年「コアな漫画好き」に熱狂的に愛されてきた九井先生が、こんなにメジャーになるなんて…!(私も「マンガ大賞」の打ち上げでおすすめされて、九井作品にハマったのですが)みんな投票しているだろうなあ、と思いつつ、この面白さと完成度は、私も一票入れざるを得ません。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- リアリティのあるファンタジーを描かせたら右に出る者はない(と個人的に思っている)九井さんが生み出す、食×ファンタジー作品。…と言っても、読む前に想像しているお話とはかなり・スゴク違うものであること間違いなしですので、ぜひパラリとでも読んでみてほしい作品です。

ホビー会社勤務 / 畑中 瀬路奈

- 大枠の設定だけではなく、細かい着想や会話まで洒脱さが染み渡っている。尖った感性を軟らかく表現する技量にも感服した。

書評系ライター / 福井健太

- 年末のこのマンガがすごいで1位になったのは知っていますが、やっぱり押さざるを得ません。フードまんがとして最高におもしろい。冒険の仲間の珍道中を最高の画力で描いた傑作です。登場するのはゲームにありがちな魔物を素材に、まんがで調理法を描いたメディアミックス料理。おかしなことに私達は、あらかじめ実態を持たない幻の味が一番食べたいのだ。よくよく読むと皮肉すごくも効いていて、作品に通底する批評的な目線がやみつきの味なのです。うまい!

お菓子研究家 / 福田里香

- RPGでダンジョンを攻略している間、主人公達の食事はどうなっているのか、ということが非常に具体的かつ面白く描かれています。スライムやらバジリスクやらマンドレイクやら、絶対に食べたことのない食材のはずなのに美味しそうに思えてしまうのは何故なのか!実際の食材を当て嵌めて、ちょっと作ってみたくなっちゃいます。

図書館司書 / 堀江千秋

- 王道のファンタジーものを、食の切り口で描いたマンガです。昔からなじみのあるジャンルだったので、やられた！こんな切り口あったのか！と衝撃を受けました。そして、ただ斬新なだけでは終わらなくて、斬新な切り口をうまく使って物語としても、とても面白いマンガになっています。もう、なんか、ずるい！って言いたくなるマンガです。ファンタジーが好きな人にも、食べるのが好きな人にもオススメなマンガです。

システムエンジニア / 廣瀬公将

選考員コメント・2次選考

- すごくバカバカしいテーマなのに、何故か説得力がハンパない。

PENICILLIN / HAKUEI

- 他の作品もとっても面白かったのですが、この作品を一番に推したいと思います。モンスターへの見方を一変させる発想に驚きです。ドラゴンに飲み込まれた妹さんを消化される前に助ける為の冒険なので、いつか必ず終わりが来るのは解ってはいますが、ずっと読んでいたい作品です。あと、各話のおまけ漫画もいいですね。

バンドマン / TA-SHI

- 奇抜な設定なのにゆったり楽しめる。

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

- 九井さんのマンガのおもしろさは既に色んな人にお薦めすぎて、推すのを忘れていたぐらいです(笑)初の長編作品ですが、一話一話の緩急や落としどころが素晴らしく、さすが短編の名手と感じます。キャラがみんなじわじわ染み込んでくるような味のある個性で、ストーリーの結末を急ぐよりも、いつも手元においてたまに読んでクスツとしたい、ずっと彼らのグルメな冒険をみていたい、そんな作品です。この味わいを知らない人に、ぜひ手に取っていただきたいですね。

会社員 / 宇田川結衣子

- かねてからの実力に売上が伴ったというのが嬉しい。亜種も雨後の筍のように出てきているが、『ダンジョン飯』が頭一つ抜けているのは、広くて深い作者の想像力の賜物。ファンタジーであって行き当たりばったりが少ないと没入しやすい。

往来堂書店 / 三木雄太

- 悩みに悩んで1位に投票そろそろ九井さん大賞とって欲しいです…今回のマンガ大賞は正直いい漫画多すぎて本当はランキングつけられない…涙

bar 図書室 店主 / 岡部愛

- 料理が登場するときの、影につい笑ってしまいます。食べてみたいような…。

有隣堂 / 桶谷佳代

- テレビゲームのPRGの世界を現実に落とし込んでいくと、「食事の問題」という無粋な話になるのですが、そこにこんな面白い題材があったのかと、気付いた作者の感心します。登場人物が生き生きとして、時には反発しあう人間関係も魅力的だから、思わず一緒に冒険に同行したくなります。

まんたんウェブ編集部 副編集長 / 河村成浩

- 飯マンガのハードルを上げてくれました。

マンガ研究 / 会田洋

- ふざけているように真面目なことをやると、ものすごく面白くなるというお手本のような漫画。いや、逆か。真面目にふざける？とにかく漫画ならではの表現で、もっとたくさんの人に読んでもらいたい。

医師 / 岸本倫太郎

- 細かく設定がねられていて、来年あたりアニメになりそうな気がしました。隙がない完成度。

マンガソムリエ・コラムニスト / 原田まりる

- ドラクエやFFなどなど、RPG好きにはたまらない。最中の会話や価値観がテーブルトークRPGしてたときの、まったく楽しい感じ似てると思う。絶対に体験できないことを追体験してる感じがすき。

鳥取県 美術教諭 / 佐川 由加理

- RPG・ファンタジー世界の舞台裏（ある意味、タブーですらある！）。モンスターを料理する・食べるという発想は、かの「じょうずに焼きましたー」の掛け声とともに広がりましたが、ここまで真正面から扱うと、感心させられます。あのキノコの化け物を！？スライムを干したら！？鎧の化け物も食べられるところが！？等々。ファミコン・PC・TRPG と、かれこれ 30 年ほどファンタジーに親しんでいますが、この視点はありませんでした。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- 茹でたり揚げたりタルトにしたりと、その発想はなかった。モンスターのレシピ本が出たら買いたいくらいです。もちろん、食材は集められませんが！本来は恐ろしいモンスターのはずですが、食材として扱われると急に親近感がわきます。

教師 / 持丸 宏司

- いろんな飯マンガがある中で、まさかダンジョンのモンスターが「食」につながるとは、一本取られた感じがしました。今後どんなモンスターが、どんな調理方法で、食卓に上るのか、楽しみです。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- 九井諒子先生にかかれば、あのモンスターがこんな料理に、アイテムに！ RPG をやったことがある方、ファンタジー世界を知っている方すべてにオススメしたいです。マルシルがモンスターの料理を食べる時の反応がとても可愛くて面白い。

LIBRO ecute 大宮店 コミック担当 / 首藤 瑛

- 発売されてから一年かそこらで、すでに「またダンジョン飯か」という気配が漂い始めているこの化け物感。でもまだまだ広がる余地がある、まだまだ知らない人もたくさんいるはず。間に合うからみんな読んで！ゲームに詳しくなくても簡単にこの作品世界に入っていける敷居の低い冒頭からはじまる、個性の強すぎる…わりに庶民的なキャラクターたちの冒険が絶妙。

主婦 / 小田真弓

- モンスターを調理し食べながらダンジョンを攻略していくというその発想の勝利というか、誰からもケチが付き得ないこのスタイルはもはや「発明」なのでは？セリフではなく、キャラの動きや微妙な表情で笑いとるセンスが最高。久井先生の漫画って本当に面白い！

醤油製造業 / 小野塚博之

- 九井さんの持ち味である、ファンタジー色に竜の学校などで発表された生物学的見地を融合し、近年のグルメ漫画のフォーマットに落とし込みつつも独自性を失わないという希有な作品。組み合わせの妙を遺憾なく発揮して強烈なインパクトを与えた事からも今年度大賞に相応しい傑作でありました。

住職・ライター / 蟬丸 P

- 未だに魂のどこかが狂王の試練場に囚われているし、ダンジョンマスターではスクリーマーとネズミの肉とドラゴンステーキも食ったし Legend of Grimrock も 1, 2 とやり狂ったし、最近でもちょっと毛色は違うがミュート犬のグリルで RAD 回復していたりするので投票しないわけにはいかないなあ、と。ダンジョン飯を食いながら、ダンジョン飯がなりたつその世界の有り様が徐々に開陳されていくのがワンダーだと思う。

ソフトウェアエンジニア / 第弐齋藤

- RPG 好き、料理漫画好き、九井諒子好きの僕が、はまらないわけがない。そこにはもはや、生きるための知恵までもが内包されていると言っても過言ではない。色々な要素なんかは差し置いても、「面白い！」の一言に尽きる。是非とも長く続いてほしいです。

シンガーソングライター / 谷澤智文

- 「ええっ、これ食べられるの？」と訝りながらも、手の込んだ調理の描写に興味津々となり、食べているキャラクターの顔を見ると、本当に美味しそうに見えてしまう。まさに異端の空想グルメ漫画。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

- 自分で読んだときの感動、周囲の人々からの評価、店頭での売れ行き、どれをとっても 2015 年を代表するコミック！と言って過言ではないと思います。コアなマンガ読みの間ではもう十分すぎるほどにファンを増やしてきた九井諒子先生ですが、この作品でもっとライトなマンガ読みの方々にも一気に親しまれることになったのではと思います。もっともっと、みんなに読んで欲しい、わくわくが溢れる作品です！

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- 高い確率で、個々人の「ツボ」にハマる一作。上手い！各賞での高い評価も納得！

本と文具ツモリ / 津守晋祐

- うん。しょうがない。面白いんだから。モンスターは毒多そうだけど肉はうまそうだな（笑）

芳林堂書店高田馬場店コミック責任者 / 天野能宏

- ご飯は大事。冒険も大事。そしてどちらも探究心が大事！

同人誌即売会 眼鏡時空 主宰 / 田中海渡

- 去年はずーーーーーっ！と、この作品を人に薦めて回っていました。それはゲームとごはんとファンタジーのいずれかが好きな人なら、確実に琴線に触れるから。でも何より私が好きなのは、作品に出てくる料理を想像する、その楽しみを思い出させてくれたこと。小さな頃児童書を読み思い浮かべた味は、どれほど美味しそうに思えたことか！そんな楽しみをまた味わうことができるとは思いませんでした。たとえばマンドレイクとバジリスクのオムレツの、あっさりしつつも美しい曲線が、それを叶えたのです。「食べてみたい！」と作中のごはんに向かって思えるって、ほんと、すごいことですよ。そんな個人的な感謝をこめつつ、推薦します。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- あちらこちらで取り上げられているので説明不要かもしれませんが、この世界の冒険者達はきっと何でも食べられると思います！二巻目以降のただモンスターを狩って食べるから栽培したりと進化して行くのも面白いですね。若干癖のある今までの九井先生の作品を万人が読めるように昇華した作品と捉えています。普通のファンタジーものっていつ何を食べているのかあまり描写がないですが、きっと他のパーティーもこんな風に…!? ないですね（笑）

通販部 / 日吉 雄

- グルメ漫画の出版ラッシュのなか、アタマひとつ飛び抜けた存在でした。2015 年を代表する漫画としても、文句なしじゃないでしょうか。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- 子供の頃、RPG ゲームをやりながら「" やくそう" ってどんなものなんだろう？」「勇者達ってダンジョンに何日いるのかな？ご飯は？」なんて考えたりしていましたが、『ダンジョン飯』を読んだら、なるほどそうやって勇者たちは冒険をしていたのか…とすっきりとした気持ちになりました。もちろん圧倒的な画力で描かれるダンジョン内部や、ちょっとオトボケなキャラクター達も魅力的！

ホビー会社勤務 / 畑中 瀬路奈

- センスの結晶のようなユーモアファンタジー。着想と表現の洒脱さが心地良い。

書評系ライター / 福井健太

- 年末のこのマンガがすごいで1位になったのは知っていますが、やっぱり押さざるを得ません。フードまんがとして最高におもしろい。冒険の仲間の珍道中を最高の画力で描いた傑作です。登場するのはゲームにありがちな魔物を素材に、まんがで調理法を描いたメディアミックス料理。おかしなことに私達は、あらかじめ実態を持たない幻の味が一番食べたいのだ。よくよく読むと皮肉すごくも効いていて、作品に通底する批評的な目線がやみつきの味なのです。うまい！

お菓子研究家 / 福田里香

- 皆が今まで疑問に思いつつも真剣に考えてこなかったことを、とても具体的かつ論理的に描いてくれています。それが、こんなに面白いことだったなんて。おなじみのモンスターがいかに美味しく調理されていく様子は、実際に作ってみたいくなるほど。ゲーム好きのみならず、料理好きにもぜひおすすめしたい！

図書館司書 / 堀江千秋

- 王道ファンタジーものを食という切り口で描いている新感覚のマンガです。切り口が面白いマンガは斬新なだけで終わってしまうこともあるのですが、面白い切り口が、魅力的なキャラクター、物語の構成、ファンタジーの舞台とうまく絡んで、すべての要素が掛け算になって、新鮮でかつとても面白いマンガになっています。多分、この切り口がなくても十分面白いマンガなのですが、そこに新鮮な切り口がちょくちょく現れるものだから、脳が揺さぶられてとても気持ちいい。そんな新鮮な驚きに満ちたマンガです。

システムエンジニア / 廣瀬公将

マンガ大賞2016 ノミネート作品

Kiss/ 講談社

「東京タラレバ娘」東村アキコ

選考員コメント・1次選考

- 面白いだけでなくとても勉強になるマンガだと思いました。

PENICILLIN / HAKUEI

- 呪いの書としか思えません。

大日本印刷 / 佐々木愛

- いたいいたいいたいえぐられながらも読まずにはいられない、大好きな作品です。アラサー独身に特に読んでほしい実際に自分の友達はこのを読んでこのままではいけない、と結婚を決めました笑仕事も恋も、前を向いて頑張るだけで進めた20代とは違う。リアルなもがきが読めます。共感の嵐です。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

- アラサー、アラフォー「女子」に、ぐさっと刺さります(笑)

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- 主人公が酩酊すると現れるタラちゃんとレバちゃんの容赦ないツッコミがツボです。

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- 昨年の大賞受賞者を推すのは気が引けなくもない。でも面白いのだから仕方がない。描かれているのは、仕事をしながら東京で暮らすアラサーシングル女性3人組のちょっとアレな恋愛模様。不倫&セカンドに走る女性はいつの時代もある。でも、いま受け入れられているのは、切り上げ時を見失う男女が増えたからか、単純に可視化されるようになったからか、はたまたそういう交際のあり方が肯定されるようになったからか。「働く女性のマンガ」として『働きマン』(安野モヨコ)のB面的な捉え方をするなら、いまを生きる日本人はまだ「身の丈サイズの幸せ人生の型」を見つけれられていないのかも。男性も深く潜って読むといいと思える作品。『ヒモザイル』復活も祈念。

有限会社馬場企画/編集者・ライター / 松浦達也

- 巻が進むごとに面白い！エキサイティング！

アナウンサー / 松尾 翠

- アラサー女子の迷いと痛みにズバッと斬りこむと見せかけて、じつは働く女の希望も描く快作。女が面白可笑しく年を重ねてしまった先にあるイタタナ悲喜こもごももイタ面白いけど、それ以上に働くっていいねと思わされる。四の五の言っても、元気に働いてればなんとかなるわーと背中を押してくれる一冊でもあります。

馬場企画 / 島影真奈美

- つきささる…「～だったら」「そうしてれば～」恋愛もそうですが、仕事や人間関係にもつきもの。東村先生の人の内面を抉る部分で、今までの作品の中で一番直接的でぐっさり来ます。でも、自分の「たら」「れば」に気づいて、後悔のないように突き進めはじめました。30代…30後半から、読むと痛い程 共感するマンガ。ただ自分がこの漫画で変わった部分が大きいので感謝しています。でも…新刊が出るたびに挟られます(涙)

アニメイト 営業支援部 販促宣伝課 / 鈴木寛子

- このマンガを読んだ私の周りの妙齢の独身女性が軒並み心をえぐられてます。男性である自分が読んでも、痛いところをついてるなあ。。と感じるので、主人公たちと近い年齢の女性には、ものすごく刺さる内容なのかなと思います。ただ、その痛みは作者の幸せになってほしいという思いが根底にあるからこそこのように感じます。仕事に、恋に、日々頑張るすべての女性へのエールのようなマンガだと思います。幸せになりたいすべての人にオススメのマンガです。

システムエンジニア / 廣瀬公将

選考員コメント・2次選考

- 主人公の心境にとってもリアリティがあって、物語りとエッセイが混ざりあっているようで入り込んでしまいます。

PENICILLIN / HAKUEI
- いまを生きる女たちの辛さ苦しさ弱さ、みたいなものを描かせたらやはり東村先生がいちばん凄いいんじゃないかと思います。本作の「ダメ女を叱咤激励する物語」という部分は、あくまで表層であって、その奥底に、この国&この時代が抱えている「個人ではいかんともしがたい闇」みたいなものが透けていると思います。それをシリアスに語るのではなく、笑いながら読んでイイというのですから、本当にもう、ありがとうございますとしか言いようがありません！

ライター・研究者 / トミヤマユキコ
- 落ち込み過ぎないからすごい。たぶん。読んだ後もっとすげー落ち込むと思ってたんですよ。軽快に読めて楽しかったです。

金海堂イオン隼人国分店 コミック担当 / 園田美智子
- 本当に今回は悩んだ！決められないくらいいい作品ばかり！もう長い思い入れで投票！結婚したいー！

bar 図書室 店主 / 岡部愛
- このくらい毒気のあるほうが、エンターテインメントとしては絶対に面白い。男性作家には絶対に執筆できないであろう内容で、性別の違いをアドバンテージにした点もすばらしい。最近はおとなしい作品が多いと思うのです。

まんたんウェブ編集部 副編集長 / 河村成浩
- これに投票したくない！（by30 台女子）

会社員 / 金子幸恵
- 呪いの書。男性陣がバカみたいにしか描かれてないのはちょっと気になる点。

大日本印刷 / 佐々木愛
- アラサーが涙せずには読めないなんかもう、なんかもうえぐられて痛すぎるけど愛してる作品恋ってなんだっけ結婚したいけどいい人がいないなんてよく女子会で飲みながら話して満足して帰るそんなことしてるからダメだとわかってるけど今日も女子会へ行くそんなあなたに読んでほしい笑もちろん同じ事を言ってるような男性にも。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳
- えげつない！ですが男目線では普通に面白いだけの漫画です・・・が女性目線ではきっと・・・それだけ現実的でもあり漫画的でもある東村さんならではのブレのない漫画です。ただ今作は（今作ほど）本当におすすめできる人を選ぶ・・・

デザイナー / 佐藤優
- エロでもグロでもないのにもものすごく人に薦めにくい漫画、の筆頭に来るのがこの作品だと思う。むちゃくちゃ面白いんです、ああでも。でもでも。この中の誰の意見が正しいとか、本来はどういう生き方が一番幸せとか、そういうことにはそもそも正解がない。正解のない戦場を生き抜くしかないのは端からわかっている。そんな人生、毒にも薬にもならないものより、ぐいっと煽る猛毒が心地いい時もあるわけで、そういう時におすすめしたい。大人なんだから、飲んだら自己責任で！「かくかくしかじか」や「ママはテンパリスト」は老若男女に手放して薦められる作品なので（しかも両作の振れ幅の大きさがまたすごい）、東村アキコの幅広さを改めて実感させられることは確か。

主婦 / 小田真弓
- フィクションとノンフィクションがわからなくなってくる、なんだろうコレは……。「ここ、笑っていいんだろうか!？」みたいなとこだらけの不思議な作品（笑）

ミュージシャン / 杉本善徳

- 痛い、痛い、痛い、色々突き刺さることが！！！！まるで目の前で見られたような、ピンポイントの出来事に共感しまくっております。

女優・セミナー講師 / 大倉照結

- まさにキレッキレで、明らかにどこでどう終わらせるか決めずに、ノリで突っ走っているのが分かる快作。最先端を疾走する作家の自信の為せる技だろう。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

- 主人公。東京・表参道にオフィスを構える33歳の女性脚本家。その飲み仲間。高校時代からの親友のネイルサロン経営と絶品居酒屋の一人娘……。80年代トレンドードラマもかくやの設定を縦横無尽に食い破る自虐。`渋い`居酒屋が似合う大人の女子会で咲かせる恋バナ、など「行き遅れ女の井戸端会議」(by 年下イケメン人気モデル)でしかないと喝破する身も蓋もなさで、アラサー女子を取り巻く現実にはツッコミを入れまくる。膨れ上がる自意識に打ちのめされた主人公の「死んだ目」は、絵があるマンガという形態ならではの説得力だ。2015年の大賞受賞作「かくかくしかじか」のしっとりとした新境地をくぐり抜け、いっそう冴え渡る超ハイテンションなマシンガントークでイタさ、やりきれなさ、救いのなさを浮き彫りにしつつ、さらにぐるっと1回転してアラサー乙女の不安定であやうい魅力を際立たせるこれはもう確信犯。結婚を、幸せをつかもうと焦り、時に絶望する姿(それは読者の投影でもある)、そのせつなさを突き放し、叱咤しつつもとことん寄り添う作者の姿勢はとても優しい。大賞を獲った作者なのだからもういいか、とならずに今年も推すのはそれゆえに。そしてその優しさは一方で、バカで幼稚な日本の男どもに対する徹底した批評、批判の裏返しでもあるのだ。いつも以上に。暴走ギャグの裏側に潜む東村アキコの怨念と終わりになき悲しみにこそ、男性読者は戦慄すべきなのかも。

日本経済新聞記者 / 天野賢一

- 昨年受賞のかくかくしかじかから間髪入れず、こんな面白いものを世に出せるなんて、どんだけ神が舞い降りてるんだ東村先生、と戦慄。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- 30代~の女子にはドンピシャ。誰しも思い当たるフシあり。「あるある」と思い爆笑しながら読めるのがイイ！

明文堂プランナー金沢野々市店 フロアプランナー / 木村俊介

- 「あんたらの歳だとチャンスがピンチなんだよ」などセリフが鋭いのはもちろん、倫子の体型とか顔とかの造形も(いいんだけど良過ぎない感じ)ジャスト。精度と強度がどんどん高まる東村アキコ。やっぱりすごい！

漫画ライター / 門倉紫麻

- わかっちゃいるけどやめられない。締め切りのようなものを感じて焦りも感じている。幸せになりたいけどどこからまわっている。そんな状態にある妙齢の女性を主人公とした物語です。これを読んだ主人公と年の近い女性は思い当たる節が多いのか、痛いところを的確に突く内容にやられてしまうのか、屍累々。とてもコミカルでテンポがいいのに、読むのが怖いマンガかもしれません。でも、このマンガがこれほど痛いのは、仕事に、恋に、日々頑張る女性たちへの作者からの本気のエールだからだと思います。愛に満ちたマンガだと思います。幸せになりたいすべての人に。

システムエンジニア / 廣瀬公将

マンガ大賞2016 ノミネート作品

少年ジャンプ+ / 集英社

「とんかつ DJ アゲ太郎」原案／イーピャオ 漫画／小山ゆうじろう

選考員コメント・1次選考

- 「親父！！俺とんかつもフロアもアゲられるおとこになりてえんだ！！」って格好良過ぎでしょ

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部 大介

- 趣味と本業の二足の草鞋を履くスタイルに共感しました。

マンガ研究 / 会田洋

- " とんかつを揚げるのとフロアーをアゲるのは同じ " という謎明言が決して出オチで終わることなく、意外イマドキ王道の少年マンガ。特に 3 巻は努力・友情・勝利を非常に高い完成度で読ませる一冊。

往来堂書店 / 三木雄太

- DJ ととんかつという奇矯な組み合わせながら、案外音楽マンガとしてもしっかりしてる……ような気が……しなでもない……。DJ とかそういうの全然分からないので適当なこと書いてますが。

ライター / 芝田隆広

- とんかつとDJ、なんの関係もないように思えるのだが、いやはや多少(かなり)強引なストーリー展開にいつのまにかのめり込み納得させられ、最後にはアゲられてしまっている。もうネタはないだろうと思っていてもあの手この手でやはり強引にアゲていく。この手腕おそるべし！いったいいつまで続くのかという意味も込めて今後がとても気になる作品。

あゆみ BOOKS 青葉通り店 副店長 / 土屋修一

- 読み終わる頃にはどうしようもなく頭が揚げ物でいっぱいになってしまっている。。

カメラマン / 平沼久奈

選考員コメント・2次選考

- タイトルか推測するなかれ！ギャグ漫画ではあるものの、いやはや王道な友情・努力・勝利があるじゃないですか！
tetote 代表 / カ丸 真
- ギャグマンガじゃなくてビックリして（ごめんなさい）、クラブに戻りたくなくて、今、周りのクラブ好きおっさんにすすめています。
Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ
- " とんかつを揚げるのとフロアーをアゲるのは同じ " という謎明言が決して出オチで終わることなく、意外イマドキ王道の少年マンガ。特に 3 巻は努力・友情・勝利を非常に高い完成度で読ませる一冊。
往来堂書店 / 三木雄太
- 趣味と本業の二足のわらじに共感しました。
マンガ研究 / 会田洋
- わーい、たーのしー！！DJ も落語も趣味でやっていて、渋谷に住んでたこともある人間としては、マイ・マンガ感がすごいのですが、じつはそれぞれのディティールが絵のシンプルさとは裏腹に、実に正しいんです！あー、オレもとんかつだけ揚げてないの、始めるべきですかねぇw
ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記
- トンカツとDJのくみあわせがこうなるとは！意外すぎて、笑ってしまいました。クラブカルチャーに興味ある人にも（ちょっと）オススメです。
会社員 / 金子幸恵
- 出オチかと思いきや、つつい読み進める中毒性がある。登場人物全員がキュート。
大日本印刷 / 佐々木愛
- ドゥンドゥンプチプチジュワー。紙面に広がるビートと油裂音に、否が応にも食欲とともにテンションが上昇する。奇抜な設定ながら努力・友情・勝利を押さえた王道少年漫画。とんかつを使って現在のクラブシーンを切り取る発想は秀逸。
弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一
- 一言で説明すると、とんかつ屋のせがれがひょんなことで出会ったDJの世界に魅せられ、とんかつ屋になることとDJになることの両立を目指していく……という何をいっているのかなお前は、と思われると思います。このマンガは、アゲ太郎という主人公がかないそうも無い夢に向かって地道にこつこつと自分を磨いていき、仲間を見つけ、回りも巻き込んで皆を幸せにしていって、読んでいてとてもハッピーになるマンガです。なんだろう、地味なんだけどすごくぶっとなで面白いんだなあ……。あと、読んでいて無性にとんかつが食べたくなります。単行本のポスターといい内容といいとんでもない飯テロマンガ。おすすめです！
啓文堂書店 本社勤務 / 山川美香
- とんかつとDJというキワモノ的コラボレーション、ヘタウマ系の画風と、いわゆる「出オチ」な作品になりがちに見えて、案外息切れもせずしっかり構成しているのは好感。何気にけっこうしっかり作られたマンガだと思う。
ライター / 芝田隆広
- まず、タイトルがいい。しかも内容がそのまんま！ クラブDJの仕事をとんかつの直喻一本で押しまくるという力技、しかもそれがハマっているのだから、アイデアの勝利と言うしかありません。この手の「ありえない組み合わせ」とマンガの相性の良さをとことん楽しませてくれる。最初は、いくらなんでもこの絵は……と思いましたが、だんだん描く方にも自信が出てきたのか、5巻あたりは迷いのない堂々とした線。こうなるとかえってオシャレに見えてくるから不思議です。私のような「クラブには行ったことないが、とんかつ屋は大好きだ！」という人間さえも、見事にアゲていただきました。
読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局 専門委員 / 石田汗太
- 自分で押しておいてなんだが、まさかのノミネートに驚いている。しかし冷静に考えてみれば、笑いあり、友情あり、ライバルとのバトルあり、涙……はないかもしれないが面白い漫画の要素が全て詰まっている。これは妥当な選出だったのかもしれない。ついにアゲ太郎の時代がやってきた！のか？
あゆみ BOOKS 青葉通り店 副店長 / 土屋修一

- 「とんかつ屋とDJって、同じなのか!!!??」最初に主人公が悟った時のセリフ。この作者、頭大丈夫か。と思ったのが私の第一印象。完全に物語が続かなそうだな、と思いました。笑ったけど。しかし、話を読み進める内に、ギャグ要素がない（そもそもの設定がギャグ、なのに物語は至って友情・努力一直線）。読む側も、ついつい熱くなって感情移入してしまいます。そして、話の中で出てくる哲学観。一見、ギャグに見えるのですが、妙にいいことを言っていてムダに心に響きます。画とはギャップのある読み応えを与えてくれる物語に注目です。

広告会社 プランナー / 平沼 良章

- とんかつに対するほとばしる情熱！

カメラマン / 平沼久奈

- 渋谷のとんかつ屋の跡継ぎがDJとしても、とんかつ屋としても成長してゆく物語です。出会い、学び、努力、成功のサイクルが連鎖してゆく、成長物語の王道ではあるのですが、そのテンポがとてもよく、とても気持ちが良いのです。そして、登場するキャラクターもこれまた、気持ちのいい魅力的な人達ばかり。読んでいるといつの間にか自分の気持ちもアゲられて、ついでにとんかつも食べたくなる。とんかつDJというものを体感できるマンガです。

システムエンジニア / 廣瀬公将

マンガ大賞2016 ノミネート作品

アフタヌーン / 講談社

「波よ聞いてくれ」 沙村広明

選考員コメント・1次選考

- この作者のギャグセンスと書くテーマの幅広さが好きです。イマイチ幸せになれないミナレさんのマシンガントークと、本当に身もフタもない思考は中毒性があります。

バンドマン / TA-SHI

- 迷いつつも、結局「やってやらあ精神」論で生きてる女性をみると、とてもたのもしく、とても励まされる。基本、沙村作品に登場する女性は気高く美しく、そして強い。最高ですね。ありがとうございます。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

- なにがどうなったらそうなるのかという最高のドタバタっぷり。みんな必死で、みんな笑える。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- こういうのを本当に待ってました！セリフ力が違いますね〜、本当に最高！細かいとこの笑いもたまりません！！ちなみに作中のカレー屋のモデルの店舗が新宿にあります。行くとそのままなのでかなりテンションがあがります！

bar 図書室 店主 / 岡部愛

- 音の出ないメディアであるマンガなのに、マシンガンのごとき「しゃべり」がはっきり聞こえてくる！すごい技術点の高い作品と思います。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

- 読んだ瞬間に、これが今年の一押しになるな、と思いました。とにかく読者を掴んで離さない物語の力と勢い、読んでいる時のドライブ感。一話ラストは特に神がかって感じました。今最も続きが楽しみな作品です。

事務職 / 工藤圭

- うまい。面白い。以上。他に言い様がない。天才の仕事です、というしかない。テンションが高く勢いがあるけど行き当たりばったりの話のようでありながら、ギャグかと思っていた場面が伏線になっていたり、考えつくされた緻密な展開のようにも思える全く逆のベクトルを同居させてしまうのだから、恐れ入る。とにかく読んでみて、としか言い様がない。

丸善ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

選考員コメント・2次選考

- 主人公のミナレ姉さんが一人部屋の中で「うお??」と泣くシーンがかなり好きです。作者も「人が死なない漫画」と言っていますので大丈夫かと思いますが、初めて読んだこの作者の作品は「ブラッドハーレーの馬車」なので、油断せずに毎回読んでいます。とりあえず読んだ後、世界の見え方が若干変わってしまうかもしれませんが、中毒性の高い作品です。ミナレ姉さんの生涯をずっと読んでいきたいですね。

バンドマン / TA-SHI

- テンポよく進むストーリーと小ネタと台詞センス、沙村先生の新ジャンル漫画かな、万人にウケる作品だと思います

tetote 代表 / カ丸 真

- テンション高く、勢いだけで描いているかのようでありながら、しっかり先の展開を計算しているようでありながら、実はそうでもないような、読んでいてそんな不思議な気持ちになる。台詞のセンスが絶品だし、キャラクターの造形の巧みさも素晴らしい。文句のつけようのない作品です。

丸善ジュンク堂書店営業本部 / こいそひろし

- 希望を抱いて外に出た少女たちが直面する、苛烈な運命を描いた『ブラッドハーレーの馬車』とか、少女の仇討ちに不死の男が伴って全国を行脚し、激しい戦いを繰り広げる代表作『無限の住人』といった、ハードでシリアスな雰囲気のある作品を描いて人気と見られがちな沙村広明。一方で、『ハルシオン・ランチ』のように、何でも食らう宇宙人の少女を核にして起こるドタバタを描いたギャグ系の作品もあって、それがシリアスな作品と同じ絵柄で綴られるため、ギャップも含めて笑わずにはいられない。 どちらの系列が沙村広明にとって本流なのかは判断が分かれそうなところだけれど、ここに登場した『波よ聞いてくれ』を読む限りでは、『ハルシオン・ランチ』から引き続いて、ギャグにこそ自身の資質を見出し、打ち出していこうとしているとも思えてくる。 詐欺まがいの言動を繰り出してきた彼氏に50万円もの金を持ち逃げされた、スープカレーの店の店員で25歳のミナレという女性が、飲み屋で酔っ払って居あわせた中年男を相手に散々っぱらくだを巻き、愚痴を言い、それを忘れて目覚めて出勤したカレー屋で、流れてきたFMラジオの放送に驚いた。どうやら自分のことらしい。おまけに自分の声らしい。 実はくだを巻いていた相手がラジオ番組のチーフディレクターで、ミナレを相手に呑んでいた時に録音した男への罵倒を、そのまま放送したらしかった。聴いたミナレは遅刻続きでカレー屋を首になりかけているのも構わず、職場を飛び出してラジオ局へと駆けつけ、そこで録音を止めようとしたら、チーフディレクターから放送を止めるなら自分が引き継いで喋れと言われた。 その時は勢いもあって、自分の声の録音を引き継ぐように生放送で言い訳をしつつ、男への啖呵もしっかり切って場を取り繕う。完全に素人の乱入でしかなかったものの、その時の話しぶりがチーフディレクターにピンと来たのか、もとより飲み屋でのしゃべりを録音していた時に声に何かを感じていたのか。チーフディレクターはミナレにラジオに出てみないかと誘う。 ある意味で、ズブの素人が意外な才能を認められ、駆け上がっていくシンデレラストーリーだけれど、始まりが飲み屋で元彼への罵倒で、カレー屋では仕事ぶりは認められても、性格が開けっぴろげでズレまくっていたりするミナレが主人公だけに、一本道を駆け上がっていくような爽快さはなく、かといって挫折を繰り返しながら這い上がっていく悲惨さもない。 酔っ払って階段で倒れて、同じアパートの住人から助けられていたのを勘違いして、自分が頑張っただけで部屋までたどり着いて、着替えて寝ていただけだと思い込んだりする自己中心派。そうしたシチュエーションを織り交ぜ、キャラクターへの笑いを感じさせながら、それでもじわじわと外堀を埋められ、内側からも溢れる何かがあって少しずつでも進んでいく楽しさと確かさが、展開から滲んできて引き付けられる。 泊めてもらっている女性のADが飼っている亀の世話を安請け合いしたら、とんでもなく几帳面に世話する方法をメモに残され戸惑ったりする描写のぶち込み方も愉快。そんなフックを手がかりに進んでいった先で、謎めく女性が現れたり、ラジオが本決まりになりかけたりしてまずは第1巻。続く展開でミナレはどんな活躍を見せるのか、それともやっぱり粗忽ぶりを炸裂させて、笑われながらもそれでしっかり自分を表現していくのか。そこが気になる。 居場所のなさや悩み、個性の薄さに迷う人とか読めば、きっと自分をもっと炸裂させていこうと思えるかもしれない物語。ただし、ラジオで自分の恥ずかしい部分をさらけ出す有機は、なかなか生まれなさそうだけれど。そこで開き直れるミナレだからこそ、きつとすごいことをやってくれそうな気がしている。どうだろう。

書評家 / タニグチリウイチ

- 畳み掛ける笑かしネームと、アクションじゃなくても圧倒的な画面。全方位にむかって面白すぎて売り方がよくわからないほどだった(けどちゃんと売れた)ので、こういう賞をきっかけにもっと広い層に届いたら嬉しい。

往来堂書店 / 三木雄太

- ラジオの話、カレー屋の話、色々な切り口があるかもしれませんが『波よ聞いてくれ』魅力の本体は台詞回し、やり取りの妙ではないかと思うのです。テンポ、ボキャブラリー、何故か全員がニッチな知識を持っていたりと、ものすごく実在感のある会話がクセになります。

株式会社アニメイト 町田店 / 岡ノ部亭 真泰

- 新宿のスープカレー屋にいったら本書が！取材に使われた店でした！そんなカレー好きな俺にもマストな一冊！

作家 / 海猫沢めろん

- 先に言います、ラジオ局の人間からすると、フィクションだらけです！！特に、地方局の深夜番組のラジオ CM があんなに高い、って思われたら、民放としてはうっすら営業妨害とすら！しかし！その一方で。これを「痛快」と感じてくれるのであれば。間違いなく、あれはラジオです！自分ですら、10 秒後に何を喋っているのかわからない、それは、水島新司先生が、岩鬼のスイングが素晴らしすぎて三振の予定をホームランにしてしまうように、ものを作るという営為が、箱庭をつくるんじゃないで、と、「世界を受信する」ってことであるのは、ラジオもマンガも同じなんじゃないかなあ、と思うのです。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

- 勢いでダントツこれ！と思って選びました。最初からぐいぐい惹きつけられる熱さ。一話めなんて本当に見どころしかないって感じですが、とりわけクライマックスはゾクゾクしました。先が読めず、本当に続きが楽しみです。クセがあるけれど魅力的なキャラクターたち、台詞回しの軽妙さ、シリアスタッチの絵柄とコメディドラマ的なストーリーのギャップの面白さ、どこをとっても一級品！まだ一巻しか出ていないながら、強い魅力のある作品です。

事務職 / 工藤圭

- ミナレさんみたいにしゃべれたら気持ちいいだろうな、それはそれで大変そうでもあります…。普段ラジオはほとんど聞きませんが、ミナレさんのラジオ聞きたいです！

主婦 / 紺野 泉

- ハイテンション過ぎて一気に駆け抜けました。この後どうなるのか想像も付かない作品です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- グイグイ読み手を引き込むのは、主人公・鼓田ミナレのキャラクターなんだろうな。これから彼女がどう成り上がっていくのか見届けたい！

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- 全く読んだことのないタイプのマンガで、読み進めるたびに新しい発見がある、不思議なマンガ。ラジオ好きにはたまらない、ラジオの魅力がガツンと伝わってくるシーンがあると思えば恋愛もあり、ギャグもあり、人生を考えさせる場面もあり…！とにかく読み応えがあるし、先が気になる。第一話のタイトルが「お前を許さない」って！タイトルのインパクトどおりの強烈な女性が主人公。彼女の「しゃべり」に気づけば夢中に…どんどん好きになっていく。彼女の生き様に。このラジオ番組聞いてみたい…

アニマックス 広報 / 西尾美里

- 「お引越し」の竹易てあし名義かと思いきや、沙村 広明名義で現代劇とくれば何をさておいても読みたい作品、軽快なギャグや掛け合いだけに止まらずキャラクターの人間像を丁寧に描いており、テンポの良さとドラマ性の強さで一気に読ませるワザマエに笑いつつも唸るばかりという総合力の強さは流石でした。

住職・ライター / 蟬丸 P

- こんな素敵なマンガを大賞の候補に挙げようという酔狂極まりないクレイジーな連中がこんなにいた事に感謝したいです。ありがとうマンガ大賞！

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

- 狂乱と重厚を描き分ける達人が " 前者 " に徹した（例によって身も蓋もない）業界コメディ。独自のギャグとリズム感が一つの世界を成している。

書評系ライター / 福井健太

- 私は沙村先生のマンガは全て大好きです。普通なのにエロい、グロいのに笑える、シリアスなのにコメディ。表現、描写の全てが天才。よって、沙村先生のマンガは全て傑作と断言できるのですが、天才が故、その豊かな表現力は常に凡人の斜め上の遥か先をいっており、世の中に広く受け入れられるのは難しいのかな、と思っていました。（無限の住人は若干別）しかし、この「波よ聞いてくれ」は人間味溢れるドタバタコメディ。バーで愚痴っていた主人公のミナレの話が面白くて、そのままその場にいたラジオ局のプロデューサーが電波に流す、という話なのですが、この主人公のダメな感じと、出会う人出会う人と紡ぎだされるドタバタストーリーが非常に読み応えがあり、かつ、さらっと読める。また、話の舞台やテーマやストーリーもスケールしてるのか、していないのか、物凄く身近に感じます。あー、こんな女いるわー、みたいな。珍しく、幅広い層に受けられそうな沙村先生のマンガだと思います。よって、ダントツの 1 位。実写化して。

広告会社 プランナー / 平沼 良章

- カレー屋の話かと思いきや、ラジオ DJ になるといったストーリーに期待を持ちつつ。鼓田ミナレがこれからどんなラジオ DJ になるか期待。中盤でラジオでしゃべるシーンが面白い。北海道という場所がまた期待大。まだ序盤で評価の難しい所でしたがこれからが楽しみです。

デザイナー / 平沼寛史

- よく知らないおっさんに失恋の愚痴を話したことから始まるドタバタ劇……。まずは沙村広明先生の絵を見ていられるだけで仕合せ。時代考証的なものは脇に置いたハチャメチャ時代劇の「無限の住人」も大好きだけど、初期の「おひっこし」を思い出させる脱論理的なギャグがこんなふう to 花開くのかと思うと毎回読むのが楽しみで仕方ない。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

- 惜しむらくは、本当に惜しむらくは 2 巻までコミックスで読んでから投票したかった。まずスピード感が素晴らしい。車じゃなくてバイクに乗ってる感じ。そしてヒロインのミナレさんはダメ人間で、魅力的です。真剣なのに可笑しい。次巻が待ち遠しいです。

会社員 / 林礼春

マンガ大賞2016 ノミネート作品

ヤングコミック / 少年画報社

「百万畳ラビリンス」たかみち

選考員コメント・1次選考

- SFとしてもミステリとしても読めるコミック。登場人物の行動が推測→実験→検証の手順を踏んでいるのは知的刺激を受けて快い。ラストのちょっと切ない雰囲気も素敵です。

文教堂書店浜松町店コミック担当 / 金田健太郎

- 端的に世界観を表した表紙イラストから印象的ですが、非力な主人公が突然迷い込んだ不思議な世界で機転を利かせて謎を解いてゆく、という設定がまずわくわくするものですが、それを上下巻とコンパクトにまとめきったのが素晴らしいと感じました。

事務職 / 工藤圭

- 作品世界の設定とそれを生み出した発想力にただただ脱帽。突拍子もない設定にもかかわらず話の展開が終始淡々としているので、非日常の世界の中に何とも言えない日常感が醸し出されていて面白い。ゲーム上手な人のプレイを横で見ているのが好き、みたいな人におすすめしたいです。

醤油製造業 / 小野塚博之

- いやはや、タイトル通りとは恐れいった。上下2巻だけど物語の終着地点がまったくよめないわくわく感を感じられたSFマンガ。タイトル通り「百万の畳からなる大迷宮」がある世界がものすごい精度・確度で可視化されてた。

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

- この漫画、完全にノーマークだった！こんな面白い作品があるとは…上・下巻で終わらせるのがもったいない。いや！上・下巻で終わるから面白いのか！？どんな物語かは説明が難しいので、とにかく読んでください。

あゆみ BOOKS 青葉通り店 副店長 / 土屋修一

- ゲームの仮想現実のような世界のストーリー。主人公ともう一人の友人で冒険をする姿が好感を持てます。上巻でリアルとゲームを連想しつつも、下巻で「そうなのか」と思わせる展開。上下巻の構成も非常にうまくまとまっています。ヒロインと友人の友情もまたぐっとくるものがあります。上下2巻ですが、読みごたえもあり、おすすめです。

デザイナー / 平沼寛史

- 迷宮的世界に迷い込んでしまった二人の女性がそれぞれの特性を活かして脱出を試みる。だんだんとゲームのようになぞが解けていくとともに、ぐいぐいと物語の世界に引き込まれていく。この物語の結末がもたらす種の爽快さは唯一無二のものなんじゃないだろうか。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

選考員コメント・2次選考

- いい！すごいいい！！女の子(?) 2人が「謎の迷宮」から抜け出そうとしている課程を楽しむ話だと思ってました、さいしょは！！何の予備知識もなく読んでいただきたいので、とりあえずすごいよ！っていうことだけお伝えできればと思います。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

- コミュニケーションについて、「異質」な存在について、非常にうまく描いてある。現実でも、同じ環境で育った兄弟の内、1人だけが世界を放浪したり、犯罪者になったりと、他とは違う「異質」な存在というのはよくある話だ。最初は主人公の礼香に感情移入して、わくわくしながら冒険をするが、やがて大多数の読者は礼香の思考についていけなくなり、自分が巻き込まれた同居人の康子である事を知る。「異質」なものと無理にコミュニケーションを取ろうとしても、お互い理解ができないので不幸にしかない。それぞれの場所で暮らすしかない。そんな悲しい現実を描きながら、読後感は爽やかである。

丸善ジュンク堂書店営業本部 / こいそひろし

- ひとりでゲームをするのが好きだから、ゲームのプレイヤーはコミュニケーションが苦手とは限らないし、オンラインゲームで見知らぬ人とワイワイできるから、ゲームのプレイヤーはコミュニケーションが得意だとも限らない。 とはいえ、ゲームという架空の世界で、架空の人々なり架空の神々なり架空のモンスターなりを相手にすることに慣れ親しんだプレイヤーが、計算の成り立たない先の見通せない現実を相手に戸惑いを覚え、無能をさらけ出す可能性は皆無ではない。むしろ高いとすら言えるかもしれない。 逆にいうなら、ゲームという架空の世界で起こることに強く触れ、ひたり溺れきったプレイヤーには、そうした世界が再現されている限りにおいて、無敵を誇れる可能性があるということなのかもしれない。そんなことを、たかみちによるマンガ『百万畳ラビリンス』から思い浮かぶ。 ゲーム会社でデバッガーのアルバイトをしている大学生の礼香と、同居人の庸子が気がつくと、そこは自分たちが暮らしている社宅にそっくりの、ボロアパートの畳敷きの部屋が幾つもとこまでも連なった空間で、上に行っても下に行っても脱出はかなわず、見渡せば樹海ばかりでどこにも行けそうにもない。中庭めいた場所に落としたものが上から振ってくるような、不思議な現象にも遭遇する。 そこはどうやら何かのゲームを模した世界だと、礼香は気付いていたようだけれど、モニターの向こう側に広がっているゲームの世界を遊ぶのと違って、実際にそこにいる礼香や庸子にとって、決して安全な世界とは言えなさそう。そして樹海の向こうに見えた建物にどうにか部屋に転がり込んだ礼香と庸子は、ネットを介して連絡のついたゲームデザイナーの男から、そこが密猟者なるものによって作られた世界で、なおかつバグとして生まれた裏世界だと教えられ、別に表の世界もあって、そこに捕らえられた人間たちを解放し、人類を密猟者の手から救うように言われる。 とはいえモンスターと戦うための武器めいたものはなく、密猟者にたどり着く術もない。そこで礼香のゲームに耽溺し続けて得た知識と、ゲームの中で無敵に振る舞ってきた性格が大きく生きてくる。他人とのコミュニケーションは苦手でも、ゲームのことになると途端に前向きでアグレッシブになれる礼香は、高い場所でも平気で上がり、ルールに従うように動くルームシャークを避けつつ倒しもしながら、まずは密猟者にさらわれた人間たちがそことは知らず暮らしている表世界にたどり着き、そこから密猟者たちの本拠地へとたどり着くために必要な行動を取り始める。 その様子はまるでゲームをプレーしてるかのよう。他人に配慮し状況を不安視できる当たり前の感性を持った庸子は、礼香の無敵で無謀な振る舞いを心配もし、そしてその言動が礼香の無茶をサポートしたりもするけれど、そうした互いを補うコンビネーションも、礼香の果てしない無敵ぶりにやがて行き詰まり、別れの時が訪れる。 ふと我に返って、己の無敵さが他人を不安にしていることに礼香は耐えられなかったのか。それとも自分が伸び伸びとやれる環境が欲しかったのか。いずれにしても、異常な状況、異様な空間に直面しながらも自分を変えず思いのままに突き進んでいった礼香の精神を見るにつけ、心底からのゲーム好きで、なおかつゲームの世界にしか真実を見つけられないような人間が、この世界には存在するのかもしれない。 ゲームのルールをバーチャルからリアルへと引っ張り出して、そこに放り込まれた人間たちの戸惑いを描いた作品のひとつであり、なおかつファンタジー的なPRGの世界に放り込まれるのとは違った、奇妙な世界観を設定し独特のルールの上で行動させるという、想像力を発揮して描かれた希有な作品。それが「百万畳ラビリンス」だと言えるのかもしれない。 何でもありの状況にあって、決して美貌とはいえなかった自分をそれなりなスタイルに変えることができたにも関わらず、庸子が自分は自分だと言って元通りの自分に戻っていった姿に、それが人間として普通なのか、それとも何でもありなら何でもやってしまう礼香が正しいのか、少し迷ってしまう。自分ならどちらになり得たか。そして世界を救えたか。考えたい。

書評家 / タニグチリウイチ

- 迷宮ファンタジーなのかと思ったら、むしろ SF に近い領域だったのでうれしくなった。ゲーマーなら必ず楽しめること請け合いの、リアルダンジョンワールド。でも設定だけに頼るのではなく、登場人物 2 人のユニークさがうまく物語を回しているところがまた面白い。彼女たちだからこそその展開と着地。作者の頭の良さに脱帽。

主婦 / 安田奈緒美

- 普段手に取らないジャンルではあったのですが、綿密に練られたであろう設定や展開に、読みながら思わず唸ってしまいました。すごい、よくできてる！ゲームをやりこむ系の方が読むとすごく不思議な共感があると思います。女の子たちが生身で夢か現かわからない世界に飛び込んで、小さなことでも試行錯誤してひとつひとつ冷静に解決していく様は、なんかちょっとカッコいいです。上下巻でこんなにきれいに描ききっているのもカッコいい。あとオタクの描写がリアル。

会社員 / 宇田川結衣子

- マンガ大賞の動機がなければ読まなかった作品その 2。よく練って作られた設定と可能性の広がりを感じられて面白かったです。誠実な作品。もっと評価されてほしいという意味での投票です。

株式会社来知 WEB デザイナー / 河本 智芳

- 畳！日本人なら畳！それだけで推せる！畳！

作家 / 海猫沢めろん

- たかみち先生は女子の絵がかわいい！と以前から思っていて画集は全部持っているんですがマンガはしっかり読んでことがなくノミネート作品になってなかったら読んでなかったかも。いやー、読んでよかった！良書！閉じ込められてのに悲壮感がなく気が付けば冒険のワクワクに無理なく巻き込まれているところがすごい！アニメ化してほしい！夏休みに劇場で！みたいな。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川元良

- 漫画読みにはたまらない面白さです！不思議な世界観。SFとも言えるし、ゲーム空間とも言える。その中に閉じ込められた主人公達がどう“生きる”のか選択していく。上下巻でうまくまとめられていて、そして読後感もいい。読み終わった後にもう一回読みたくなる作品。この巧い構成に感嘆。

三省堂書店海老名店・嘱託社員 / 近西良昌

- 普段マンガを読まない方におすすめしたい作品です。こんなタイプの面白さもあるんだ、と感じていただけたと思います。パズルやミステリが好きな方は特にオススメ！！

文教堂書店浜松町店コミック担当 / 金田健太郎

- 凝った設定で大河ドラマのように長大に描かれる物語が多い中、長編にも出来る壮大な設定をこれほどコンパクトに、それでいて美しくまとめている作品はそうそうないのではないのでしょうか。たった 2 冊の中に主人公たちが閃きと機転で危機を乗り越えるカタルシス、心の機微、熱い展開全てが詰め込まれていて、読後の満足感は相当なものでした。もっと評価されてほしい！（……と思いつつ、発売から日が経ってまた徐々に平積みされている書店が増えてきていますか）

事務職 / 工藤圭

- 毎年のマンガ大賞必ず出会う、自分では絶対に手に取らなかったらうマンガがまさにコレ。出会えてよかった??

凸版印刷株式会社 / 紺野慎一

- 自由な展開でありつつも極めてゲーム的な展開が、読み終わった後にゲームクリアしたかのような不思議な感覚にさせてくれる漫画です。世代によるところもあるかもしれませんが、この 1～2 年で増えてきたように思えるカテゴリーの中で一番、制作者サイドにまで突っ込んだところが“尖り”として楽しめたので推薦させて頂きました！

デザイナー / 佐藤優

- 脱出モノに加えられた巧みな設定に、一気に読み終えさせるストーリーの潔さが目を引く。艶めかしさも垣間見える主人公たちや、かの「ニコちゃん大王」を彷彿とさせる「彼ら」のキャラクターによって、無機質な世界が際立っている。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一

- ゲーム世界に迷い込んだ話、脱出ストーリーか、なんて軽く考えていたら、あれ？ と思う度にあさっての方向へと進んでく。まさに迷宮に放り込まれた感じ。ちゃぶ台だから畳なのか。畳だから、ちゃぶ台なのか。ゲームとSFが好きな人は是非。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

- 不思議な世界観、どこを歩いても同じ風景……。 そんな場所をいったりきたりする二人の冒険？に、次第に目が離せなくなりました。 不気味で奇妙な場所のほずなのに、音の無い静寂な雰囲気が妙に心地よかったり。 一気読み間違いなし。色んな方にオススメできる作品です。

LIBRO ecute 大宮店 コミック担当 / 首藤 瑛

- 「？」と頭にでっかいクエスチョンマークが浮かぶ所から始まるが、すぐに話に引き込まれ、結末ではアッと驚く。こんなに面白い話がある魅力が余すことなく上下巻にすっきりと収められているって事が本当にすごい！ ちょっと不思議な SF モノが好きな人は是非読んでみて欲しいです。

醤油製造業 / 小野塚博之

- 自分の頭の中はきっとこんな感じなのじゃないかな？と可視化された気分です。夢の中の非連続体って結局頭の中のいろんな考えを構築するための整理して整理しきれてない、いうなればそれが発展したりすたれたりすることでものづくりになるんじゃないかな？などとプログラムを書いてたり構造を書いてたりする時に思うことをこの話を見ていて思いました。ああきっとみんなこんな感じで頭の中もやっとしてるんだろうな。

スタジオフーズ / 小林智之

- こんな迷宮に憧れる気持ち、きっと誰にでもあるんじゃないだろうか。作者のたかみちさんが本当に楽しんで描いているのだろう、勢いを感じた。舞台、ストーリー、キャラクター、それぞれの引力も凄まじく、ページを捲る手が止まらなくなる。

シンガーソングライター / 谷澤智文

- 彼女たちが迷い込んだのは、それはまあ不可思議な世界であったけれども。でも、そんな世界を垣間見た後で考えてみると、僕らが暮らすこの世界もそれはそれは不思議なものです。

同人誌即売会 眼鏡時空 主宰 / 田中海渡

- 畳の部屋のラビリンスというとんでもなく狭く、そしてある意味とんでもなく広大なフィールドに登場人物はほぼ2人。これで物語をこんなに面白くしてしまうのだからこの作者の力量には脱帽する。絵柄の綺麗で読み易く上下で簡潔にまとめられている点も高評価。SF漫画好きにぜひオススメしたい！

あゆみ BOOKS 青葉通り店 副店長 / 土屋修一

- 最後まで読んで、「なるほどそういう話だったのか！」と納得しました。脱出ゲームという設定は、作者が世界に対して覚える違和感のようなものを表現する手段に過ぎず、コンピュータゲーム世代の真摯な世界観こそがこの作品の魅力なんだと思います。“ちょっとフツーでないひと”がみている世界の仮想体験として捉えたと、これまたセンスオブワンダーにあふれた見事なSFマンガです。

会社員 / 末永龍介

- ゲーム会社でバグチェックのバイトをしている礼香と庸子が突然見覚えのない世界に連れてこられてしまう……。SFは詳しくないけれど、そんな私でも、転送先の異空間での冒険とか、宇宙人のペットとしての人類とか、そういうのはなにか既視感を感じてしまう。でも、この物語に出てくる礼香が選んだ結末はなんだか好きだ。涙が出るとかそういう圧倒的な感動ではないのだが、過不足のない適度な爽やかさを感じる。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

- 脱出系作品だから、と軽くみていたら痛い目にあいます。細部まで良く練られていて、それでスッキリと上下巻で収まっている。新しさを存分に感じた作品です。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

- この作品のヒロイン・礼香の魅力はおそらく、この作品の世界観を飲み込めれば、という条件付きで理解できるのだと思います。もし日常空間の作品の中であれば、いろいろと性格的に欠けているキャラクターなんでしょう。「この世界観を飲み込めれば」という条件付きなので万人に勧められない気もしますが、でも私はこのヒロインにぐいぐい引っ張られてしまいました。

会社員 / 林礼春

マンガ大賞2016 ノミネート作品

ビッグコミック / 小学館

「BLUE GIANT」石塚真一

選考員コメント・1次選考

- 夜多め、甘さ少なめ、に見えつつ、音楽を好きで好きでたまらんのー！という人たちの心を掴む表現がそこかしこに（あのセリフのない一話の凄さ・・・）。音と存在感のせめぎ合いに圧倒される一冊。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- まるでマンガの紙面から音が流れてくるような臨場感

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部 大介

- 一択です。毎話、ぐっときます。

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

- 毎回感動してる。主人公の真っ直ぐさが眩しくて、少し心が苦しくなるくらいに。自分の日々を思い返して少し反省させるくらいの影響力

bar 図書室 店主 / 岡部愛

- もう7巻出ているので投票できるのもこれが最後でしょう。というわけで何か受賞してほしいと思い投票。

ライター / 芝田隆広

- 第一回マンガ大賞を『岳』で受賞している石塚真一の新境地。世にジャズをモチーフにしたマンガは少ない。日本のジャズマーケットとのサイズとも無縁ではないだろうし、「舞台がジャズでなければならない強固な理由」が見えづらいというような理由もあるかもしれない。だがこのマンガはジャズでなければならない。生々しい音圧にメンバー間の熱いやりとり。回を追うごとに物語を担うバンドメンバー3人のそれぞれの人間くささが、共感させられるような温度でよりくっきりと描かれるようになった。いよいよ物語が大きく動き出しそうないま、まさに読み頃です。

有限会社馬場企画 / 編集者・ライター / 松浦達也

- いつ読んでも、ほとぼしる熱い思いに果てしないエネルギーをもらえます！会社の同期だった仲のいい友達は、退職して今ジャズシンガーをしています。音に人生感が表れると言われるジャズ。読んでいると、離れたところで頑張ってる彼女も頭に浮かんで、より心が揺さぶられます。魂のジャズライブに行きたい！

アナウンサー / 松尾 翠

- 音楽漫画は、「音」をどのように表現するのか？がキモ。この作品は、読み進むに従ってその雰囲気から読み手なりのジャズ（実際の楽曲とは全く違うのだと思われます）を感じさせる。必見の一作！

本と文具ツモリ / 津守晋祐

- 前回の投票の時はあまり心に響かなかったのだが、巻を追うごとに面白さ、熱さが増していき今ではすっかり虜に…『岳』以来2度目の受賞もありうるかも！？

あゆみ BOOKS 青葉通り店 副店長 / 土屋修一

- たったひとりでラッパを吹いてた時代より、仲間ができた今のほうが断然いい。主人公たちがバカみたいに熱くて、その熱量にどうしても惹かれる。ジャズのこたなんてちっとも知らないのに、夢中になって読んでしまう。音楽と歓声が聞こえてくる一冊。

馬場企画 / 島影真奈美

- とにかく熱い。JAZZの熱さと青春の熱さによるグルーブが、目頭まで熱くしてくれる。初心を思い出させてくれる素敵な漫画

広告会社 プランナー / 平沼良章

- 主人公たちがジャズの最前線に向かって進むにつれて、ヒリヒリ感が増えてどんどんおもしろくなっていく！主人公の持つ者特有の無自覚な、そして避けられない残酷さがたまりません。既に第1回大賞『岳』越えのおもしろさだと思う！

漫画ライター / 門倉紫麻

選考員コメント・2次選考

- ジャズとは何であるか、それは初期衝動である。——だとすれば、この物語はその完成形だと思う。「その先」はどうあるにしても、最初期にどうであるかを描いているのが、とにかくすごい。

プログラマー / サイトウマサトク

- 「面白くないはずがない設定の漫画があるとしたら、これなどが真っ先に該当するだろう。東北の仙台に暮らす男子高校生が、ジャズで世界一のプレーヤーになるという設定。いったいどうやって、そしてどんな演奏で世界一になるのか。そもそも世界一のジャズプレーヤーとはどんな存在なのか。展開への興味、完結への期待が浮かんで仕方がない」。マンガ大賞2015で候補になった時、石塚真一のマンガ『BLUE GIANT』に対して、そんな感想を抱いて推した。少年が成長していく過程を描いたドラマに引きずり込まれ、熱量を持って描かれるジャズのプレー場面に、音楽なんて聞こえて来ないにも関わらず、何か奏でられその渦中に放り込まれたような感覚にさせられ、これは凄いと感嘆した。そして改めて、マンガ大賞2016の候補になった『BLUE GIANT』は、またしても推して相応しいだけの成長を、ストーリー的にも、そして登場するキャラクター的にも見せてくれていた。高校のバスケットボール部で選手になって、大きな大会にも出ていた宮本大が、そんなバスケの道をすっぱりと捨てて選んだのが、ジャズで世界一になるということ。その夢に向かい、高校時代から毎日毎日、河川敷の鉄橋の下なり、人気の少ない土手へと行って気の向くままに吹き鳴らしていた成果がだんだん出て、地元の仙台ではそこそこに知られたプレーヤーとなって、そして東京へと向かうまでが、去年のマンガ大賞2015で対象となった4巻までに描かれていた。以降、巻を重ねながら『BLUE GIANT』という物語の中で、大はジャズに対して変わらずまっしぐらな道を歩み続けていた。仲間となるピアノとドラムも見つけ、今はライブハウスでの演奏を続けて、だんだんと近隣にその演奏を知られ始めているといったところ。パワフルな演奏で聴き巧者たちを圧倒し始めているけれど、第7巻では同じバンドでピアノを弾く、天才肌で自分に絶対の自信を持っている沢辺雪祈というプレーヤーに、ひとつの壁が当たってそして、どうぐり抜けていくんだろうかといった興味をかき立てられる。第7巻のラストで沢辺は、有名ライブハウスの主宰者から強烈なダメ出しをされる。そのあまりのキツイ言い方に、幼いころから天才ぶりを見せつけ、自分にも自信がある人間だったら、鼻をへし折られたような傷みを味わい、あるいは怒り出して当然かもしれない。ところが沢辺は、主宰者の直言をしっかりと受け止め、そこまでアドバイスしてくれるとはと感謝を見せる。そんな前向きさに、彼ならきっと這い上がれると感じ、そして自分を否定されても、それがアドバイスだと理解する必要性を教えられる。10年くらいジャズをやっても芽が出ないまま、誰もいないライブハウスで吹き続けるバンドが、すべてに一期一会に一所懸命な主人公達に触れて少し、立ち直るエピソードは嫌いではないけれど、才能がないのにそれで良いのだろうか、といった考えも浮かぶ。プロとして続けるべきか。プロを諦め趣味にするべきか。これからひとつの道に挑もうとしている人たちに、才能と努力、本職と趣味の境目に迷う大変さを感じさせてくれる。「思いだけなら誰だって抱ける。それを持続させさえすれば、何かしら道は開ける。そう信じたくなるストーリー。マンガ大賞2015の候補作にもなったこの作品が、『岳』にも増した感動と驚きを、読む人たちに与えてくれるだろうことは確実。だから読むしかない、BLUE GIANTが誕生する、その瞬間まで」。これもマンガ大賞2015の候補になった時に思った言葉。その意識は今も変わらない。いずれとてつもない名プレーヤーになっていることが分かっている大が、そこへの道をどのように歩んでいくのかを見極めるまで、追い続けたい、この作品を。

書評家 / タニグチリウイチ

- 今回のノミネート作品の中で一番泣かされました。わたしは「何事も徹底的なことだけが美しい」と考えるタイプの人間なのですが、本作では、その美しさが繰り返し描かれており、そこにめちゃくちゃ感動しました。読んだ後「わざわざ言っていないで、わたしも努力＆前進しよう！」と思える作品で、今後の自分の人生にすごく影響を与えそうな気がしています。

ライター・研究者 / トミヤマユキコ

- 心を奪われた瞬間というのがこのマンガにあった。埃をかぶった楽器をひっぱり出させ、やっぱりなにもできずに惚けさせるような、そんなマンガに操られてる僕の毎日は素敵だ！と思えるような。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- ストーリー展開のリズムの良さが、物語の奥深さへと誘う

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部大介

- 毎話、読んだ後に頑張ろうって思います。

漫画全巻ドットコム代表 / 安藤拓郎

- 前回ノミネート時よりもますます物語に厚みが出て、どんどん引き込まれる。ジャズを聴きたくなるくらいに、読んでいる人の気持ちを動かしてくれる作品。毎回、巻末に出るインタビューが楽しみ。

漫画家専門鍼灸師・理学診療士 / 碓氷麻里子

- 昨年も挙げさせていただきましたが、1年経っても少しも勢いが衰えないどころか、音楽への情熱が加速していく様子が感じられました。石塚先生の作品は「岳」もとても素敵ですが、「BLUE GIANT」も情熱的で作品から音が聞こえてくるような激しい表現がとても好きな作品です。先を楽しみにしている作品です。

株式会社スマイルアクス 営業 / 岡村光徳

- すみません悩みに悩んで2位に投票。ノミネート最後かとも思ったので。これからも楽しみです！

bar 図書室 店主 / 岡部愛

- 夢中になって、読んでしまいます。

有隣堂 / 桶谷佳代

- 音を描くマンガとしてはのだめ・ピアノの森以来ハマりました。のだめとは違い、静かに、荒々しい。人間ドラマもしっかりしていて、これからが楽しみ。

会社員 / 金子幸恵

- 夢見る若者を取り巻く大人たちがとにかくカッコいい！とはいえ、年齢職業性別関係なく、とにかく多くの人に読んでもらいたい作品です。きっと何かが残ります！！

文教堂書店浜松町店コミック担当 / 金田健太郎

- 音楽マンガは数ありますが、ページをめくりながら、ここまで耳の奥底にJAZZが流れてくる作品を私は他に知りません。脇を固める皆さんがとてもあたたかい雰囲気を出し、主人公たちを支え、叱咤激励し、育ててくれます。若い主人公たちの熱い思いよりも、心に響いてくる年齢になってきた、と改めて感じました。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- 石塚真一ならではの、堂々とした落ち着きのある雰囲気と、ヒリヒリするアツさが共存するストーリーがイイ。「ジャズ」という分野の門外漢にも「じゃあいっぺん聴きに行ってみるか！」と興味を持たせてくれる。現在7巻で、投票できるのも今回が最後になるだろうというのも加算ポイント。作品の内容には基本的に文句はないが、単行本巻末のインタビュー仕立てのおまけマンガは蛇足かなという気はちょっとする。「宮本大はこの後ビッグになる」というネタバレをしちゃってるみたいなもんなので……。

ライター / 芝田隆広

- 楽器の習い事が続いたことがない私ですが、読んでいるうちに実際に演奏したくなる作品です。

自営業 / 小野ゆうこ

- バカ正直で芯が全くブレない主人公の熱さに胸が熱くなる一方、実はそれぞれ人生の中で彼と関係しあう様々な登場人物達の間味あるエピソードにこそこの作品の「熱さ」と「厚さ」が凝縮されているように思う。主人公に対し手を差し伸べる人、豪快に喝を入れる人、はたまた彼に感化されて自分自身を鼓舞する人、そんな人達のほうが主人公に見えてきてついつい感情移入してしまう。

醤油製造業 / 小野塚博之

- 今年の最終選考は本作と『僕だけがいない街』だけで終わらせたいくらい、この2作品がぶっちぎりで。本作はずっと雑誌で読んでいて一次選考でも票を入れさせていただいた。二次選考にあたりコミックスを読み返したところ、連載からは見えてこない壮大なスケールの世界観に改めて圧倒された。そして生々しい音圧やメンバー間の熱いやりとなど、改めてこのマンガはジャズがモチーフでなければならないと思わされた。最新刊では、メンバーそれぞれの人間くささが浮き彫りになった。たまにはジャズでも聴いてみよう。そう思わせられる"画圧"がページの隅々からでも感じられる。第一回マンガ大賞を『岳』で受賞している石塚真一の新作。

有限会社馬場企画 / 編集者・ライター / 松浦達也

- 2008年に『岳』で受賞しているだけに、2つめというのは慎重にならざるを得ませんが、石塚先生すごい。さらに脂が乗ってます。上條淳士の『To-y』とか、さそうあきらの『神童』とか、マンガの画面から本当に「音」が聞こえた経験が何度かありますが、この作品からもサクスがしっかり聞こえました。ものすごい音圧で。でも、それだけなら推さなかったかも。主人公の宮本大はキャラ的に島崎三歩に近いですが、私が心射抜かれたのは「沢辺雪祈」です。才能豊かで、皮肉屋で、野心家で、鼻持ちならない奴で、しかし実は、誰よりも努力家で優しくて繊細。こんな複雑なキャラを描ける作家に、心から賛辞を送りたい。玉田がドラマーになる展開にも驚きましたが、玉田の焦りも葛藤も、雪祈との緊張関係で渋く光っているわけです。その玉田がソロを演じる最近号のビッグコミックには泣きました。

読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局 専門委員 / 石田汗太

- 漫画って音でるんだっけ？って思えるくらいに音楽が聞こえてくる漫画です。大のまっすぐな生き方、玉田の一生懸命さ、きっと大スターになっていくであろう彼らにのめりこんでしまう。いい漫画です。

ブックエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

- この漫画を読んだら、絶対ジャズを聞きたくなる！漫画から音が溢れ出ている！そんな作品です。

本と文具ツモリ / 津守晋祐

- 画に力があるのでジャズの力強さを感じ、音楽が聞こえてくる。圧倒されるシーンが多い。

芳林堂書店高田馬場店コミック責任者 / 天野能宏

- 人の心を揺さぶるのは魂の叫びですね。最近ちゃんと叫んでるかなあ。人の叫びを聞き分けられているかなあ。そんなことを思います。

同人誌即売会 眼鏡時空 主宰 / 田中海渡

- 「誰かに薦める」という基準で言うなら、迷いに迷ってやっぱりこの一作。才能と努力、好きであることと食べていくこと。自分と周囲、出会いときっかけ。描かれるのは天才の人生のようで、その実、周囲にいる普通の人々の人生でもあります。だから今、もしこれから先の人生に迷いを抱いているならば、この作品を読むことが一つの標となる気がします。迷い続けるにしろ、何かを決めて何かを選ぶにしろ、紙面から聞こえてくる大音量に背中を押される気がするのです。行く末を決める転機にいる全ての人に、お薦めしたい作品です。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- 連載で読んでいたのですが、今回改めてコミックスで読み返し、新しい発見がたくさんありました。下積みの期間が長く描かれ、誤解を恐れずにいえば『岳』以上に地味なマンガです。でも、巻を重ねるごとに感情を揺さぶられ、主人公たちから目が離せなくなります。連載で読んでいたときは断然、雪祈（イケメン）派でしたが、コミックスで玉田派に変わりました。玉田のけなげさ、泣けます。

馬場企画 / 島影真奈美

- とにかく泣ける。なんでだか泣ける。別にこんな熱い青春を送ってきたわけでもないけど。電車の中で人目もはばからず号泣してしまった。音楽が、情熱が、こんなにも人を動かしたり、感動させるんだ。音楽ってあらゆる世代や国境を超える共通言語だとあらためて思う。これは大人が泣いちゃうやつ。あそこまでがむしゃらになれる登場人物たちに憧憬を感じるはず。だってもうバカみたいに夢中になる、って本当に難しくなってくるから。各巻の巻末ボーナストラックが、またいい。

三省堂書店池袋本店 / 内野智未

- 日常の全てをJAZZに打ち込み、日々の1分1秒でも長くJAZZに身を捧げたいという情熱さを登場する3人から強く感じます。その強い情熱と彼らが紡ぎだす物語の躍動感に心を打たれてしまい、感動涙は必然です。加えて、情性心が強い私に改めて自分はダメ人間だなと確信をもたせてくれました。が、そんなダメな私でさえ、明日に向かって走り出しそうな衝動に駆り立てられそうになる、このマンガから受け取るその情熱は本当にすごい。目の前のひろがる幾つもの課題と向き合い、挑み、成長していく、その姿は本当に魅力的です。これから、どんな試練があり、そんな大きな舞台があり、彼らが成長していくのか。楽しみではないマンガです。

広告会社 プランナー / 平沼 良章

- 東京編にうつってから、さらに目が離せなくなりました。音楽の魔力を線画でこんなに描写できることにも驚きます。主人公の大も魅力的ですが、音楽のギフト（才能）に恵まれなかった「凡人」たちの描き方にこそ、愛がこもっている気がします。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

- ジャズといったジャンルで描かれるマンガ。人間味のある描写が作品に引き込ませてくれます。河原でトランペットのシーンが非常に好き。

デザイナー / 平沼寛史

- 第1話から「何かが始まった！」という強い印象を受けますが、読み進めれば、マンガ界に「天才」を描いた名作がまたひとつ誕生したことが確信できます。その才能が世に出るずっと前から地に足つけて描くあたりに、作者らしさを、そして言いようのない迫力を感じます。5巻からは舞台を東京へ移し、いよいよ本格的にジャズのステージに立つわけですが、物語の勢いは増すばかり。各巻末に作中人物が「彼」をドキュメンタリー調で振り返るように、このマンガは読者に「伝説」を目撃させようとしているので、とにかく今手に取るべき作品だと強く感じます。

会社員 / 末永龍介

- 決してセリフが多いマンガではないが、行間の言葉が多く、一つ一つの言葉が魂まで届き、思わず涙ぐんでしまう。ジャズ、どんな感じの音楽がいまいち分からないのだけでも、なんかハゲしい感じなんだわ。

明文堂プランナー金沢野々市店 フロアプランナー / 木村俊介

- 「才能」「努力」そして「野心」！一見さわやかだけど激しくギラついている若者たちの描き方がすばらしい。次どうなるの!? というエンタメとしても抜群のおもしろさ。完結を待たずとも『岳』越えを確信。

漫画ライター / 門倉紫麻

マンガ大賞2016 ノミネート作品

ヤングエース / KADOKAWA

「僕だけがいない街」三部けい

選考員コメント・1次選考

- ストーリーも良いし、キャラクターも魅力的。

PENICILLIN / HAKUEI

- 今一番続きが気になる漫画。いつも想像の斜め上に行く展開に、1冊読むたびに「つ、次を早く！！」とじたばたしてしまう。とにかく今後の展開がまったく読めない。ただただ作者に翻弄されるのみだが、実に面白い。

主婦 / 安田奈緒美

- 前回大賞逃して、なんで！？と叫んだ。犯人の手によって記憶を失った主人公に、またも犯人の魔の手が忍び寄るのがみどころ

漫画家専門鍼灸師・理学治療士 / 碓氷麻里子

- 6巻の展開に衝撃。5巻のヒキも相当で6巻が待ち遠しかったけど、まさかの展開で本当に驚いた。こういう衝撃が漫画を読んでもっとあるから、漫画はやめられないな～

bar 図書室 店主 / 岡部愛

- この巻で遂に結末が！と思ったのにまだ続きが(笑)。でも次のミステリーも面白そう。今年発売された巻はちょっとどかしい展開ですが、期待を込めて。

会社員 / 金子幸恵

- よくあるループものかと思いきや、サスペンス要素がしっかりしている上に、幼少期と現代がうまくリンクしている、ストーリーに引き込まれていきます。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- 必ず単行本の最後で次の巻への「引き」となる場面で終わる構成の見事さは素晴らしいという他ない。1巻だけでなく、毎巻そうなのだから、堪らない。おそらく次巻の8巻か、長くとも9巻で終わると思うが、物語の初めから最後まで考えて描かれている感じがする1本の長編作品として完成度の高いミステリー。アニメが始まり、実写映画も公開が控えているので放っておいても売れるだろうが、それでもやはり推しておきたい。

丸善ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

- トリッキーな設定を生かしきったサスペンスに加え、どストレートな成長テーマを押し出し、ピュアな恋まで描いてちょう。ひねりと回転を組み合わせた超高難度の技を決めたから、後は着地ですね。作者がどんなオチを用意しているのかドキドキです。

朝日新聞記者 / 小原篤

- 1～7巻を何度も読み返してます。一人リバイバルごっごにご注意くださいっ !!

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- 次の展開が気になり、一気に読み終えたい SF サスペンス作品

自営業 / 小野ゆうこ

- さて、今年の自分は去年からの続きが多い。大体失速するものなんだが結局みてしまう。そう、今年自分はほぼ紙のマンガを買わなくなったのだ。だが、出張が多いと、かさばるのに、買ってしまう。なんだろう。自分の許している領域。去年からの引き続きなので、映像化してしまったものが多い。これはいたしかたない。その中でこれは最たるものだ。ええ。たつやがやるのか。きっとやっぱり見てしまう。

スタジオフーズ / 小林智之

- 男女問わず誰に紹介しても必ず面白い！と言われる作品。さすがです！アニメ化・映画化と、かなり旋風をおこしているのも頷けます。

アナウンサー / 松尾 翠

- 3年連続で票を投じさせていただく。間違いなく日本マンガ史上に残るであろうサスペンスマンガ（万一今後の展開やエンディングがそうならなかったら、作品のファンは悲しみにくれると思う）。ストーリーとしては前半の山場を超えて、いよいよここから大きく展開するであろうところ。読み手にとっての気は熟した。張り巡らされた伏線はどのように回収されていくのか。5巻までのじりじりするような構成は読み手にとっては楽しみでもあったが、次巻を待つのがつらい展開でもあった。物語が一気に展開したいのなら、一気に読みから次巻以降への思いを巡らせることができるはず。恐らくは残り巻数もそう多くはない。リアルタイムで歴史の証人になるのはいま！

有限会社馬場企画／編集者・ライター / 松浦達也

- クライマックスが続くかのような感覚で、常にドキドキします。次の展開が予想通りでも「なるほど」、予想外でも「なるほど」と思われるのが、とても面白いです。

ミュージシャン / 杉本善徳

- 人事異動で生活環境が変わり、2015年後半は思うようにマンガが読めなかった。発売からだいぶ日にちがたって久しぶりに読んだら・・・もうあっという間に物語の世界に連れ戻されました。これこれ！そうそう！前の巻ここで終わってたんだよな～！読者を捕らえて離さない、見せ方を研究しつくしてるな、と。今年こそ大賞を！

セラピスト / 内野智未

選考員コメント・2次選考

- 切な過ぎてずーっと胸が苦しい。

PENICILLIN / HAKUEI

- サスペンスと思いきや、SF?！ 主人公の心がどんどん成長してきて…本当に助かって欲しいと切に願いながら、ページを読み進めました。

アニメイト / 鈴木寛子

- ドキドキ感が止まりません

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部大介

- 予想を裏切りまくるショッキングな展開に、驚かされてばかり。1冊読み終わった瞬間から、もう次の巻が出るのが待ち遠しくてならない。過去と現在を行き来する主人公、この物語は果たして最後にどう着地するのか。今、最も続きが楽しみなサスペンス。

主婦 / 安田奈緒美

- 追う立場から追われる立場となった主人公の緊張感が伝わってドキドキ。失った記憶がなかなか戻らないのに焦る…。果たして犯人の手に再びかかるのか…、とサスペンス要素に満足。

漫画家専門鍼灸師・理学診療士 / 碓氷麻里子

- アニメ化もされてもはや超メジャー作ですが何度読んでもどきどきしちやいますね。

作家 / 海猫沢めろん

- 圧倒的面白さ！ちょうど8巻が今年発売予定。マンガ大賞3年連続ノミネートの実力は伊達ではない。続きが気になるコミックナンバー1はこれでしょう。読む手が止まらないとはこれの事。中だるみの無い手に汗握る展開。そしてクライマックス。犯人との最後の対決がどうなるのか！この面白さやばい！

三省堂書店海老名店・嘱託社員 / 近西良昌

- みんながいいって言うから逆に選びたくない、と思っていたのに選ばざるをえなくて悔しいです。面白い！とにかく面白い！通して読むとストーリーが緻密に、丁寧に積み上げられてきたのがわかります。一度読んで面白く、再読すると隅々に仕掛けられ散りばめられた伏線に気付くことが出来て唸られます。最新刊のモノローグの叙述トリックには「正直シビレ」しました。今まさに最高潮に面白い佳境にあるマンガだと思います。

事務職 / 工藤圭

- 最近オススメの面白いマンガなに？と聞かれて、まず間違いなくあげるのがこの作品男女問わず夢中になってハラハラドキドキページをめくると思います。犯人がわかるまでの面白さから、次から分かった後の面白さに、これからどうなっていくのか楽しみです。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

- 主人公悟のお母さんが大好きで！！子供のことをこんなふうに思える・守れる母になればいいなと思いました。信頼関係が素敵！すごく好きになったのでどうにか悟と二人幸せの日々が続くように祈って読み続けてますが、まだまだハラハラしっぱなしです。

薬剤師 / 山崎友里

- すべてにおいて圧倒的！だった！謎が謎を呼ぶ導入部、謎が深まるばかりの中盤を越え、6巻を超えたあたり、物語が終盤を迎えようと全貌を見せ始めたところからの「まさか、ここはこれに繋がってくるのか!!」という驚きと納得と、さらにその先見えてきた最後の不安と危険の匂い。どうかすべてに打ち勝って、望む未来を勝ち取って欲しい。そう祈らずにはおれない作品。どうか悟と仲間たちに、平穏と希望の未来が待っていますように……！

啓文堂書店 本社勤務 / 山川美香

- もう、ラストがどうなるのか、期待しております。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 時間遡行×ループ×サスペンスミステリー、そこに加えて、友人たちを不幸から救い出すヒーロー的な喜びがあり、「人生をやり直したい」という甘美な夢も楽しませてくれるドラマ。

朝日新聞記者 / 小原篤

- アニメに実写にと既に大ブレイク中ですが、全ては「リバイバル」を発明した三部けい先生あっての「僕街」です！今年出るであろう最終巻までを通して読める人は幸せです。

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- サスペンス好きではなくても、誰にすすめても面白かったといってもらえる作品です。

自営業 / 小野ゆうこ

- 何回もクライマックス！最初は2巻のあたりでクライマックスだったものが、進んでも何度もクライマックスがくる。謎がつづく。解決見てみたいけど終わってほしくない。そんな気持ちになる作品です。

スタジオフーズ / 小林智之

- 日本マンガ史上に残るサスペンスマンガ（になるであろう）作品。雑誌の連載も最終回の告知がなされ、今年のマンガ大賞が発表される頃には完結している。授賞式の日程次第では、発表時には最終巻が書店に並んでいるかもしれない。5巻までのじりじりするような構成から6巻でのタメ、そして最終巻になるであろう7巻の結末は……。願わくばハッピーエンドを望みたいが、「僕だけがいない街」というタイトルはラストシーンにどう反映されるのか。ああ、早くエンディングまで読み込んでその世界にどっぷり浸かりたい。3年連続で1位に推させていただきます。

有限会社馬場企画／編集者・ライター / 松浦達也

- 正直、面白い。ここまで毎巻のように展開に驚いたマンガが他にあったらどうか……と思ってしまうぐらい、またドキドキさせられた。

ミュージシャン / 杉本善徳

- 情報の開示や謎の展開など、イントロから作品世界に引き込む吸引力は随一で、単純に状況が打開されないのでページを捲るのが躊躇われるストレスと、でもどうなるんだろうという誘惑が両立しており、昨今珍しいドキドキしながら話を追うという体験を提供してくれる名作。

住職・ライター / 蟬丸P

- ストーリーが練りこんであり秀作。何もかもわからない非日常的な場面で主人公が成長？していくのがみえるのも面白いです。今から一気に読めちゃう人は幸せかも。早く次巻が読みたい～～

ブックエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

- 読み進めてきて、まさかのこの展開！?に物語はいよいよ佳境になっていく中で目が離せません。

女優・セミナー講師 / 大倉照結

- 緊張感がすごい。毎巻毎巻正座して読んでいる気がする。座を直して読むような堅苦しいマンガではないんだが、身を正して、背筋を伸ばして緊張感を存分に味わうべきだ、と都度都度感じる凄みが。

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

- アニメ化、実写映画化と話題に事欠かず、もう良いのではと思ってしまう。しかし3年連続のノミネート（過去なかったのでは？）は伊達ではない！毎回展開を予測するのだがごとくと裏切られる。やはりこれは面白い！いろんな人にオススメしたい作品だ。

あゆみ BOOKS 青葉通り店 副店長 / 土屋修一

- 今回のノミネート作品の中で、一番「機」が熟している作品だと思う。ここまで張り巡らされた伏線が回収される時、ものすごい快感が待っているはず！今単行本化されているストーリーは、その複雑な、でも全てが計算されている（に違いない）ありとあらゆる設定の全てが結末に向けてピーンと張り詰めた状態。これから訪れる決着の時を目前に、この賞の受賞とがうまい具合に相乗効果を生んでくれたらな、と思う。

三省堂書店池袋本店 / 内野智未

- アニメも好評放映中の本作。ありていに言えば確実に「続きが読みたくてしょうがなくなる」コミックスです。所謂タイムリープものですが、本編では主人公はこの現象を「リバイバル」と称しています。過去に起こった事件が何十年経った今でも実は終わっていないくて…何度か「リバイバル」する事によって未来を変えたり、読者側には謎が解けて行く仕組みになっていますがその「リバイバル」タイミングもいつも絶妙なんですよね、「えっ！ここでか!」とても読み易いタイムリープものとして今回決勝の中的一位に上げました。間もなく本編完結も予告されていますので、買い易さ、揃え易さもお薦めしたい要因になっています。サトルは犯人から皆を護る事が出来るのか!? 結末は自分の目でお確かめください!

通販部 / 日吉 雄

- そろそろ賞の規定から外れる巻数です。やっぱりぜひ押したい作品です。タイムスリップものは青春と恋と相性がいい。時を超えるって切ないですからね。このジャンル、古今東西さまざまに名作がありますが、本作も傑作です。
お菓子研究家 / 福田里香

マンガ大賞2016 ノミネート作品

別冊マーガレット / 集英社

「町田くんの世界」安藤ゆき

選考員コメント・1次選考

- 町田くんのように「フラットな視点」で今を生きることができたら、どんなにか素敵なことだろうと思う。邪念に乱されまくりの人生なんで、羨望の念で町田くんを見守ることにします。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

- イケメンでもない、運動もできないし、メガネだけど成績も良くない。そんな主人公「町田くん」が自分でも気付いていない、たった一つの、だけど掛け値なしの魅力を、周囲の人たちが愛して、町田くん自身にも気づかせていくお話です。バラしてしまうと、町田くんは究極の「性格イケメン」です。クラスメイトの誰かが病気なら心から心配し、相手に気遣って貰ったら当たり前のように御礼を言い、誰かが髪型を替えたら気付いて褒め、友達が酷い事を言われたら真っ向から否定する。町田くんは当たり前のことだと思っているようですが、彼の「当たり前」に、周りのみんなは救われ、どんどん町田くんを好きになっていきます。一話完結形式でお話は淡々と進みますが、ひとつひとつに、町田くんの魅力がしっかりと入っていて読んだ人も必ず、町田くんのことが好きになります。

株式会社アニメイト 町田店 / 岡ノ部亭 真泰

- 別マ応援してます。

マンガ研究 / 会田洋

- 眼鏡をかけているから勉強が出来るわけじゃない。でもスポーツもできるわけじゃない。そしてイケメンでもない。ただただ平凡な主人公町田くん。なんの取柄もない彼だけど、周りに良く気づき、優しく、何に関しても一生懸命。そんな姿に周りのみんなは彼を大好きで愛されている。この漫画を読むと優しい気持ちになれるし、幸せになれる。そして町田くんに憧れる。男性でも是非手に取ってもらいたい作品。

三省堂書店海老名店・囃託社員 / 近西 良昌

- 人のことが大好きで人のためにごく自然に動く町田くんが、悲しい目にあうことなく報われていくのが本当に嬉しい。小さい幸せがあちこちで弾けるようなこの美しい透明な世界が続きますように……。ヒーロー像が固定化されつつある少女マンガ界に、また新しいヒーローを降臨させた安藤さんはすごい！

漫画ライター / 門倉紫麻

- 【人のことが好き】シンプルだけど、とってもいい「言葉」と「思い」です。私の周りにも町田くんのような人が多くて…本当にみんなが幸せをもらっています。こういう「感じ」を、マンガで表現することって今までなかったのですごく新鮮で、でも懐かしいというか身近というか。読んでてほっこり幸せになります。町田くんに、癒されたい。続刊が楽しみでなりません。

アニメイト 営業支援部 販促宣伝課 / 鈴木寛子

選考員コメント・2次選考

- 老若男女が読める平和な作品でしたその世界観は、なんだかほっこりと幸せな気分してくれます

tetote 代表 / 力丸 真

- 町田くんの内面を見習いたい。なんか、こんな視線のマンガって初めて会いました。とっても、気持ちがいいマンガです。

アニメイト / 鈴木寛子

- 町田くんに見えている景色を、たくさんの人たちで共有することができたなら、もう少しおだやかに暮らしていけるのかなあって思う。すこやかさ大事。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

- 読み始めからずっと泣いてる。ずっと泣いてて、ずっと泣いてる…。町田くんの世界はなんて素敵なんだろう。

金海堂イオン隼人国分店 コミック担当 / 園田美智子

- 「こんな恋愛がしたかった（できるとは言ってない）」「学生時代、こんな人たちと一緒に青春を過ごせば……」とか、面白い！と思った少女マンガを読んで30がらみのオッサンが思うのは、こういうところです。が、『町田くんの世界』はそういういわゆる少女マンガとか少し味の違う読後感をくれました。ももとは町田にある店舗に勤めているので、名前も「町田くん」だし、力を入れて売ってみたいら面白いかしら、と思ったのがこの作品を知った切っ掛けでした。表紙もキレイだし、読んでみて面白かったらよいな、くらいに思っていたのですが一読して驚きました。目に見える取り柄は特にないが、ただひたすらに心がキレイ。これだけ言っちゃえば、それはそれでよくある設定かもしれないのですが、町田くんの「キレイな心」の発露が、とても实际的で高潔に映ります。キレイごとを声高に言うわけではない、誰かに説教をするわけでもないけど、【誰かにとって、いちばん優しい行動を常にできる】というか。決してドラマチックではないけれど、やろうと思えば誰にでもできる（けど、多くの人が照れたり尻込みしてできない）優しい行動を当たり前に見える町田くんの活躍が、妙に心を打つのです。そんなわけで、ふだんあまり少女漫画を読まないオッサンが読んできわめてすがすがしい気持ちになれるマンガでした。

株式会社アニメイト 町田店 / 岡ノ部亭 真泰

- 町田くん、すごー。スマートに人に寄り添い無理なく助けるというか。島耕作とは違うベクトルのスーパーマンだ。平和に読了できるのもいい。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川元良

- 女性はもちろん、世の中の男性はこれを読むべき！町田くんが素敵過ぎます。イケメンでもないし何か特技があるわけでもない町田くん。いたって普通かもしれないけれど、気配り、気付き、優しさ、思いやりが詰まっています。町田くんに憧れます。町田くんに惚れます。その優しい町田くんが大好きです。それを描く安藤ゆき先生は素敵です。優しくなれるこのマンガおすすめです。

三省堂書店海老名店・囑託社員 / 近西良昌

- 一言でいえば、「男が読むべき少女マンガ」こんな「いい男」になりたい、なろう、なるべきだ！もちろん、女性にもオススメの暖かいお話です。

文教堂書店浜松町店コミック担当 / 金田健太郎

- 町田くんは少女マンガの主人公なのに、すごく普通の人でそこがとてもいい。読んでいくうちにじわじわ町田くんの良さがしみてきます。少しずつ知って自分も友達になってくみたいな感じが温かい物語です。

主婦 / 紺野 泉

- 少女マンガが苦手な自分でも、違和感なく読める久しぶりの作品。同じような男性読者にぜひ読んで欲しいな

凸版印刷株式会社 / 紺野慎一

- 今回ノミネートされた作品の中で一番穏やかでハートフルな作品ではないでしょうか。心がほっこりしました ^^ * 日常の細かなことにまで気付く町田君。こんなことに気付いてほしいなという小さなエピソードがいくつもあって、町田君できる男です！！！！

薬剤師 / 山崎友里

- 人類は皆兄妹、お隣の人は皆家族。そんな理想じゃないかと思われるでしょうか、それを地でいく、町田君16歳の日常のお話。家族にもクラスメートにも優しく、通りすがりのおじいちゃんおばあちゃんにも優しく、もちろんクラスメートにも優しい。ちょっと恋心に疎くて、そこもまた良しとされるほんわか男子は、きっとみんなの憩いなんだろうなあと思います。ここで外野からひとこと。『猪原さんがんばれ!!!』←町田君が好き（恋）なのに町田君からは家族みたいに好きと認定されている女子。ゆっくりいこうねと町田君に語る←もちろん町田君は意味をわかってない（笑）

啓文堂書店 本社勤務 / 山川美香

- ナチュラルボーンって最強だと思いました。飾らない言葉にグッときます。

教師 / 持丸 宏司

- 人は外見で判断してはいけない（笑） 町田くんは、眼鏡をかけているが、成績は中の下。器用そうだが、ネットではなく図書館で調べ物をするアナログ人間。料理ができそうだが、卵を焼くかゆでるかしかできない。かと言ってスポーツができるわけでもない。でもそんな町田くんは周りから愛されている。ほっこりする・・・。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

- さかしらな「コミュカ」など爽快に吹っ飛ばす町田くんの健やかさ！ 世界のどこかに町田くんがいると信じたい。私の中にも町田くんがいると信じたい。

朝日新聞記者 / 小原篤

- この世の人たちが、みんな町田くんみたいだったらいいのに。自分が町田くんみたいになれば自分の世界も変わるんだろうなと思いますが、現実はなかなか難しいので「こんなきれいごとはマンガだからであって、現実には無いよ」と思う方もいるかもしれません。でも、マンガでぐらい、こんなにも優しい世界があってくれて良かったなと思います。大人になってから読んだ少女マンガで、こんな風に心を揺さぶられる作品はそうそう無かったなと思いました。読むと人にやさしくしたくなる作品です。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- ありそうでなかった「イケメンなのに、じつは……」という町田くんのキャラにすっかりやられてしまいました。なんだか疲れたときも、『町田くんの世界』を読むと元気になります。とくに働く女子にイチオシの作品です。

馬場企画 / 島影真奈美

- ああ、いいマンガだな、と。それは町田くんがとてもいい人で、出てくる人たちもいい人が多くて、そこでは論理も感情もきちんとまっすぐ伝わるからで、そんな世の中はやっぱり紙の中にしかないよ！と思うところもあるのだけれど、それでもここには「本当」がいくつもいくつも散りばめられているから、読むと元気が出るのです。前を向く、勇気が出る。人の背中を押してくれるマンガは、誰かに薦めたくくなります。特に2巻を読んでそう思ったので、選びました。この作品が、あなたの背中を押しますように。辛い時の、支えとなりますように。きっと大丈夫、読んだらそんな風に思えるマンガです。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

- 淡々と優しく淡々と進んでいく、こういうマンガにとっても癒やされます。

カメラマン / 平沼久奈

- 不器用で要領も悪いけど、他人のいろんな気持ちに気付ける町田くん。しかも、無意識でそれをキャッチできちゃう町田くん。町田くんの周りには、さりげない愛が溢れています。町田くんが好きと言うより、もう、町田くんになりたい…！

図書館司書 / 堀江千秋

- 何年かに一度しか現れない、エポックメイキングな作品だと思う。少女漫画の明日を作るのは、町田くんだ！

漫画ライター / 門倉紫麻

- 主人公の町田くんは頭が良くない、要領も良くない。けれども周りの人を大切にすること、愛することにとても長けた男子高校生。作品中にちりばめられている素敵な言葉や、見返りを求めない町田くんの人間愛がこの作品の魅力。こんなに人間愛溢れた作品、ここ最近読んでなかったですね。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

マンガ大賞非ノミネート作品

全作品名・選考員コメント掲載

「liar」もあらず / 袴田十莉

- 男と女の恋愛に対するプロセスの違いや素直になれない部分をそれぞれの視点を切り替えながら話がすすんでいく。特に同性だからか、女性視点のストーリーはものすごく自分を見ているようで共感してしまった。バカだな、と思いながら都合のいい女になってしまいながらも心が摩耗していく…。わかる！わかる！わかるよ！！！！

女優・セミナー講師 / 大倉照結

「メ切ごはん」湖西 晶

- 最近のご飯モノは、ご飯に何を組み合わせるかが作品のテイストになりますが、そこに巨乳未成年エロ漫画家を組み合わせた作者のセンスとレシピにやられました。

住職・ライター / 蟬丸 P

「34 歳無職さん」いけだたかし

- 無職もすっかり板についてきた無職さんの明日はどっちだ！人生一休みまんがだと勝手に思い込んで楽しく拝読しておりますが、それは果たして正しいのかしら。あ、ある意味類を見ない描き方のまんがでもありますので、そういう意味でもご興味のあるかたは是非どうぞ。

同人誌即売会 眼鏡時空 主宰 / 田中海渡

「AWAY」萩尾望都

- なかなかショッキングな設定で、果たしてどういうオチになるかと楽しみにして読んでいたら、ガチのSFだった。こう来たか…！非常事態に生きる子供たちの賢さとたくましさ、衝撃の結末にいろいろと考えさせられた。最近、現実には追われすぎて未来に思いを馳せるなんてこと久々だったので。

主婦 / 安田奈緒美

- ある日突然大人がいなくなって、子供たちだけが取り残された。大人たちはどこへいったの？小松左京の短編からアイデアを得て、とのこと。このSFの世界観がモー様の魅力と絶妙なマッチ。子供だけの世界って、、ととっても怖いですね。

セラピスト / 内野智未

「A 子さんの恋人」近藤聡乃

- 力の抜け方が気持ちいいです。

マンガ研究 / 会田洋

- すごく2巻が愉しみな一冊！少しずつメンバーを変えながらテーブルを囲む感じがたまらない！

お菓子研究家 / 福田里香

「Back Street Girls」ジャスミン・ギユ

- 極道からアイドルへフォームチェンジした3人の幸せを願いつつ超爆笑してます。組長とのミーティングが好きです。

バンドマン / TA-SHI

- ヤクザが性転換してアイドルに。組長プロデュースのもとで、彼女たち（彼ら？）の人気上昇中！とんでもない破壊力あるギャグマンガに久しぶりに出会いました。で、今はゴクドルズの虜です。

Books アイ苺荷谷店 / 野口忠義

「HEART BALL」原 秀則

- 「プロ野球を営業視点で！」あまりにも順調に行き過ぎるストーリー展開が気にならない訳ではないが、この視点でプロ野球を考えるストーリーがめちゃくちゃ気になります

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部大介

「Levius est」中田春彌

- スチームパンク・サイボーグ・ステゴロ！唸れ必殺・圧縮蒸気！！IKKI で連載していた『Levius』が、掲載誌を新たに復活です。バンド・デ・シネのような写実的な絵柄と緻密な筆致、日本のマンガがはぐくんできた迫力の格闘描写。前人未到のイマジネーションがその二つを融合させた、唯一無二の空想科学マンガです。絵柄の特殊さに目を奪われがちですが、ストーリーは明快。美貌の拳闘士・レビウスが、蒸気機関サイボーグ達によるコロシウム「機関拳闘」で頂点を目指すなか、世界に宣戦布告した極悪戦争国家「アメジスト」とも対決する、王道ど真ん中のSF格闘マンガです。『～est』からは、今まで居なかった賑やかしタイプのキャラも新登場してコミカルな要素も生まれました。ますます読み易くなったこの作品、目を付けるなら今のうち！！

株式会社アニメイト 町田店 / 岡ノ部亭 真奈

「NOT LIVES - ノットライヴス -」烏丸渡

- 応援し続けてはや八巻目、マンガ大賞規定ではこれが最後になってしまいますね。超電脳バトル。女の子(アバター)とリンクして強敵を倒し、その頂点を目指す！少年漫画の王道をいく展開と、生き残りたいというキャラクター達真剣な思いが相まって面白さを演出しています！本編ではいよいよ最後のバトルが…

通販部 / 日吉 雄

「orange」高野苺

- 大好きな人の未来を救う為に、未来からの手紙を手掛かりに仲間がそれぞれ奔走する姿に涙！ラストに涙！

漫画家専門鍼灸師・理学診療士 / 碓氷麻里子

- 10年後の自分から手紙が届いたー。その手紙に書かれていたのは同級生の翔を救うことだった。今絶賛公開中の映画の原作。もうすでに読んだことある方も多いかと思いますが、この素晴らしい作品が賞を獲っていないことが悔しくて候補に入れました(笑)恋愛漫画かもしれない。友情漫画かもしれない。でもこの青春は忘れることは出来ない。名作だと思う。

三省堂書店海老名店・囃託社員 / 近西 良昌

「SHIORI EXPERIENCE ジミなわたしとヘンなおじさん」長田悠幸×町田一八

- 「夢を失った大人」にこそ読んで欲しいコミック。好きなことをやる、の楽しさだけではなく、苦しさ、悲しさをキチンと書いているのが素晴らしい。キャラクターの表情がとにかく胸にくる。

文教堂書店浜松町店コミック担当 / 金田健太郎

- マニア向け！では全くない漫画ですwが超大衆向けなので押します！余りに分かりやすいから素直に読めるし素直に楽しめます。ジミヘンに取りつかれたパツとしない主人公が期限までに伝説残さないと死んでしまう・・・なんて、超ストレートな設定！とにかく明快で分かりやすい！一番当たり前のことが”きちんと”当たり前のように表現されているのは凄い事です。きちんと楽しめた漫画です。

デザイナー / 佐藤ユウ

- 緩急のついたストーリー運びが秀逸で、話が山場を迎えるたびに胸が熱くなる。登場人物各々が、抱えたしがらみから吹っ切れて爆発する瞬間もたまらなく痛快！あと保健室の先生は反則。

醤油製造業 / 小野塚博之

- 自分がギターを弾くこともあってか、細かいディテールなどの描写がワクワクします。演出表現が、実際にバンドをしているときなどに体感するものを上手く表現してくれているように感じ、私はとても好きです。

ミュージシャン / 杉本善徳

「Wizard's Soul ～恋の聖戦（ジハード）」秋★枝

- すべてのカードゲーマーに捧ぐ超傑作！遊戯王で育ったおまえらが買い支えるためのマンガ！！！100冊買え！

作家 / 海猫沢めろん

「赤白つるばみ」楠本まき

- これまでの作品も含めて、楠本作品は絵柄やファッション・名前などが独創的であることに意識が向かいがちだけれど、本作は非常にまじめに直截的に「人と少し違う」人たちの生き方を描いている。帰国子女でクラスで浮いていた少女、性別に相応しいとされる恰好を強いられることに反感を持つ双子、色弱の少年、色聴の老女、イマジナリーフレンドのいる少女。そういった「人と少し違う」人たちが主役の青年二人を中心にして、物語の中でたくさん出てくる。みんなが少しずつ人と違って、その中でその違いに一喜一憂したり、その違いとは全く関係ないところでも一喜一憂したりしている。みんながそれぞれ人と違うところを持っている人間で、相互の理解や歩み寄りによって傷つけあわずに過ごせるという希望を匂わせている反面、現状ではそれが難しいことも描いている。ある、「人と少し違う」少女は、自分が人と違うことを知っている。そのことを口に出さず、空気を読んで過ごそうとしている。そういう少女ですら、他の「人と（自分と）少し違う」少女について、その違いゆえに陰口を叩いている。それが現実だ。それ以外にもこの世界は、レイシズムやセクシズム、弾圧や殺戮に満ちている。いやになるくらい世界は陰惨で、死に囲まれている。けれど終盤、陰口を叩いていた少女は、自分の「違い」がほかの人にもあると知り、嫌っていた少女に少し心を開く。彼女の秘密を知ったわけでも、何か大きな理由があったわけでもない。ただ、少女は後天的に他人に寛容になった。そうやって人は変わることもあるし、譲歩することもできる。そういう少しの希望があるからこそ、人は生きてゆける。直球だけれど余韻があって、独特の間や美しい線が画面いっぱいに広がっている。楠本まきにしか出せない雰囲気がある。

主婦 / 小田真弓

「あしたのジョーに憧れて」川三番地

- 漫画家目指さなくてよかったと思いました。目指してないけど。読んでいて、思わず居住まいを正しました。昔はこんな風に漫画を描いていたというエピソードは、アナログ時代はこんなに苦労したんだよ、ということではなく、何も無くて出来ることはあるんだよと教えてくれる。漫画家を目指している人は、読むと凹む可能性もあるので注意。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

- ちばてつやのマンガでしか得られない感覚の秘密に触れらる貴重な証言。読み終わった後、マンガの読み方が少し変わります。

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田充

「あせびと空世界の冒険者」梅木泰佑

- 青年誌連載なのが勿体無い位の作品。マンガ大賞のポリシーであるまさに「人に勧めたい作品」です。

ブックファースト新宿店 / 渋谷孝

「あとかたの街」おざわゆき

- あたたかい筆致とまなざしが、戦時下の人々の暮らしと空襲の恐ろしさを生々しく描き出す。「肌ざわり」「息遣い」が伝わるリアルさ。家族、友人、隣人、どの人物にも血が通っていてステロタイプにならない。ドラマの厚みにも脱帽です。

朝日新聞記者 / 小原篤

- 戦後 70 年を問う、この年だから描かれねばならない作品だった。自分が子供の頃「はだしのゲン」や松本零士の「戦場まんがシリーズ」で戦争の恐ろしさを学んだように、いまこの作品を読んで、往時を知る読者がきつというはずだ。「語り継ぐこと」を私たちは絶やしてはいけない。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

「アルテ」大久保圭

- 16 世紀初頭のフィレンツェ。ルネサンス発祥の地で、その当時はまだ女性芸術家が活躍していないその時期に画家を目指す若き女性が主人公。この主人公がとにかく前向きで頑張り屋で明るくて元気。壁にぶつかって泣くことはあっても努力と明るさで乗り越えていきます。その姿に元気がもらえるし、もう少し頑張ってみようと思わされます。そして画力がすごい！描き込まれた画は素晴らしいです。

三省堂書店海老名店・嘱託社員 / 近西 良昌

- ルネサンス期のイタリアで画家を目指す女の子アルテの物語。当時のイタリアの様子が生き生きと描かれている。また主人公と女性としたことで、当時の社会が女性にとっていかに厳しかったかという事も自然とわかるようになっていく。女性にもぜひ読んで欲しい作品です。

丸善ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

「アル中ワンダーランド」まんしゅうきつこ

- まんしゅう先生の人生は、壮絶なのに笑っちゃう！同情するけど笑っちゃう！なんだこの「ねじれ」は！最高か！

ライター・研究者 / トミヤマユキコ

「あれよ星屑」山田参助

- 戦後 70 年だった 2015 年。71 年目になる 2016 年。変わらず平和への願いを。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

- 戦後の混乱期を描いた「焼け跡ロマンス」だそうだが、このオビには語弊があると思う。Wikipedia によると「ロマンス」とは「bro もしくは brother（兄弟）と romance（ロマンス）のかばん語」で「一般的なホモソーシャル行為と歴史的な恋愛の友情の 2 つに区別される」……ってそういう作品だろうか……。画風はさておき、描かれているのはさまざまな業を背負いながらもたくましく生きていく人間の姿。言うなれば「焼け跡人間賛歌」。時代や立場によって感情や正義はうつろう。頼りないいまにどう立ち向かい、どう生きるべきか。このマンガは現代に暮らす読み手自身の生き様を問うている。

有限会社馬場企画／編集者・ライター / 松浦達也

- 古い良質な映画を見ている気持ちにさせられるのは、山田先生の巧みなセリフ回し、キャラクターたちの佇まいにあるのだと思います。セリフを読むだけで、昭和の名優たちの声が頭のなかで再生されるかのよう。あまり知られていない戦時・戦後の「性」の描かれ方はショッキングではありますが、この作品になくはならない要素だと思います。[作品タイトル 2] 親なるもの 断崖

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

「アンゴルモア 元寇合戦記」たかぎ七彦

- 元寇を題材に戦の描き方、キャラに力を入れそうな所でも背景への力の入れ方も良い。キングダムに次ぐ漫画。

芳林堂書店高田馬場店コミック責任者 / 天野能宏

- 非情で生々しく感じる一方で、リアリティも強く感じ独特の世界観に引きずりこまれてしまいます。このマンガにおけるチンギス・ハーンはあの人物なのか、そうだよな、とか思いを巡らせつつオリジナルの時代背景を楽しんでいます。

広告会社 ブランナー / 平沼良章

- 鎌倉時代の蒙古襲来に立ち向かう対馬の住人たちに焦点を当てて描いている。まず、何よりもこの時代を題材に選んでくれた勇気に感謝したい。戦国時代や幕末に比べると中世を扱ったマンガって少ない気がする。海音寺潮五郎に言わせると、日本史上最もひどいなんでもありの時代だそうだが、それだからこそ人間の本性が垣間見える面白い時代だとも言える。日本の中世を扱うマンガがこれからどんどん出てきてほしい。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

「アンの世界地図」吟鳥子

- 主人公の深刻なバックグラウンドが、ファンタジーなキャラクターの性格や彩られる服や風景の色彩豊かな描写で彩られていてその調合が絶妙。読みながらアンと一緒に泣いたり笑ったり怒ったりしました。3巻でビックリ描写があったけど、やっぱり主人公が最強でいい。どの登場人物も誠実で、今後も丁寧に続けていってほしいな。

株式会社来知 WEB デザイナー / 河本 智芳

「いいよね！米澤先生」地獄のミサワ

- ご存じネットでブレイクした人気作家の新作。ジワジワくる笑いは健在で、ギャグとシリアス、不条理な展開も交ぜ、良い味を出している。読み返すとさらにジワジワくるのもマル。

まんたんウェブ編集部 副編集長 / 河村成浩

「いちえふ 福島第一原子力発電所労働記」竜田一人

- 「労働の現場としての福島第一原子力発電所事故跡」を描いたルポ漫画。なるほど、そこも人間が労働を行う場、事故収束のために膨大な資金が投入される、大規模土木工事の現場なのだ、という考えてみれば当たり前のことを気づかせてくれた。大変興味深く読んだ。場所の特殊性はあるものの、今日日、孫請け曾孫請けが当たり前のゼネコン下層で働くとはこういうことなんだよ、という、下層労働ルポとしても読めるのが面白い。しっかりと地に足をつけた地点から見据えられた、祈りみたいな希望が感じられて。東北を故郷にもつ身にはたいへんありがたいことだと感じている。

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

「イチゴーイチハチ！」相田裕

- 何かが起こるわけではないけど、雰囲気が素敵なコミック。青春はドラマティックでなくても充分輝いているという感じ。そういう意味ではオッサン向けかも。

文教堂書店浜松町店コミック担当 / 金田健太郎

「インヘルノ」マツモトトモ

- 昔から大好きな漫画家さんで、ずっと読み続けています。スタイリッシュ・オシャレ・美しさ・映画的な雰囲気。好きです。

園田美智子 / 園田美智子

「ウーパ！」守村大

- ほぼ一人で山を開墾し、自給自足の生活に挑む守村先生。先にエッセイ版が刊行されていますが、やはりベテランの手による漫画は格別。こういう DIY ものは「チャレンジと達成」がテーマになりがちですが、この作品の白眉は、「人の手で出来ることの限界」がはっきり描かれているところだと思います。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

「いないときに来る列車」 粟岳高弘

■ ほのぼのとしてちょっぴりエッチで、ふんわかとしてそれでいて奥深い。そんな要素を持った漫画を、ずっと描き続けてきた粟岳高弘の『いないときに来る列車』もやはり、ほのぼのとしてやっぱりエッチで、ふわふわとしていながらもドキッとさせられるシリアスさがある。そして何よりSFだ。こことは違う不思議な世界で生きる人たちの、たとえ現実とは違っていても、それを日常として受け入れ、暮らしている穏やかなライフスタイル。いつか異星人と出会うこともあるだろう人類の、それでも慌てず粛々と順応しながら、未来をしっかりと生きていくだろうという姿への、想像力といったものをかき立てられる。収録されているのは、主に同人誌で発表された作品で、メインになるのは「斥力構体」という、テレビのアンテナみたいな形をしたものが空に浮かぶようになっていて、周辺には草原というか湿地というか原野といったものが広がった、田舎の町が舞台となったシリーズ。そこには、現実にはあり得ない不思議を受け入れる人々がいて、だらだらとした日々を送っている。一方で、ゲートみたいなもので繋がった先に、地球から飛ばされた人たちが四半世紀、コミュニティの中で暮らしていたことも描かれている。不思議が起こる世界があり、そうした世界をあるいは支配しているのか、遠くから眺めているだけなのか分からないけれど、異世界の存在たちには別の思惑もある、といった雰囲気が漂うワールドに、今を主體的に生きていくだけでなく、何者かに生かされている人類の立場といったものが感じられ、宇宙の広がり想像させられる。表題作の「いないときに来る列車」は「斥力構体」シリーズとは外れた単独の作品だけれど、タイトルがいかにもSF的で、読む前からいったい何が描かれているのだろうかと思わされる。読むと実際に未来的で、田園的で、退廃的で、そして革新的。表層に描かれた世界観の奥にある、不思議でちょっぴり不気味なシチュエーションへの思いを喚起させられる。遠くの方に飛ばしたドローンが集めた映像では、どうやら世界は滅び去っている。けれども列車はどこから、そのコロニーの脇を走る線路の上を誰も起きてはいないときにやって来て、線路脇に必要な物資を落としてどこかへと去っていく。どうしてそんな列車が存在するんだろう。どこから来ているんだろう。誰が何のために物資を寄越しているんだろう。超越者の姿が脳裏に浮かぶ。そんな列車にくくりつけられていた手紙が、どこかで誰かが生きている可能性を示す。いないときではないときにやって来た列車をつかまえて、その誰かは書いた手紙を乗せたい。どうすればいないとき来る列車が、どんなタイミングで来ると予測できるのか。遠くへと目を向けたい憧憬が導き出した答えが、生きている人間ならではの探求心を裏打ちする。そんな不思議や謎の向こうに人類が滅びかけ、機械のサポートも留まりかけている、はるか未来の地球のビジョンが浮かんでくる。どうしてそうなったのか。これからどうなってしまうのか。物語として知りたいけれど、切り取られた断片から想像するのもまた楽しい。それがSFの醍醐味であり、「いないときに来る列車」はそれを味わわせてくれる物語だ。

書評家 / タニグチリウイチ

「うどんの国の金色毛鞠」 篠丸のどか

■ 食べ物を作ることと食べることは、その土地への思いに一番深く根ざしているのかも、と思いました。

大日本印刷 / 佐々木愛

「オールアウト」 雨瀬シオリ

■ 過去にもラグビーを題材とした漫画はありましたが、良い意味で男臭さの感じさせないマンガです。読ませ方がとにかく上手いのと、いい意味で今風なキャラクター設定だからだと思います。

デザイナー / 佐藤 ユウ

「おかか」 まつだこうた

■ バカバカしい夏休みって本当にすばらしいなー。子供に戻れるなら仲間に入りたい！

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川元良

「おしえて！ギャル子ちゃん」鈴木健也

- ギャル子、ええこやわー。ずっと孫を見守るような気持ちで読んでます。大事なことなのでもう一度。ギャル子、ええこやわー。

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川元良

- オタクのフォークロアである「オタにも優しい気の良いギャル」を具現化するとこういうことになるのではないかなという秀作。

住職・ライター / 蟬丸P

「オリオリスープ」綿貫芳子

- ご飯漫画は数多くあれど、スープ漫画はこれが唯一ではないでしょうか…どれもとにかく美味しそうで、たまりません。主人公の織エさんがくるくる表情を変えながら美味しそうにご飯を食べる姿も…好き…。

株式会社ゲームーズ 本部 / 岡田 はる花

「お前は俺を殺す気か」シギサワカヤ

- あたくしも美人眼鏡姉妹に殺されそうになりたいです。そんなあなたにおすすめ。

同人誌即売会 眼鏡時空 主宰 / 田中海渡

「カタワレノワレワレ」ノッツ

- 表紙だけ見て、よくある日常系ほのぼの四コマ漫画かと思ったらそれは大間違い。「笑い」もふんだんに盛り込まれてるけど、それをはるかに上回る「せつなさ」があって時折涙腺が緩んでしまう。笑って泣ける四コマ漫画、すごいです。

醤油製造業 / 小野塚博之

「カッシン〜さみしがりやの天才〜」吉本浩二

- 「ブラック・ジャック創作秘話」と同様、勝新太郎にかかわった人々を取材して描写することで、その魅力をより描き出す手法は見事。絵柄のタッチもその路線にはまっていて、時間を忘れて読み込んでしまう。

まんたんウェブ編集部 副編集長 / 河村成浩

「かわうその自転車屋さん」こやまけいこ

- 愛すべき自転車！ロードバイクもクロスバイクも、はたまた電動自転車からリカンベントまで、ありとあらゆる自転車への愛を語らせたら右に出るものはいない、かわうその店長さんが経営する自転車ショップと仲間たち（みんな動物）のお話。毎回感心させられたり笑ったりしながら読んでいて、専門的な自転車のことも描いているのにどれもすごく分かりやすく楽しいんですよね、凄い！可愛い動物好きなひとにも、自転車好きな人にも読んで欲しいマンガ。とにかく面白いんだから！

啓文堂書店 本社勤務 / 山川美香

- 何と言っても、かわうそ店長がカワイイ!!! この店に集まるみんなもかわいく、ほのぼの。でも自転車について詳しく描かれています。近所にレストランを併設している、ストラーデ・ピアンケみたいな自転車店があるそうで、これは一度行かねばと思ってます。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

「クジラの子らは砂上に歌う」梅田阿比

- 「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」 ポール・ゴーギャンが、故郷のフランスを遠く離れたタヒチで描いた1枚の絵につけたこの題に、様々な思いが込められているだろうことは想像に難くない。流れてたどり着いた地に住まい、画家としての己を振り返りつつ、遠くはない死の訪れを感じながら、浮島のように根を持たない自分の今を見つめ直そうとしたのかもしれない。我々という総称をそこに付けることによって、時代の変化に押されながらも踏みとどまろうとして果たせず、苦悶しながら未来へと流され、変わっていく人間と世界を思っ、そんな言葉を綴ったのかもしれない。ひとつの場所に留まり、大きな変革など訪れないまま日々を過ごし、月々をこなし、年々を重ねていくだけの暮らしだった時代には、人は多分、どこから来て、何者で、そしてどこに行くのかといった思いにとらわれることはなかっただろう。世界が開け、動きが激しくなったからこそ人は、己の過去と今を見つめ直し、未来を考えるようになった。そこには不安も宿るだろう。けれども希望の光も射す。先にどんな困難が待ち受けていようとも、さらに先に来る幸福のために人々は変化を受け入れる。砂漠を流離っていた泥クジラの上で、異能の力を持った印つきの若者たちが短命ながらも活発に働き、印がなく力を持たないものたちが統率を司ることによって、人々は平穏な日々を過ごし、月々をこなし年々を重ねていた。それが激変を迎え、帝国と呼ばれる勢力の襲撃によって、泥クジラの住人たちの少なくない者たちが命を失い、そして泥クジラがいったい何かを教えられた。隔絶された平穏は崩れ、大会の荒波にのみ込まれそうな中で、泥クジラの住人は自分たちがどこから来て、そして何者なのかを知った。梅田阿比の『クジラの子らは砂上に歌う』（秋田書店）というマンガ作品。彼らを原罪を負った者たちと誹り、殲滅しようと乗り込んできた帝国の襲撃を、少なくない犠牲を払いながら退けた泥クジラの人々は今、どこへ行くのかを自らに問おうとしている。遭難していた青年とその一行を拾い、尊大ではあっても横暴ではない彼の示唆も受けて、泥クジラは長く留まっていた砂の海域を抜け出して、新たな、そして初めての経験を積もうとしている。その道中に現れる不思議な現象。長い長い人々の営みからこぼれた残滓に触れ、記憶を受け継ぎ経験を増しながら泥クジラはどこかへ行こうとしている。そこにはいったい何があるのか。背負わされた原罪をようやく払い、自由を得た泥クジラの住人たちに永遠の平穏は訪れるのか、それとも……。泥クジラという存在が人の生命を求める謎、そんな泥クジラから浮かんで人を惑わす存在の目論み、いずれも未来を安易に平穏なものとはさせない可能性をはらむ。それでも泥クジラは行く。大勢の人々を乗せて。ポール・ゴーギャンの問いのうち、我々はどこから来たのか、そして我々は何者かを知ったクジラの子らが、どこへ行こうとしているのかを見定めることで、今、国家や経済といった強固な基盤を揺るがされ、曖昧さを増しつつあるこの世界を生きる自分たちにとって、どんな決意が、あるいは諦観が必要なのかに分かるかもしれない。だからこそ今、『クジラの子らは砂上に歌う』は読まれるべきだ。絶対に読まれるべきマンガだ。梅田阿比

書評家 / タニグチリウイチ

- まず絵がとにかくかわいい！アニメやゲームになってもきっと綺麗。砂の海に浮かぶ漂泊船“泥クジラ”で暮らす人々の自分を探す旅だったり戦争だったり盛りだくさんな内容だけど、設定がかなり作りこんでるので世界観にどっぷり浸ることができる。

アニマックス 広報 / 西尾 美里

「グッドナイト、アイラブユー」たらちねジョン

- 「旅本」バックパッカーや一人旅が好きな人にオススメです！映画っぽく、母親の遺言から旅が始まり旅先で会ったひとたちに影響を受けて主人公がどんどん変わっていく。王道かもしれませんが読んでてすごくHappyになれます。あと、旅に出たくなる。人と関わりたくなる。人を知りたくなる。ああ～ユーロスター乗ってみたい！！（すみません。鉄心がダダ漏れました）

アニメイト 営業支援部 販促宣伝課 / 鈴木寛子

「くまみこ」吉元ますめ

- くま！！めっちゃかわいい！！最近異類婚姻譚ものってたくさんでてますが、人語がしゃべれる熊とコミュ障と厨二病がまじった、田舎の女子中学生を組み合わせるなんて！！くまさんが都会や近代家電に詳しいのがたまらなかったです。

鳥取県 美術教諭 / 佐川由加理

「ぐらんぶる」原作・井上堅二 漫画・吉岡公威

- 原作は「バカとテストと召喚獣」のラノベ作家。キャラクターの表情が出せるマンガの長所をフルに生かし、マンガに合わせた作品にしたのが伝わってくる。大学生の破天荒な生活をイメージでうまくとらえて、一緒に騒いであるような気分になれる。

まんたんウェブ編集部 副編集長 / 河村成浩

「こいいじ」志村貴子

- 大人の恋愛はほろ苦くて、うまくいかないことばかり。現実とかがらみとかいろいろありすぎて、ロマンティックとはほど遠い。でも主人公の一途さ、どうしようもない恋心が、やっぱりかわいいなあと思ってしまいます。

主婦 / 安田奈緒美

「コーラル？手のひらの海？」TONO

- 人魚の話？いえいえこれは人間の珊瑚ちゃんが描いたストーリー。空想の話だけど、人間関係にトラブルがあるとお話しにも影響がでちゃう。人魚の世界と現実の世界とが交わって描かれた心理描写がTONO 先生さすがです…！！

薬剤師 / 山崎友里

「コトノバドライブ」芦奈野ひとし

- 主人公が勤める喫茶店からバイクで帰る帰り道の道草を描いたマンガです。主人公が感じたものや見たものを、湿度、空気、においまで感じられそうなくらい、丁寧に穏やかに描いているので、気候のよい日に散歩してちょっと嬉しい発見をしたときの、胸のすくような感じを味わえます。心を緩めてくれるマンガなので、ほっと一息ついたときにオススメです。

システムエンジニア / 廣瀬公将

「コンプレックス・エイジ」佐久間結衣

- インターネット上で公開された、ロリータファッションを趣味とする 30 代女性の読み切りが話題となり、「20 代後半の派遣社員をしているコスプレイヤーの漫画」として連載が始まった作品。その題材で注目を集めることが多い気がしますが、完結まで読んでみて「どうしても離れることが出来ない趣味」「呪いにも似た好き」を描きぬいた作品だな、と感じました。「好き」に呪われた人ほど響く作品ではと思います。

事務職 / 工藤圭

- 個人的にコスプレ趣味はないのですが、知り合いに好きな人はいます。本作は「人はなぜコスプレをするのか」という物語。コスプレ文化は 1970 年代末から始まった、あるいは認知されたいようですが、一貫して「女性主導」の文化と言えます。その理由も少しわかった気がしました。びっくりするくらい話が重いです。家族の無理解、レイヤー同士の確執、傷だらけになりながら「好きなものは捨てられない」と叫び続ける主人公……。レイヤーと鑑賞者との間に発生する、キャラを媒介とした「共同幻想」がコスプレの楽しさ。その素材は自らの肉体だから、女優やスポーツ選手に似て、必ず「年齢的限界」に突き当たる。その残酷さを、これほど容赦なく描いた作品を知りません。一方、ラストには不満もあります。これまで突き詰めてきたテーマが台無しじゃないか？ でも主人公には笑顔になってほしいし、難しいところです。そういう話を、ぜひ読んだ人としなくなる作品です。

読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局 専門委員 / 石田汗太

「さよならガールフレンド」高野雀

- とある地方都市に暮らす J K の、どうしようもなく閉塞した日常感がリアル。そして彼女は出て行き、街はこれからも変わらない。いつか帰る日が来るとしても。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

「ご注文はうさぎですか？」 Koi

- 今更感もあるかもしれませんが、萌えとギャグとキャラクターの関係とここまで可愛くてバランスの良いコミックスは中々無いと思います！アニメ化も成功し、ここ最近の萌え枠では No.1 と言っても過言ではないと思います。どのキャラも良いですが、メインヒロインであるココアの底抜けの明るさとポジティブに元気を貰えます。只の萌え四コマと侮ることなかれ。

通販部 / 日吉 雄

「シスターとヴァンパイア」 暁

- 昔、自分の中で「白泉社（花ゆめ）」というカテゴリーが存在した。新興版元がひしめく現在のコミックマーケットにおいて正直埋没気味に思っていたが、久しぶりにチャレンジングな作品に出会えた。古豪復活のランドマーク的な存在になるかもしれない。おおきく期待！

本と文具ツモリ / 津守晋祐

「じょしよん」なるあすく

- 同人誌時代から追っかけていた作品の待望の商業誌化！いや嬉しい！こちらの予想を見事に外すオチ。独特のテンポ。表情パターンが少ないのに、なぜか感情のブレが見えてそれが面白い。女子ばかりな(男の娘も出てくるけど)ところがまた“ラブリー”で、ちょっとした百合要素もかわいくて楽しいです！表紙の赤と黒だけでまとめた配色もすごくキャッチーでした。思わず手に取ってしまいましたね。この独特なノリとギャグ、ちょっとした空き時間、例えばトイレタイムなど、そんな短い時間の娯楽に特にオススメです！

COMIC ZIN 商業誌部門責任者 / 塚本浩司

「スティーブ・ジョブズ」ウォルター・アイザックソン、ヤマザキマリ

- 他にもあるジョブズの漫画と異なるのは良い意味で“嘘”が無いこと。読んでみて思うのは、独善的過ぎて絶対友達にも上司にもしたくないということ。よく言う偉人はまるで神か何かのように語られがちですが、同じ時代を生きた偉人だからこそ知れる“本物の偉人の人間臭さ”を知れるのもいい機会だと思います。

デザイナー / 佐藤ユウ

「スティーブズ」松永肇一、うめ

- 二人のスティーブを軸に世界を変えた男たちのドラマを熱く熱く描いたマンガです。二人天才スティーブス、APPLE 草創期を支えた優秀な仲間、まだ幼い APPLE を厳しく温かく支える大人たち、強力なライバルといった、どれか一つだけでもわくわくが止まらなくなるような魅力的な登場人物たちが、世界を変えようと奮闘する姿が心に火をつけてくれます。技術的なことを教えてくれるビジネス書に対して、このマンガは物事を前に進めるために必要な、魂というか、熱を授けてくれると思います。日々仕事を頑張るすべての人にお勧めのマンガです。

システムエンジニア / 廣瀬公将

「ストラヴァガンツァ」 富明仁

- 女の子たちが、健康的な色っぽさで、ワクワクします。戦闘のテンポが激しくて、ドキドキして、夢中になって読んでしまいます。

有隣堂 / 桶谷佳代

「スミカスミレ」 高梨みつば

- 他人の為に自らの青春を費やし気づいたらおばあちゃん、。主人公のおばあちゃんが健気で可愛いし、韓流みたいなイケメン達がイイ！

漫画家専門鍼灸師・理学診療士 / 碓氷麻里子

「すみっこの空さん」たなかのか

- 生きる事が辛いからこそ、人は考えるんだなぁと納得してしまう「てちゅがく」(哲学)コミック。うんうん頷いたり、ほろっと来たり、にやにやしたりと忙しいです。電車の中では読めませんな。

文教堂書店浜松町店コミック担当 / 金田健太郎

「ゼロ式」伊藤七つ生

- かつて戦場を駆けていた戦闘機を民間で使おうと奮闘する、若き社主と仲間たちのお話……なのですが、なんと『その世界』の戦闘機は鳥!! なんです。これ以上は何を書いてもネタバレになってしまうので書いてはいけないよなあ……でもあれについてもこれについても語りたいんだよーという、少しだけノスタルジックで素晴らしく斬新なSF。すごく好き。続きは出ないんですかね出版社さん!

啓文堂書店 本社勤務 / 山川美香

「その「おこだわり」、俺にもくれよ!!」清野とおる

- 『おこだわり人』=『日常生活の中で別にこだわらなくてもいい事にあえてこだわり、そこに自分だけの幸せを見だし、コソコソと楽しんでいる輩』と名づけ、そのおこだわり人にどんどんインタビューしていくという着眼点がまず面白かったです。さらにその「おこだわり」行動の他人から見たときのしょうもなさすごいのに、読んでいううちになぜか真似したくなってしまう描かれ方もすごい! 普段食べている何でもない食べ物、何気なくしている行動をこんな意外な方法で、自分ひとりでニヤニヤ楽しんでいる人たちがいるなんて! と、驚かされました。インタビューするうちにどんどんテンションが上がっていく清野先生にこちらも同調してしまい、思わず「その おこだわり、俺にもくれよ!!」と、おこだわり人の人たちに叫びたくなってしまいました。退屈な日々をどう楽しんで生きるかは自分の心持ち次第だな、と、あらためて感心させられる作品です。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

「その女、ジルバ」有間しのぶ

- テーマが段々と重くなっていますが、読んだ後の読後感が凄いです。本当に色々な人に読んで貰いたい作品。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

- 40歳、独身。人生崖っぷちに追い詰められた、主人公が迷い込んだのは、ホステスの平均年齢60歳オーバーの超高齢BAR……という設定がまず面白くて引き込まれる。リストラされて、職場では厄介者扱いされているアラフォー女性も、BARでは小娘でギャル扱い。どうしてもなくリアルな老いと貧しさが描かれながらも底抜けに明るい。年をとるのはぜんぜん怖くなくて、まだまだ楽しいことがたくさんあるんだなぁと思わせてくれる一冊。

馬場企画 / 島影真奈美

「だがしかし」コトヤマ

- 登場人物達も駄菓子も魅力いっぱいです。駄菓子はよく食べますが、その歴史の長さにビックリです。各話の扉絵の力の入れ具合にビンラムネで乾杯!

バンドマン / TA-SHI

- この駄菓子を題材にしてこの面白さを描く先生に脱帽。駄菓子の素晴らしさ(笑)が伝わってくるし、駄菓子が好きなことも伝わってくる。アニメにもなったこのタイミングですすめるのも思ったけど、おすすめします。駄菓子って素晴らしい!

三省堂書店海老名店・囃託社員 / 近西 良昌

- アニメ化された作品をノミネートするのは心苦しいですが、「駄菓子紹介ギャグ漫画」というジャンルを確立(?)した功績を高く評価したいと思います。なつかしい安永浩一郎さんのノリは思わず引き込まれる方も少なくない!? 実在する駄菓子の魅力は、誰しもが感じる懐かしさかと思います。とにかく一読を!

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

「たそがれたかこ」入江喜和

- アーティストにハマるファンの日常という普段、スポットが当たらないサイドが主役だが、人を応援する気持ちの温かな温度が心に伝わってくる作品

マンガソムリエ・コラムニスト / 原田まりる

- うん。なんか、なんだか。すごくいいんです。スポットライトの下じゃない、でもだからこそ愛おしい小さくてあたたかい人の心の光が描かれているかんじです。

アナウンサー / 松尾 翠

「ちづかマップ」衿沢世衣子

- 古地図や、地形に注目して散歩するプラタモリの散歩をフレッシュに描いたマンガです。高校生の主人公たちが純粹な好奇心に基づいて散歩を楽しんでいる姿は、読んでとても心地よいです。マニアックな蘊蓄に満ちたものになりそうなテーマを、自然体で清々とした印象で語れるなんて、こういうのを粋なマンガと言うのかなと思いました。散歩の初心者から達人まで、散歩を愛する全ての人にお勧めのマンガです。

システムエンジニア / 廣瀬公将

「ちひろさん」安田弘之

- 人生に悩むひとはみんな心に小さなちひろさんを飼うべきだ！と思っちゃうぐらい、ちひろさんの生き方には憧れます。

ライター・研究者 / トミヤマユキコ

- ちひろさん、格好良いです。空気感が、心地良い。

有隣堂 / 桶谷佳代

「デザートイーグル」和久井 健

- 新宿スワンの作者が、少年誌にやってきた！！といった感じで、新宿スワンのダーク過ぎた部分をいい形でマイルドにした作品で、今までの少年誌になかった形の漫画なので期待。

テレビ朝日ミュージック / 藤井紀公

「デジマンデス」宗我部としのり

- これはまさに今読むマンガと言えると思います。マンガ業界物はこれまでもたくさん発表されていますが、デジタルマンガ業界に絞った作品は自分は初めて読みました。本作ではデジタルマンガ業界、IT 会社によるマンガ業界、マンガ業界とは違う常識を持つこの新しい業界が舞台です。主人公のマンガ家はこのスマホ、デジタルコミックを通じてデビューをするわけですが、これまでマンガ業界で経験してきたものとまるで違う、デジタルコミック業界ならではの常識に戸惑い、振り回される様子が描かれているわけですが、この違和感、戸惑いに近いモノを自分もデジタルコミック業界の方とお会いした際に感じたことがあって、その点ですごく共感しました。そういった意味ではまさにいま読むべきマンガだと思いますし、その点でぜひここで紹介したいと思いました。もちろんマンガと違って実際の編集さんが劇中のように●●を見せてくれるようなことはないと思いますが、これまでのマンガ業界モノとは違う読み応えがあります。ぜひ読んでみてください！

COMIC ZIN 商業誌部門責任者 / 塚本浩司

「デストロ 2 4 6」高橋慶太郎

- 巻が重なり、少女たちによる殺し合いの日々はさらに激しさを増して、前作の「ヨルムンガンド」シリーズとはまた違った、普通ではない人々が生きる世界の苛烈さといったものを強く浮かび上がらせる。殺し屋として育てられた少女 2 人を南米で買い取ったと同時に、前の飼い主を殺害させ、そして日本に連れてきて、自分の妻を殺した勢力を徹底的に追い詰めようとする実業家が、反撃を食らって命を失ってもなお、南米から来た 2 人の少女の殺し屋たちは留まらず、命令を絶対のものとして主人の仇となる勢力を脅かし続ける。一方で横浜を拠点に暴力組織を仕切っている少女は、刃物を巧みに使う少女や圧倒的なパワーで男の背骨すらへし折る少女を従え、自らも毒を操りシマを荒しに来る連中を始末し続ける。現実にはそんなことがあり得るのか。美少女たちがケーキでも切るように人肉を刻みペッツでも頬張るように銃弾を放って人肉を穿つ。あり得ない。けれどもあって不思議がないくらい、少女たちの存在感は強く意思も固くてひょっとしたらあり得るのかもしれないと思わせる。南米から来た少女たちに仕込まれた何かが解かれた果てにどんな状況が訪れるのか。殺し屋として仕込まれ政府の下で働く殺し屋の少女が記憶の呪縛を打ち破って自由を得る時は来るのか。CIA から送り込まれた圧倒的な戦闘力を持った殺し屋に、横浜の暴力組織のトップを仕込んだほどの最高ランクの女殺し屋といった大戦力も加わって、くんずほぐれつの状況となった東京に、あるいは横浜にいったいどんな派手な殺戮が繰り広げられるのか。そして最後に立っているのは誰なのか。読み始めたらそんな興味に心を奪われ、ラストシーンが描かれる時を待つしかなくなるはずだ。

書評家 / タニグチリウイチ

「デッドデッドデーモンズデデデデデストラクション」浅野にいお

- 絵がすごくかっこいい。予測不能で緊張感のあるストーリーも好み。

PENICILLIN / HAKUEI

- 浅野いにおはリア充しか読んだらアカン。そう思っていた過去の自分に平手打ちしたい。ヤバーイ！人類はどうなってしまうのか！

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川元良

- 「ここだって急行でたった二駅行った所が戦場なのに」。どこか遠くの暑い国の出来事ではなくて身近な、ニュース画面ではなくて自分の目で見られる戦争を、絵空事を得意とするマンガというプラットフォームを使ってどう描くか。3DCGとかでいくらかでもリアリティーを引き寄せることができる時代だからこそ、マンガ家は、作者と読者の間にこれまで長い時間をかけて培われたマンガならではの約束事を援用しながら、それぞれの試行錯誤を日々続けている。見開きいっぱいのツインテールの後ろ頭と特大の活字だけ。女子高生おんたんの悲しみを表情抜きで、描き手自身の悲しみを、作中の仲良しグループの皆に、そして今このマンガを読んでいる読者にぶつける作者の覚悟に胸が詰まる。自身の無力を知る 10 代はいつだって悔しい。いつの時代だって 10 代は傷つきながら生きている。ましてやどうにもならない、先も見えない戦時に生きなければならないやりきれなさ、それこそいまや絵空事で済む話ではない。そんな焦燥がヒリヒリと伝わって読むのが辛い。それでも、2 月末に出るという 4 巻をじりじりしながら待つ自分がいる。

日本経済新聞記者 / 天野賢一

「トモダチゲーム」山口ミコト / 佐藤友生

- 最近よく見かけるデスゲームかと思ったら、「アクマゲーム」のような頭脳戦のお話でした。裏切りや友情が入り組んで、次の展開が読めないのがとにかく面白い！！早く次巻読みたい???！

女優・セミナー講師 / 大倉照結

「トクサツガガガ」丹羽庭

- こんなに特撮ファンの心を代弁してくれる漫画は初めてでした。「ホントそうっ！！！」と言って隣にいる友人の肩をひたすらパンチです。

バンドマン / TA-SHI

- この作品の主人公・仲村さんは、小さいころから特撮ヒーローにどっぷり浸かってヒーローがどんな闘いを乗り越えてきたか、どんなメッセージを残してくれたか、心の芯のところに深く刻み込んできた【特オタ】です。彼女は、日々、身の回りで起こる大小さまざまな問題に対して、ヒーロー——時には、それのみならず、特撮作品の作り手、売り手も——達の考え、機転から得たものを駆使して向き合い、取り組んでいきます。こどもの頃、誰もが観て、聴いてきたはずの特撮ヒーローの教えを、何故彼女はここまで、自分の生活に活かしていけるのか。それは、きっと彼女がとても真摯に作品の魅力を見つめていたからでしょう。脚本が誰だとか、造形がどうだとか、オモチャの販売戦略がどうだとか、そういうオタク然とした部分も、トーゼン仲村さんはカバーしています。憂えています。が、それ以上に、特撮作品の中核であるところの「ヒーローは、この先大人になる子供たちにとっての憧れである」という所を誤解なく理解しています。大事なものであると誤解なく理解したからこそ、大人になった今もヒーローたちの言動に倣った行動が出来るのだと思います。最近ではいわゆるオタクの裾野も広がって、アニメや漫画、特撮作品もかなり雑に消費されてしまうことも多いように感じます。(「タイムリープもの」「異能力バトルもの」とか大雑把なラベリングをして観た気になっちゃう人も多いいぼいですし。何とは言わないけど……) そんな中、オタクが作品と向き合うとはどういうことか、というのを極めて端的に、極めて本質的に示してくれるのが、この作品です。基本的にコメディ調ですが、オタクとしてのありようを真っ直ぐ貫く仲村さんが非常にカッコ良く、熱血を通り越して、時に涙すら誘います。コレで泣ける人は、きっと仲村さんに近いタイプのオタクです！オタクであることに誇りを持っている人ほど読んでいただきたい作品！！

株式会社アニメイト 町田店 / 岡ノ部亭 真泰

「とりかえ・ばや」さいとうちほ

- 古典はこんなにドラマチックで面白いんだと思い知らされます。なかなか原作は手にとれないけど、マンガで読める幸せを感じます。

主婦 / 紺野 泉

- 平安の男と女のとりかえ物語ですが、さいとう先生が描くこんな美しい世界に！大コマでの魅せるシーンがうっとりするくらいにきれいで…！！主上や東宮とどんな関係になっていくのかワクワクドキドキがとまりません！

薬剤師 / 山崎友里

「ど根性ガエルの娘」大月悠祐子

- 今年は業界裏話マンガが熱い。

DJ / 高橋ひでつう

「なり×ゆきりビング」乃花タツ

- ひょんなことで同居することになった2人のOLのお話。あくまでも「同居」であって、「同棲」ではない、女子、大人の女子友情らしく、その距離感がウェット過ぎず、ドライでもない、絶妙な感じが読みやすく、読み手として毎回和まされます。作家としての乃花先生は以前からそのキャラビジュアルが大好きで、注目していましたが、今回の主役の2人のビジュアルも清楚系・メガネ美人と元氣系おてんば娘がいい意味でわかりやすく描き分けられ、そこもまた読むと同じくらい見ても楽しい作品です。いわゆる眼福というやつですね。きれいなお姉さんが好きな男子には特にオススメですよ♪

COMIC ZIN 商業誌部門責任者 / 塚本浩司

「ナリキン！」鈴木 大四郎

- サッカー漫画は多いけど、棋士がサッカーはなかったかも！しかもありがちなサッカーにシフトしてしまう漫画ではなく将棋も並行していく所が凄いw主人公をはじめとした個性的なキャラクターも楽しいです。

株式会社スマイルアクス 営業 / 岡村光徳

「ニューヨークで考え中」近藤聡乃

- 愉快だけれど愉快過ぎない、静かだけれど何もないわけではない。そんなニューヨークでの日常を描いたエッセイコミック。軽やかな線がとても好き。2 ページ見開きで 1 回分、ゆっくり大事に何度も読み返したくなります。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

「ねじの人々」若木民喜

- 可愛く、とっつきやすい絵柄とは裏腹に、しっかり哲学を考えられる漫画。面白いというと語弊があるかもしれませんが、何かを考えるきっかけになります。

株式会社ゲーマーズ 本部 / 岡田 はる花

「バーナード嬢曰く。」施川ユウキ

- 視点はクールだけど、キャラはマジという、捻じれたバランスがたまらない。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

- ビブリオネタマンガと思いきや、百合いや女子友情マンガとしてもめっちゃくちゃ面白い作品に！こういう友達がいると楽しいですね。とても素敵な関係です。特に神林が町田さわ子と会話を重ねることで自分を好きになっていく様子は本当にモエてしまいます！電車のシーン、窓にうつる自分の顔を見た神林の顔が本当に素敵でしたが、同じように手紙の話での神林の悩み、そしてやっぱりオチに思わず突っ込みたくなりました♪続刊モノはランキングに選ばない主義ですが、その主義を覆すぐらいにこれはダントツです。楽しい時間が過ごせました♪

COMIC ZIN 商業誌部門責任者 / 塚本浩司

- 登場人物たちがみな本への愛に満ちていて、そのどれもが素直で等身大なところに感動します。どんな本に対しても、ああ自由なんだ、自分なりの愛し方でいいんだ、と思えます。

会社員 / 末永龍介

「ハクメイとミコチ」檜木祐人

- 身長 9cm の小人、ハクメイとミコチの日常を描いたシリーズ。表紙、表紙をめくってすぐの見開きも絵本のように装丁からすぐに世界観に惹きつけられます。小人たちの生活（アーモンド一個を食べるにもカンナで削って食べるような描写の細やかさ！）、ストーリーそのものの童話のようなかわいらしさも魅力ですが、細部まで丁寧に描きこまれた各コマ各ページが大変美しく、何時間でも眺めていたくなります。年に 1 回刊行のスローペースですが、新刊がいつも待ち遠しいシリーズです。

事務職 / 工藤圭

- 画力がすごいと思うのと、こびとの世界観がすばらしい

Hair Make Lounge tetote 代表 / 力丸 真

「ハケンの麻生さん」仲川麻子

- 虫が好きな人はきっと共感できるはず！虫を前にするとイキイキする麻生さんがかわいいです。

株式会社ゲーマーズ 本部 / 岡田 はる花

「はたらく細胞」清水茜

- まさか細胞が擬人化される日がくるとは思いませんでした。キャラがみんな個性的で、自分の体内のこととは思えないくらいハチャメチャなコメディで力を抜いて楽しめます。人間の内側でだって、こんなに社畜がいるし、こんなに出会いやハブニングがあったりするんだ、と親近感すら感じます。変な感じだけど、この細胞の世界ではたらいてみたい…！！

会社員 / 宇田川 結衣子

- スケール感を出しつつ、ちゃんと体内だけで世界が完結しているのが徹底していていいです。うまいとこ擬人化したな？と思いますが、うまいんだからいいじゃない。ということでオススメ。血小板が幼児ってというのがとてもいいです。

株式会社来知 WEB デザイナー / 河本 智芳

- あなたの体の中はこうなっている・・・?? 学研の「ひみつシリーズ」が好きだった人は楽しめることうけあい。個人的にはマクロファージさん（ナニーでドレスで攻撃力ハンパ無い美女←細胞ですが）が好き。とことん体の中のお話だけで物語が進むのですが、そこがまた面白い。続き楽しみにしてます！

啓文堂書店 本社勤務 / 山川美香

- 体の細胞を擬人化して、ギャグ満載で面白く、勉強にもなる？

芳林堂書店高田馬場店コミック責任者 / 天野能宏

- タイトル通りの細胞の話。擬人化もここまで来たか！と思いつつ、読んでみると面白い。人間の体の中で毎日細胞たちによる戦いが起こっていると思うと、楽しいですね！力をあわせて、体を守る細胞たち。そして、赤血球がかわいい。今後、ランゲルハンス島とかでバカンスとか期待。

デザイナー / 平沼寛史

「バトルスタディーズ」なきぼくろ

- これこそがリアル高校野球！今、明らかにされる PL 学園野球部の真実！不条理な上下関係、鉄の規律、高校野球部は社会の縮図だった。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一

- 実在の高校をモデルにした漫画。3 年間の地獄の高校野球生活を通して、今後どのような展開がまっているのか楽しみ。3 年間のストーリーをダラダラ伸ばすのではなく、一気に内容を濃く進んでいただければと思っている作品。

テレビ朝日ミュージック / 藤井紀公

「はねバド！」濱田浩輔

- まず、キャラクターがとても可愛くて魅力的でした。それもあって最初は、最近多く見受けられる可愛い女の子がキャッキヤする部活物かな？と思い読んでいました。ですが話数が増えていく事にバドミントンに対する熱が大きいくねりを上げて読み手に迫ってきて、衝撃を受けたのを覚えています。3 巻以降から絵のタッチを大きく変え、さらにスポーツ漫画として尖りを見せた時、「これはもっと多くの方に知ってもらうべき作品だ」と確信しました。スマッシュを打つ時の、筋肉の軋みが聞こえてくるかのような力強さ、躍動感は見。こんなスポーツ漫画は、見た事ありません。

LIBRO ecute 大宮店 コミック担当 / 首藤 瑛

- 物語の進捗と共に、キャラクターごとのパーソナルな部分が深まってきて、スポ根としてもしっかりと楽しめるようになってきて、続きがとても気になります。

ミュージシャン / 杉本善徳

「ハリガネサービス」荒 達哉

- バレーボール漫画自体もあり多くないですが、ピンチサーバーが主人公の漫画なんて今まで読んだ事がなくて興味を持ちました。主人公はもちろんチームメートの成長や葛藤、青春を楽しみに読んでいきたいと思います。

株式会社スマイルアクス 営業 / 岡村光徳

「ハルロック」西餅

- だーいーすーきー！！！！いやー、どんだけ笑ったか！「なんで作ったの？」「手でやったほうが早い！」という禁句を高々と掲げ、物好きたちが大爆走する発明自作系コメディ。女子大学生がお母さんを自作のスタンガンで倒しちゃう日常系、ってどんなストーリーなんだか！そして、RaspberryPiとかArduinoを使えば本当に作れちゃう、という時代の側面を切り取って、単なるギャグマンガでは終わらない、じつはすごい仮説に満ちた作品。

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

「ハルロック」西餅

- 電子工作オタ女子を描くコメディにして、創作の愉しさを伝えつつ、現実社会に沿う着地点を示した傑作。全体の流れが美しい。

書評系ライター / 福井健太

「パレス・メイヂ」久世番子

- どんどん面白くなっていくマンガその一にあげるとしたら、どれ？と考えて選んだマンガが今回の5本だったのですが、このパレス・メイヂは5巻まで来て、彰子さま（陛下）の将来やそれぞれの恋心が徐々にあぶり出しのように表に浮き出されてきて、はらはらが止まりません。うおー彰子さまーどうか幸せになってくださいー！

啓文堂書店 本社勤務 / 山川美香

- お話も佳境な今がまさに読みどきです。相手を思うことすら許されない身分差な恋愛に痺れます。

ブックファースト新宿店 / 渋谷 孝

「ピアノのムシ」荒川三喜夫

- ピアノに詳しいとか以前弾いていたとかそんな前置きは一切関係なく惹き込まれる作品である

コロムビア・マーケティング株式会社 福岡オフィス / 阿部大介

「ふしぎの国のバード」佐々大河

- 主人公のバードさんがとにかくかわいらしい。彼女にとって異国である当時の日本文化のひとつひとつに対しての反応が、喜怒哀楽がとても素直なので、読んでこちらまで新鮮な気持ちになります。この先どんな出会いがあるのか、どんな反応をするのかが楽しみです。通訳の伊藤とのやりとりが変化していくのかも気になります。

会社員 / 宇田川 結衣子

- 知りませんでした。明治初頭、イギリスの女性冒険家イザベラ・バード氏が東京から北海道のアイヌ集落を目指して旅をして、その旅行記を書いていたなんて。失われつつある江戸時代の風俗、文化、どこか懐かしい人々のしぐさが漫画で読めるのはありがたいです。「今この国でひとつの文明が滅びようとしている・・・滅びは誰にも止められない。しかし、記録に残すことはできる」という文中の述懐は、心を打たれます。江戸から明治に変わりつつある社会のありようは、多くの方に思い起こしていただきたいと思います。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- 明治時代の実在の冒険家、イザベラ・バードの日本での冒険をマンガにしたらこうなった！日本人の私たちが、もしかしたら一番昔の日本のことを知らないのかもしれないね・・・と思いながら読み進めました。なんとって一番の感想は、マンガの中に描かれていること、知らないこと多すぎ（笑）でしたから。まだ起承転結の起の最初のほうなのですが、とにかく読み進めるとガツンとバードさんの楽しいやしゅんぼりが伝わってきて、とにかく続きが読みたくなるんですよ。なんでまだ1巻しか出てないの・・・？ブ○タモリの軽井沢の回で紹介された人、といえれば分かる方もいらっしゃるかな、ぜひ！

啓文堂書店 本社勤務 / 山川美香

「ひとり暮らしのOLを描きました」黒川依

- 苦しくて哀しくて切なくて寂しくて。辛くて酷くて悔しくて痛ましくて。 黒川依の『ひとり暮らしのOLを描きました1』（徳間書店）を読んで浮かぶ感情。それは、主人公への同情であると同時に、自分自身への卑下にも似た憐憫の情となって全身を包んで、どうにも居たたまれなくさせる。身をかきむしりながらのたうち回りたいと思わせる。 描かれているのは、タイトルどおりに、ひとり暮らしのOLの日常で、そこにはどこか奇をてらったような展開はなく、ひたすらに淡々と、ひとり暮らしのOLにありそうなエピソードが綴られている。そして、そのことごとくが苦しくて切なく、辛くて痛ましい。 とても良い天気なのに会社に行かなくてはならず、抑えられない感情から目に涙が滲む。ようやく部屋の掃除ができたと思ったら、ゴミをつめたゴミ袋に入れた箸がビニール袋を突き破って飛び出してしまう。気がつくとも1カ月が過ぎ去って、何もしていなかったことにふと気付く。溜めてしまった洗濯物に手を着けられず、その上に寝転んで呆然とする。 誰にだってあることで、とりたてて騒いだり嘆いたり、落ち込んだりすることではないのかもしれない。そんなことにとらわれていたら、この厳しい世の中でひとり生きていくことなんて出来はしない。もっとおおらかに。もっと適当に。そうやって過ごしていれば、毎日なんてすぐ過ぎ去って、そして哀しみも切なさも、酷さも悔しさも感じないで済む。たぶんそうだろう。 そして気がつくとも、自分自身がそうした諦めの上に毎日を惰性で過ごしている。晴れているからといって会社に行くことを厭わず、洗濯物が溜まっているからといって嘆かず、週末を夕方過ぎまで眠ってもまあいいかと受け流し、二次会に行こうと誰からも誘われなくてもそれが当然だからと納得し、ひとり家に帰ってネットに溺れる。そのことを哀しいとも切ないとも思わない。やがて見渡すと、何十年も経ってすっかり老いの境地に。それが人間、現代の都会に生きている。 けれども、本当にそれで人間として良いのだろうか。毎日はもっと明るさにあふれ、楽しさに満ち、夢とか未来とかいった言葉に引っ張られて、前向きに過ごしていった果てに、何か嬉しいことが待っているかもしれないと思い、生きていくべきではないのだろうか。諦めたくないのに、どこか諦めてしまっている自分自身を振り返った時、毎日の出来事に哀しみを覚え、辛さを感じ、痛々しさを醸し出してみせるひとり暮らしのOLの姿は、人生をまだ諦めていないといった思いを、放っているようにも映るのだ。 買ってきたカップ入り的高级アイスクリームを、そのまま食べず取り出して3段重ねにして喜び、ワインを試してみようとして合わず、ブドウジュースを混ぜて飲んで美味しいと嬉しがり、たまの休みを好きなDVDを観て過ごし、それを観られたことを心底から喜び、蛍光灯を買い忘れても、買い置きのアロマキャンドルを点すことで、暗闇にほのぼのとした明るさを見る。ささやかでも幸せを感じられる瞬間が紡がれる。あるいはそれらは、日々を喧噪の中で忙しく過ごしている人にとって、幸せだなんて感じられない些事かもしれない。それでも、ひとり暮らしのOLにとっては、ささやかながらも幸せを感じられるひとときに違いない。それは同時に、ささやかであっても幸せを感じることで捨てて、日々を怠惰に過ごしてしまいがちな自分たちへの戒めでもある。何でも良いから幸せを探せ。喜びを感じろ。嬉しさを覚えろ。その積み重ねから、人はより大きな幸福へと向かって足を踏み出せるのだ。 可愛いけれども可愛そうといった感情から、この『ひとり暮らしのOLを描きました1』を好きになっても構わない。言葉を添えずシチュエーションとそれを表現する絵だけで、ひとり暮らしのOLの、心に寂しさや苦しさを抱え、それでも毎日を懸命に生きようとする姿を、心情ともども描き出した作品の素晴らしさに、憐憫を覚えて感嘆するのも良いだろう。ただ、見下げたような憐情ではなく、同じ境遇からの同情にも留まらない、共感から先へと向かい未来を探る糧として、この作品を味わって欲しいと思う。 いつかひとり暮らしのOLが、楽しくて嬉しくて明るくて喜ばしい毎日を送れるようにと願いつつ、自分自身がそんな毎日に近づけるようにと、ちょっとでいいから努力する。その1歩をさあ、この作品を読み終えた今から始めてみよう。まずはカップのハーゲンダッツを3段重ねにして食べるとか。誘われた宴会の2次会に頑張って出てみるとか。

書評家 / タニグチリウイチ

「プリマックス」柴田ヨクサル / 蒼木雅彦

- ふざけているようでいて、アイドルとは何か？の本質に真正面から切り込んでいくあたり、さすがとしか言いようがない。ふざけているようにしかみえないのがすごい。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

「フラジャイル」草水敏、恵三朗

- 今まで見たことのない、病理医のマンガ。病気を断定するときの難しさ、責任、謎解きのような緻密な推理・・・どれをとっても面白いです。

会社員 / 金子幸恵

- 「極めて優秀」ただし「変人」。そんな病理医・岸京一郎の生態を描く病院ドラマ。患者の生体組織、体液、排泄物を検査して鑑別する立場から臨床医の思い込み、見落としを指摘する。ちょっと乱暴にね。私自身は医療とは程遠いところで働いておりますが、機械の病気を調べるような仕事をしております、いろいろと共感したり身につまされたりしております。見えるところだけを見てしまう。思い込んだら他の可能性に思いがいたらなくなる。いずこも同じかなあと。人の動かし方にもいろいろありますよね。相手のプライドを傷つけないように上手く手を回したり、逆に、相手の神経を逆なでするように徹底的に叩いたり。後者のタイプの岸先生、そりゃぁ嫌われますわなぁ。でもね、岸先生がそこに至るまでにどんな道をたどってきたのかとても気になります。ひょっとすると似たような道をたどってきたのかもかもしれないかなあと。いま、一番目の離せないマンガです。

同人誌即売会 眼鏡時空 主宰 / 田中海渡

「プリンセスメゾン」池辺葵

- 不況下を生きる労働系女子をここまで魅力的に描いた作品はそうそうあるものではありません！大好きです！

ライター・研究者 / トミヤマユキコ

- 某 30 オーバーの一人身女性に喝を入れる系漫画を読んでグッタリした直後に読んでしまったため、読みながらなんでもないシーンでハラハラと泣いてしまいました。読後にものすごく癒された…。自分が大切にしているものを丁寧に見つめて生きていきたいなと思いました。（※別の日に改めて読んでもちゃんと癒されました）そっと隣によりそってくれるような漫画です。

株式会社来知 WEB デザイナー / 河本 智芳

- これまでの池辺作品同様、多様な幸せの形をやさしく厳しく等しく描き出す。広いファミリー物件に一人暮らす年配の女性漫画家が、ほかの部屋から漏れ聞こえてくる家族の会話に微笑みをもらすシーンは、女一人で生きることの幸せに、新しい形をひとつ加えたように思う。

漫画ライター / 門倉紫麻

「ブルー・サムシング」谷川史子

- 「いつ読んでも大丈夫」という著者への安心感からか、いつもなんとなくスルーしてしまうのだが今回は表紙と帯を見て「今読んだ方が良さそうな」気がして購入。2 話目の「おかえりなさい。」がとても良かった。現実にあつたら「待て待て待て！」といろいろ止めたくなるだろうけれど、でもそこに描かれたような「どうしようもない気持ちの抱え方」は確かに、存在するのだ。それはファンタジーかもしれないし夢物語かもしれないけれど、それが存在することで助けられる人や気持ちが救われる人がいる。そういうシーンを、マンガの中に表してくれたことに感謝した。今読んで良かった一冊です。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

「ホーリータウン」宮崎夏次系

- 汚くも、可愛く、愛おしい登場人物たちと、心の痛みを分け合いながら読み進める、贅沢な時間。

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田充

- これまでの作品群のようにカタルシスはないかも知れませんが、それは「いい話」ではつかめない感情をつかもうとしているからだと思います。新しい表現を模索しながら先へ進もうとしている（ように感じる）ところが好きです。

会社員 / 末永龍介

「ボールルームへようこそ」竹内友

■ 読んでるとダンスの躍動感とか熱とか伝わってきます。主人公たたららの成長が気になるし、ライバルたちも面白い！

主婦 / 紺野 泉

■ 投票も今年がラストチャンス。もっと注目されてしかるべき作品です。とにかく1人でも多くの人に手にとって欲しいと思います。

凸版印刷株式会社 / 紺野慎一

■ ダンスシーンに没頭して我を忘れるほどの圧倒的描写力。主人公の葛藤と成長を軸に、激しくも自然な感情をぶつけ合う魅力的な登場人物達。8巻まで勢いの衰えを感じさせないストーリー。いずれをとっても至高の一作。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一

■ 何度も推薦していますが、これが最後のチャンス。「社交ダンス」を一気に身近にした映画といえば、周防正行監督の『Shall we ダンス?』でしょうが、中学生、高校生を主役にして、熱血スポーツ競技としてのダンスを描いたことは、今なお革命的じゃないでしょうか。とうとう某少年誌まで連載が始まりましたし。第8巻では、多々良とツンデレ千夏とのケンカにほぼ一冊を費やすという驚くべき展開（笑）ですが、「カップルの一体感」を追求する社交ダンスって、究極的には男女の「あるべき関係性」への問いかけにつながっているわけです。真子とのペアでは男は額、女は花だったわけですが、千夏とのペアはさらにその先がある。恋愛要素がほとんどないのに、この作品がゾクゾクするほど色っぽいのは、そういうことなんだと最近気づきました。その意味において、この作品は『Shall we ダンス?』を超えていると思います。

読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局 専門委員 / 石田汗太

「ぽちゃまに」平間要

■ 久々に少女漫画で主人公の女の子が素直に可愛いと思う作品に出会いましたよ。体型がちょっとぽっちゃりしてても心がステキで、抱きしめたいと思う。ああ、とにかくいつも笑顔でいて隣で笑ってて欲しいな。読みながら心ほっこりするラブストーリー。

女優・セミナー講師 / 大倉照結

「マイぼーる！」いのうえ空

■ 毎回お薦めしていますが、萌えて燃えられる日本最高峰の女子サッカーコミックス。いのうえ空先生の可愛いキャラばかりに目が行ってしまいがちですが、サッカーの試合のシーンの魅せ方にも大注目！コミックスとしての考えられた迫力の表現は一見の価値ありです。勿論、毎巻お約束のお風呂ミーティング（コミュニケーション）も欠かせません！恋にもサッカーにも全力の女の子達の魅力をとくにご覧あれ。

通販部 / 日吉 雄

「マキーナ」ムライ

■ 機械が大好きな少女チャオと、ちょっと不思議なロボットのロイドの物語。序盤はほのぼのしていますが、終盤は心にさくっと刺さります。頭の歯車丸見えのロイドは一見不気味なのに、愛嬌があって段々可愛く見えてきますね。緻密に描き込まれた絵も独特の世界観を作り出していて素敵です。

図書館司書 / 堀江千秋

「マダム・プティ」高尾 滋

■ 1920年代のパリ。16歳の日本人の女のコ、マリコが体験する波乱の物語。がんばりやのマリコが可愛いくて、ドラマチックなストーリーに引き込まれます。

主婦 / 紺野 泉

「マリーマリーマリー」勝田 文

- 結婚したふたりのお話ですが、これはもう 100% 恋です。読んだら女子はみんな森田にふりまわされたくなりませんが、でも読み進めてるうちにリタしかいない、このふたりだから最高なんだと思ってしまいます。でも悔しくないんです。ドタバタしてる中にもホロっとするところがあって、勝田さんらしいお洒落で軽快な作品ですが、これまでの中で一番パワーを感じます。

会社員 / 宇田川 結衣子

「マンガ パチンコトレーダー」坂本タクマ

- 率直に申し上げて、お金が欲しい。とても欲しい。でもあまり働きたくはない。株でもやって一発当てたい。そんなことを考えている自分にとって、とても参考になる本です。「面白そうだから株をやってみようかな」という気持ちと、「こんだけ頑張ってる作者でさえなかなか儲けられないんだから、俺なんかやめといたほうがいいのかも」という相反する気持ちが同時に芽生えます。

ライター / 芝田隆広

「まんが新白河原人 ウーパ！」守村大

- 漫画家さんが究極の D I Y ライフ。文明の利器を最低限活用するも、リアリティは十分。これぞまさにサバイバル、生きる力。男のロマンを感じさせられます。

本と文具ツモリ / 津守晋祐

「みちくさ日記」道草晴子

- こんなに共感する作品ははじめてで、ただただ衝撃をうけた。

マンガソムリエ・コラムニスト / 原田まりる

- わりと壮絶な内容なんですけど、読んでいて暗くなるどころか、どこかほんわかするところが嬉しいんです。「自分も自分なりに生きていこう」と、勝手に勇気をもらえます。

会社員 / 末永龍介

「メイドインアビス」つくしあきひと

- クオリティ高すぎる！！アビスに行け！とにかく続きがきになる！ 100 冊買う！

作家 / 海猫沢めろん

- かわいらしい絵柄からは想像できない緻密な世界観で、読み始めると一気に作品に引き込まれる。冒険心をくすぐられつつページめくっていくと胸をえぐられるようなシビアな展開に圧倒されっぱなし、だけどページをめくる手は止まらない！最新巻（3 巻）では間違いなくひとつの山場を迎えているのでぜひこのタイミングで読むのをおすすめしたいです。

醤油製造業 / 小野塚博之

- 可愛いイラストと内容のギャップが凄いですね。巻を増す毎にエグさも増している印象で、今後どうなっていくのか気になります。ナナチ、最高ですね。

ミュージシャン / 杉本善徳

- 2015 年に一気に読みして一番驚いた漫画。1 巻がでたのが 2013 年なので 2 年間これを知らずに放置していた自分の不明を恥じたい。このかわいらしい絵柄で描かれる異形の存在感、危険さときたら。ひどく驚かされた。

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

「メガネ画報」松本救助

- メガネ大好きで生きているような私ですが、これまたすごいメガネまんがに出会ってしまいました。メガネを手掛かりに事件を解決する探偵ものとは恐れ入りました。平伏です。ネタバレになるので多くは語れませんが、メガネを使ったちょっと斜め上のトリック&トリートをお楽しみください。

同人誌即売会 眼鏡時空 主宰 / 田中海渡

「もののがたり」オニゲンソウ

- ツクモガミと暮らす少女の元に主人公が居候といった形で始まるストーリー。日本古来の愛着のある「もの」と言った所が話を受け入れやすい。戦闘の描画、ツクモガミの個々の性格、読んでいて楽しめます。出てくるキャラクターに魅力を感じます。

デザイナー / 平沼寛史

「モンテ・クリスト伯爵」漫画：森山絵風 原作：アレクサンドル・デュマ

- 言わずと知れた「岩窟王」モンテ・クリスト伯の物語を、なんとこれがデビュー作！森山絵風先生が漫画で描いた作品。特筆すべきは、【1巻で完結していること】と、何よりも【超ゴージャスで緻密な絵柄】!! 原作は長い長い物語ですが、要点をキレイにおさえてコミックス1冊にまとまっています。謀略により、恋人も地位も青春も失った青年エドモン・ダンテスが「モンテ・クリスト伯爵」として再起、かつて自らを陥れた者たちに、復讐の鉄槌を下す……までが、非常にテンポよく、ドラマチックに描かれています。緻密で絢爛豪華な絵柄もさることながら、ダンテスの元婚約者メルセデスや、伯爵と行動を共にするギリシアの元王女・エデをはじめとした、物語を彩る美女たちがホントにホントにホントに可愛く色っぽいのも大きなポイントです。(最初はダンテスがメルセデスと船上でイチャコラするところから始まるのです。メルセデス、エロい！可愛い！) 漫画として最高に面白くなっているだけでなく、原典や、他の派生作品への入り口としても適している、タメになる1冊です。

株式会社アニメイト 町田店 / 岡ノ部亭 真泰

「ヤコとポコ」水沢悦子

- ロボットと人間のまったりゆったりした生活を描いている作品です。ちょっとおまぬけなネコ型ロボットのポコが頑張る姿にキュンとすると同時に、その真っすぐな瞳を通して見た世界の美しさにハッとします。夕暮れ時のような切なさに包まれる物語。

ホビー会社勤務 / 畑中 瀬路奈

「ヤスミーン」畑優以

- 2015年最大の奇書。2足歩行するトムソングゼル、チーターの体術、ボノボのセックス。画力が高すぎてもはやシュールの領域に足を踏み込みつつある画面は一読の価値アリ。

往来堂書店 / 三木雄太

- 動物たちの王国モノでは描かれることの少ない「食物」についてズンズン切り込んだ作品。力強さとエロティックさを兼ね備えた美麗な作画もグッド。

ライター / 芝田隆広

「ラーメン食いてえ！」林明輝

- ラーメンを食べたい人とラーメンを作りたい人の話だけれど、グルメ漫画に非ず。蘊蓄は無いけれど、こだわりはある。味は語らないけれど、哲学は語る。読めば絶対塩ラーメンが食べたくなるけれど、飯テロとは違うんですよ。人生なんですよ。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

「ランド」山下和美

- 人間の恐怖を掌握する政治。今も昔も根本は変わらないのかと思います。傲慢さを抑えられる人間になりたいです。

オフィスオーガスタ マネージャー / 樋口健

- 「ここではないどこか」に読者を連れ去ってゆく力強さとスピード感がハンパないです！

ライター・研究者 / トミヤマユキコ

- まだ2巻なので全貌は見えませんが、まずは1巻の巻末まで読んで欲しい！そこまで読んだ人に2巻を読まずに
いられるか聞いてみたい。

株式会社ネビュラプロジェクト / 小森和博

- かつてはきっこうだったと読み手の誰もが思う「昔の日本」と思われる山村の、貧しさゆえにほの暗い、けれどもどこか懐かしきもある因習的な習俗。身代わりとか人柱とか神頼みとか、共同体とか集落総出の農作業とか祭りとか、そういうもの。そんな習俗が自分たちの隣にある日常。つまり、昔。明示されてはいないが、そんな「昔の日本」を舞台に描かれる強い物語が、読み手である我々自身が暮らす現代の日本社会と鮮やかに交錯する。分厚い1巻のラストで。「あの時代」は私たちが今生きている社会と地続きなのだ、それを忘れてはいけないよ、という作者のメッセージが伝わる。そして一層現実味を増したストーリーは同時にファンタジーの自由さも得て、今も昔とも未来とも、此処とも何処ともつかない場所、つかない次元に読む者を連れていく。主人公は誕生直後に生き別れ、かたや野生の獣のようにギリギリの環境で、かたや貧しくも家族の愛情に満ちた境遇で育った双子。その2人が、そうとは知らないまま運命的に出会う。周囲のキャラクター一人ひとりの造形も素晴らしい。この先、面白くならないはずがない、と確信。大河の予感。未読のかたも今なら間に合う！

日本経済新聞記者 / 天野賢一

- 物語の冒頭からぐいぐい引き込まれます、各巻の引きも本当に次の話がすぐ読みたくなるような引き方、いくつかのテーマが複雑に絡み合っているのですがそれを考えずとも、ストーリーのみ純粹に楽しめる作品となっています。

メガマソ / 涼平

「リヒト」明

■ ヒロインながら少年マンガのノリで幅広い層にうける漫画。

芳林堂書店高田馬場店コミック責任者 / 天野能宏

「レベレーション ―啓示―」山岸凉子

■ 『日出処の天子』では新しい聖徳太子像が描かれていて夢中になったけど、この作品はジャンヌダルク！どんなジャンヌ像が描かれるか本当に楽しみ。強く気高いジャンヌ・ダルクかと思いきや、この作品は13才のまだ不安定なジャンヌが描かれている。読者は彼女が最後にどうなるかは知っている。そこに至るまでの過程は、実はよく知らなかったりする。どんな展開がどんな解釈で描かれるのか期待せずにはられない！

アニマックス 広報 / 西尾 美里

■ 山岸先生の衰えることのない創作意欲に脱帽。ジャンヌ・ダルクは本当に神の啓示を受け取ったのか。彼女の前に「なにか」が現れるシーンの、ピーンと張り詰めたような潔癖な空間が山岸先生ならではの魅力。

セラピスト / 内野智未

「ロジ・コミックス：ラッセルとめぐる論理哲学入門」

アポストロス ドクシアディス (著), クリストス パパディミトリウ (著), 高村 夏輝 (監修),

■ 論理やばい！数学と哲学のヤバさがつまった一冊！100冊買え！

作家 / 海猫沢めろん

「ワンダーランド」石川優吾

■ ある朝、起きたら小さくなってしまっていた。手のひらがスマホの画面のアイコンくらいの背格好に縮んでしまっていた。——そうしたら何が起こるのか。人間以外のモノ、環境、そして動物は普通に元のサイズのまま、人間だけが縮んだら何が起こるのか。そんな悪夢を淡々と描くコワい作品だ。ただサイズが小さくなっただけで、ネズミをいたぶるいつもの飼い猫の癖が、ゴミを漁るカラスの習性が、ほかでもない自分の命を脅かす恐怖に変わる。小さくなっただけで、人間が手なずけてきた自然から、自分たちがつくり上げた世の中から、復讐を食らう。人間の優位とは単にサイズだけだったんだ、相対的なものだったんだ、ということに気付かされれば、生き延びるスキルなんて我が手のうちにはこれっぽっちもありはしない、というあたりまえの事実を知るばかり。そこから始まる「生き抜くためのあがき」をどれくらい真に迫って描けるかが、このマンガが「アイアムアヒーロー」に並び立つ作品になれるかどうかを決めるのかもしれない。期待感を込めて一票。

日本経済新聞記者 / 天野賢一

■ いきなり冒頭から小さくなってしまったヒロイン。まだ1巻のため、小さくなった原因等なにもわからないままである。ただ、描画から細菌などで小さくなってるのかと思わせるが、動物が小さくなっていないのと、洋服が小さくなった人間にあわせて小さくなっているのも、まだまだ、楽しめそうな展開が待っていそう。現代日本版アリス・イン・ワンダーランド。今後の展開が非常に楽しみ。

デザイナー / 平沼寛史

「亜人ちゃんは語りたい」ペトス

■ 亜人というジャンルで描かれているけど、この漫画って結構人権教育的な側面があると思うんですね。 亜人って持って生まれてきた変えようのない普遍的なものでしょ。否定とか肯定するものでなく。んで、それがマイノリティだからこそ多くの人がわからない悩みを抱えてる。思春期だから、悩みスキル+5くらいに悩んでしまう。それを主人公の先生が、ああそうなんだ〜とありのままを受け止めてる。無駄に励ましたり、アドバイスしたりせず、かといって否定もせず。マイノリティとのかかわり方ってこういうのが理想とおもうんですね。人は人自分は自分という考えありきで、かといって腫れ物に触るようでなく・・・いい本にであえたなと思った一冊でした

鳥取県 美術教諭 / 佐川由加理

- モンスター娘以降、地味に増加傾向の垂人ジャンルの次世代を担うのではないかという期待を込めて。

住職・ライター / 蟬丸P

「阿・吽」おかざき真里

- 若き日の最澄と空海の求法伝記ロマンという題材に加え、細やかなストーリー運びで門外漢にも「わからせる」力に優れた作品。

住職・ライター / 蟬丸P

- とにかくにも圧倒される一冊です。宗教の話を書いてるのに、ぜーんぜん抹香くさくなくて、それどころか凄まじく艶っぽい。教科書で見覚えのある坊さんたちが、こんなにも化けるなんて。震えが来るほど美しく、えげつない。ずっと最終巻がきてほしくないと思うほど。

馬場企画 / 島影真奈美

「磯部磯兵衛物語〜浮世はつらいよ〜」仲間りょう

- 昨年もノミネートに挙げたのですが、絵柄・ストーリーが万人ウケしなかったのか、残りませんでした。今年は最後の推挙（もうすぐ9巻出ますし）。春画ブームにも乗かって、ちょいアニメ化も実現。名ゼリフ「処す」はお聞きになったこともあるのではないのでしょうか。心を無にして、童心に帰って読んでほしいギャグ漫画です。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- 設定が非常に斬新で、当初絵も苦手な感じがしてスルーしていたが、ちょこちょこ読んでみると、じわじわダルダル、ゆるゆるな世界にハマっていきました。そろそろ、一般的に広く評価してもいいのでは？

広告会社 プランナー / 平沼良章

「一変世界」明治カナ子

- 男装の巫女見習いという設定の妙も目を惹くが、何より世界観の奥行きが見事。食べ物や街の行事など、細部まで描写が行き届いている。人が神か魔物か、何者が分からない者が魅力的に蠢く。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一

「宇宙を駆けるよだか」川端志季

- もしも自分の外見が違っていても中身でもう一度好きになってくれるだろうか？ 物語の面白さと、胸キュンと両方のドキドキをくれる作品です。

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

- 人間って外側？ それとも内側？ 誰にも一度はある人を羨む気持ち、それが切々とでていきます。3巻完結で一気に読めちゃいます。

ブックエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

「衛府の七忍」山口貴由

- 山口貴由先生は「シグルイ」でさらなる高みへ到達されたと思われるが、それ以前の代表作である「覚悟のススメ」をそのステージで再構築したような本作が面白くないわけがない。ところどころ挟まる小ネタがほどよくて、物語の温度をちょうどよく保っている。これまた絶妙。

医師 / 岸本倫太郎

「塩田先生と雨井ちゃん」なかとかくみこ

- 第一印象は「懐かしい!」。ネット掲載からの単行本化だそうです。自分が幼いころに読んでいた少女マンガをほうふつとさせるその絵柄には目を見張りました。正直、そこを受け入れられるかどうかで読み手が決まる気もしますが、私にはとてもツボでした。「両想いのその先」を描く少女マンガが増える中ではある意味王道の、きゅんきゅんするやり取りが微笑ましい一作。

ジュンク堂書店池袋本店 / 田中香織

「応天の門」灰原薬

- 平安時代? あれでしょ? 羅生門? 婆あ乙! の舞台でしょ? くらいしか歴史の知識がないような人間なんだけど、これにははまる!! すっとその世界に入っていく感じ。当時 DNA 鑑定や科学的なものがない世界の探偵物にはまっています

鳥取県 美術教諭 / 佐川由加理

- 中学・高校の授業でおなじみの、プレイボーイ在原業平と悲運の政治家となる若き天才菅原道真。二人が組んで（業平が一方向的に道真を巻き込んでいますが）、妖怪・幽霊といったあやかしが人々に近かった時代、藤原氏の陰謀渦巻く京にて次々事件を解決していく、という痛快な展開です。平安時代前期の貴族文化が生き生きと描かれ、思いっきり身近に感じられます。日本史や古典が苦手な高校生にもおすすめ。ツンデレ道真がかわいいです。

衆議院議員政策担当秘書 / 三葛敦志

- 平安時代をテーマにしたサスペンスもの。まず、テーマが渋いです。平安時代が好きな自分にばっちりハマっています。そして、出てくるキャラクターがみんな魅力的に描かれています。道真とか、こんなキャラクターだよね、絶対…みたいな。そんな魅力と骨太な物語。

メガマソ / 涼平

「王国の子」びっけ

- 高貴なる要人の影武者とその主人の話ですが、巻を追うごとに陰謀渦巻く展開に拍車がかかっちゃう。ほんとこの作者はストーリーの組み立て方がうまい影武者が主人を殺してそのまま成り代わっちゃうとか、そうだよなありえるよね。だからこそエリザベスの命はどうなるのか…。目が離せません。同じような某王家を題材とした「薔薇王の葬列（菅野文著）」も中々次の展開が読めなくて面白いのですがトータルでおすすめしたいのはこちらです。

女優・セミナー講師 / 大倉照結

「嫁はフランス人」じゃんぼーる西

- 外国人パートナーとの暮らしを描くエッセイは星の数ほどあれど、年上パリジェンヌとのエッジの効いた暮らしを描いた作品は珍しいのではないのでしょうか。日本とフランスの文化的違いだけではなく、精神的な違いも楽しめます。

ホビー会社勤務 / 畑中 瀬路奈

「火ノ丸相撲」川田

- 登場人物たちそれぞれのハンデと成長から元気がもらえる作品

自営業 / 小野ゆうこ

「花のズボラ飯」久住昌之、水沢悦子

- ズボラな飯もしょうもないダジャレも快調。2巻はちょっとシリアス、3巻はちょっとエロに振って、主人公のドラマをどこまで進めていくのか楽しみ。

朝日新聞記者 / 小原篤

- ああ。ハナちゃんかわいいよ。

DJ / 高橋ひでつう

「花井沢町公民館便り」ヤマシタトモコ

- 事故に巻き込まれ、周囲から隔離されてしまった花井沢町。とはいえ隔離されてしまった（通り抜けられない）のは生命反応のある有機体だけで、物品の支給も携帯電話やインターネットの電波も人の声も問題なく通る。目の前にいる「外」の人と物品の授受をしたり、境界線近くで会話をしたりすることはできるけれど、触れることは決してできない、という状況下に置かれた町で、普通に暮らす人々の物語。ものすごくおそろしい物語だ。子供たちは学校に行き、大人たちは町の中かネットでできる仕事をする。食事を作り、髪を切り、アイドルに熱狂し、盗難が起これば犯人を捜し、死者を弔いながら生きる。町にはわれわれが暮らす町と同様におかしな人はいるけれど、それも内包して「ふつう」だと思う。住人がそれらに一喜一憂する様子は、われわれの日常そのものだ。あまりにも日常的すぎて見逃してしまいがちな「あるある」や、ちょっとした棘を描き続けているヤマシタトモコならではの、おかしみや悲しみも十分にある。誰も出られないし、誰も入ってこられない町は、滅びが約束された町だ。いずれくる滅びを知りながら、外部の人間から腫物のように扱われながら、住人たちの多くは凶悪犯罪に手を染めたり、狂ったりしないで、腐ったりもしないで生きている。事故から十数年という月日が、住人たちを異常な状況に適応させている。絶望も諦めも苛立ちも、すでに過ぎ去ったもののように見える。そのふつうさが最高に残酷で、怖いもの見たさで何度も読み返してしまう。1巻を最後まで読んでから第一話に戻ると、背筋が凍る。超傑作。

主婦 / 小田真弓

- 膜で覆われてしまった町。どこからも出られない町の中での滅ぶまでの生活。自分だったらどう暮らすかな。途中で壊れちゃうんじゃないかな。と悶々と考えながらも答えを出せないマンガでした。

カメラマン / 平沼久奈

- 目に見えない透明なシェルターに覆われてしまい、外からは入れず、内側からも出ていけなくなってしまった花井沢町。そこに住む人々はそれぞれの暮らしをなんとか守ろうと生きていく。その懸命さに心打たれる話もあれば、外界から隔離されたことで人の欲望があらわになる話もあり、多彩な物語が楽しめる。スティーブン・キングの『アンダー・ザ・ドーム』と比べながら読むのも面白い。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

「怪奇まんが道」原作＝宮崎克／漫画＝あだちつよし

- 古賀新一、日野日出志、伊藤潤二、犬木加奈子の来歴を綴ったドキュメンタリー漫画の好著。各人のエピソードが緩く繋がるのも楽しい。

書評系ライター / 福井健太

「海月と私」麻生みこと

- 最後までハラハラとさせられる展開で楽しめました実写化してほしい作品です。

Hair Make Lounge tetote 代表 / カ丸 真

「鴨の水かき」空木哲生

- デザイン事務所の奮闘記。魅力的なキャラクターと安定したドラマを擁する"等身大のお仕事もの"として楽しい。もう少し読みたかった。

書評系ライター / 福井健太

「甘々と稲妻」雨隠ギド

- 自分に子供がいたらどうなんだろう？って考えさせられる作品です。自分は料理が好きですけど、子供と一緒に作ったら楽しいかなあって思う反面、ちょっとハラハラしてしまうかも…という気持ちもあり、子供の成長に一喜一憂しているお父さんに共感します！結婚してないですけど！

株式会社スマイルアクス 営業 / 岡村光徳

「機動戦士ガンダム サンダーボルト」太田垣康男

- 7巻が発売されてしまい今回は最後のチャンス！物語といい画といいこんなスタイリッシュなガンダムは初めてだ。カッコイイという言葉を使うのはなんだか恥ずかしいのだが…あえて言う！サンダーボルトはカッコイイ！

あゆみ BOOKS 青葉通り店 副店長 / 土屋修一

「鬼さん、どちら」有永イネ

- 読んだ後、じんわりいいものを読んだなあって思った、2015年、いちばん人に勧めたかった一冊。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

- 1巻完結オムニバス形式の漫画って、その1冊だけの宝物感があってとっても好きなんですけど、久々にこの1冊は全力で推したい。内容はしっかり、読後感はすっきり。少し泣く。ちょっと捻くれてて、世の中を斜に構えてみちゃう人にオススメしたいです。

株式会社来知 WEB デザイナー / 河本 智芳

「虚構推理」城平京、片瀬茶柴

- 原作の城平京の世界を新人ながらここまで描けるのはすごい。キャラも立っていて先が気になる。

芳林堂書店高田馬場店コミック責任者 / 天野能宏

- 新創刊したマガジンRの旗艦とも呼べるコミックスになりました本作。敢えて、2011年に発売された講談社BOXを原作としてこのタイミングでコミカライズはどうなのだろうと思っていましたが、そんな危惧は作品を読んで全て吹き飛んでしまいました。原作をとっても分かり易く解釈してコミカライズしていてイラストの綺麗さも相まって、魅力が増しています。まだ二巻までと買い易いのでお勧めです！

通販部 / 日吉 雄

「響～小説家になる方法～」柳本光晴

- 話題を聞いて読みました。まさかの面白さで一気に読んでしまいました…BLUE GIANTと似てる気がします。ネジが一本抜けてる感じのキチガイ感のある主人公だけど、真っ直ぐさに引き込まれるし羨ましくも思える。

bar 図書室 店主 / 岡部愛

- 「天才」を描く難しさがある中でも、今後のストーリーが気になる作品。まさに「もう何に驚いて何にあきれていいのかわからない」ような主人公響の行動と、天才を目の当たりにした登場人物達の衝撃の描写は、画力を補って余りあるところ。

弁護士 長島・大野・常松法律事務所 / 三村量一

- 文芸というジャンルで、「天才」がテーマだなんて、面白くならない訳がない！柳本光晴さんは、ここ最近知ったなかでは一番ドキドキするマンガ家さんです。

会社員 / 末永龍介

「銀河ロケットにお葉書ください」太田垣康男・太田優姫

- 読みながら考えました。もし地球滅亡まであと10ヶ月、人類がいた証を宇宙に発射するロケットにメッセージを乗せられるなら、僕は何を託すだろうか。答えがなかなか見つかりませんでした。気がついたら、滅多なことでは泣かない僕が、涙を溢れさせてました。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

「銀平飯科帳」河合単

- ラーメン発見伝、才遊記大好きだったし見てみたけどね。相変わらず変な漫画家だこの人、でも、おもわず作ってみてしまいましたよ。火消飯。なんて印象力なんだろう。

スタジオフーズ / 小林智之

「銀狼ブラッドボーン」艮田竜和、雪山しめじ

- 老いた英雄の最後の仕事が始まる……。でも年には勝てない……。 (笑) 無敵な主人公でないところがまたいい。

SHIBUYA TSUTAYA コミック担当 / 実松由夏

「九十九の満月」小雨大豆

- いたるところに当たり前のように存在する妖怪達。もしそんな異世界の住人に関わり合えたら？ ワクワクする妖怪珍道中に、エネルギーな楽しさが溢れています。

教師 / 持丸宏司

「空母いぶき」かわぐちかいじ (著), 恵谷 治 (監修)

- 圧倒的なリアリティ。いまそこにある危機。

DJ / 高橋ひでつう

「君死ニタマフ事ナカレ」原作：ヨコオタロウ 作画：森山大輔

- 陰謀、謀略、暴力、グロなんでもこい！ 『ドラッグオンドラグーン』『ニア ゲシュタルト / レプリカント』のヨコオタロウがはじめて漫画原作を手掛けた作品!! 作画は『ワールドエンブリオ』の森山大輔先生だァァァー!! というだけで心躍る人は読んだ方が良いでしょう絶対。「超能力が使える」というだけで戦場に駆り出される少年兵。みんなみんな恋もするし夢もあるけど、無慈悲極まる戦争で次々と散っていく……主人公(?) マシロはそんな凄惨な戦場でそつなく生き残っていくけれど、コイツがまた信用ならない男なのです。人心を意のままに操るといってんでもないスキルを手にして、敵も味方も欺いて戦場を渡り歩く。コイツは何がしたいのか、コイツと関わってしまった味方たちはどうになってしまうのか。しかも、味方も味方で、【超絶記憶力が良いけど、能力を安定させる薬の副作用で、若くして認知症になってる】とか、【近接戦闘で無類の強さを誇るけど、スイッチ入ると敵味方区別なくなる】とかロクな奴がいない……! そんな不安要素ばかりの登場人物を、さらに信用ならない世界規模の陰謀が巻き込んでいく、というゾワゾワの止まらないマンガです。『進撃の巨人』『ハカイジウ』などに連なる絶望バトル系漫画の最先端!

株式会社アニメイト 町田店 / 岡ノ部亭 真奈

「軍靴のバルツァー」中島三千恒

- 昨年8巻が出てしまったので最後のチャンス! と思って今年も推します。新刊が出るたびに1巻から読み返してしまいます。何度読んでも主人公のバルツァーが強かで格好いいです。軍記モノ読んだことない人におすすめ。

図書館司書 / 堀江千秋

「繋がる個体」山本中学

- 久しぶりに毎週の連載が楽しみな作品だった。若い恋人たちが、戸惑いつつもド直球でぶつかっていく感じにドキドキした。

コミティア実行委員会代表 / 中村公彦

「月影ベイベ」小玉ゆき

- 富山県八尾市の【おわら】という町の伝統の踊りを中心におこる恋のお話。地方の町の伝統文化をとても大事に想うというところに地方出身の私もとても引き込まれているように思います。

カメラマン / 平沼久奈

「月刊少女野崎くん」椿いづみ

- ためになるか、ならないかと問われれば、たいしてためにならないかもしれないけれど、あっという間に読んでしまいました。瞬間的な面白さはピカイチです。

教師 / 持丸宏司

「健康で文化的な最低限度の生活」柏木ハルコ

- 生活保護がテーマの作品。それに対して働く公務員視点って、テレビのニュースなどで見ても実感できないところでした。その視点から覗く生活保護の実態が、いつもニュースで得ている情報や感覚とはまた違って見えてきます。

メガマソ / 涼平

「孤食ロボット」岩岡ヒサエ

- あのロボットがいてくれたら、さぞかし毎日が楽しくだろうなと、何度も読み返してしまう一冊。ごはんを食べながらマンガ読むなんて、行儀悪いよなと思いながら、こっそり繰り返し読んでます。一人暮らしをはじめたばかりの年下の友達にあげたい一冊でもあります。

馬場企画 / 島影真奈美

- もう、優しくてせつないです。もし今、38歳独身で彼氏なしひとり暮らしだったら涙無しでは読めなかった。。。

カメラマン / 平沼久奈

「孤独のグルメ」久住 昌之、谷口ジロー

- 2巻が出てやっと。ノミネートできる日がきた（号泣）

DJ / 高橋ひでつう

「孔明のヨメ。」杜康潤

- 三国志のスーパー軍師・諸葛孔明の妻・黄夫人を主人公にすること、経済の仕組みを持ち込んで違う世界を見せているマンガ。実際に中国に足を運んで三国志を調べ尽くした人にしか書けない。

まんたんウェブ編集部 副編集長 / 河村成浩

「高台家の人々」森本梢子

- ほんとに単純に、笑えます。何回も読み返してしまった。木絵ちゃんの妄想だけを集めた妄想BOOK出たら買う。あと幸せな気持ちになります！でも電車や公共の場で読むのは控えたい。絶対に笑うから。

セラピスト / 内野智未

- 元々おもしろくてかわいくて大好きなマンガだったけれど、人の心が読めてしまうことの悲しみにぐっと踏み込み、さらに救いを描いた最新話で号泣。木絵ちゃん、君はなんていいやつなんだ!! 大好き！

漫画ライター / 門倉紫麻

- 今一番漫画らしさを感じるこのできるコミックだと思います。木絵ちゃんみたいになりたい。

ブックエース上荒川店 コミック担当 / 倉本かおり

「高嶺と花」師走ゆき

- 高学歴で高収入で超セレブでプライドが超高い高嶺の上から目線態度を、不撓不屈一般庶民女子高生の花がへし折っていく（ただし高嶺もまたすぐ復活する）やりとりがとても面白いです。恋愛要素でも二人らしい我的強い態度ですが、きちんと糖度があります。

Books アイ茗荷谷店 / 野口忠義

「刻命のゴースム」BOSE

- スチームパンク！熱い！アツすぎる！とにかく100冊買え！

作家 / 海猫沢めろん

「黒博物館ゴーストアンドレディ」藤田和日郎

- 熱い思いとド派手アクション、著者の二大特長が遺憾なく発揮された。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

- 何かに立ち向かう者と、その者のために戦う男を描かせたら当代一の漫画家による、“ランプの淑女”の物語。変わっていくフローの上目遣いが、たまらなくいい。

八重洲ブックセンター宇都宮パセオ店 / 山本さとみ

- フローレンス・ナイチンゲール。「白衣の天使」として有名な彼女だが、病人を救うという強い思いを持つ少女として、様々な圧力に屈せず苦難を耐え忍び、一歩ずつ目的を達してゆく姿は痛快だ。幽霊という狂言回しと説明係を用意したり、人の精神を目に見える怪物として具現化し、相手を説き伏せる＝怪物を倒すというモンスターバトルにして迫力ある画面にしたりと、漫画として見せ場のあるエンターテインメントにした手腕は見事。起承転結喜怒哀楽全てを含んだ史実を元にした上質な娯楽作品です。

丸善ジュンク堂書店営業本部 / 小磯洋

- ナイチンゲールの伝記を藤田和日郎が描くということ、戦闘のシーンとは思いますが、非常にナイチンゲールの戦いがうまく描かれた作品だと思います。ナイチンゲールに憑いてしまった生霊と行動をともにし、お互いに成長する姿も読んでいて楽しいです。藤田和日郎が描く女性是非常にかっこいい。

デザイナー / 平沼寛史

- グレイマンという幽霊と白衣の天使ナイチンゲールの物語。なんだか、うしおとらを思い出してしまう。しだいにナイチンゲールに圧倒されていくグレイがかわいらしい。藤田和日郎のマンガって、男の子の持つ小ずるさとか、弱さとか、憧れとか、そういうのが目一杯あふれているんだよね。それがたまらない。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

「恨み来、恋、恨み恋。」秋 タカ

- かわいい。とにかく全員がかわいいです。干支をモチーフとしたキャラクターが出るのですが、どれも干支の動物の特徴を上手く捉えています。バトルシーンは迫力があり、必見です。かっこかわいいバトルラブコメ、今後も期待です。

LIBRO ecute 大宮店 コミック担当 / 首藤 瑛

「山賊ダイアリー」岡本健太郎

- マンガ家さん、ってのはジャーナリストだと思うのだ。そしてマンガは、ジャーナリストによるレポート。実録マンガはもちろん自分の体験してきた面白いことがマンガになっているし、フィクションだって、その人の脳内で起きているとてつもない空想の出来事のレポートなんだ、と考えられる。マンガは、最強の情報伝達手段なのだ。いま、昔よりも遥かに「マンガ」という情報伝達技術を持つ人が増えて、いままで触れられなかった現実に触れているひとのマンガが実はものすごい数増えていて、実話をマンガにしてくれている、エッセイマンガは、いま、めちゃめちゃおもしろい！その中でもトップランナー中のトップランナーがこの「山賊ダイアリー」。猟師+漫画家、という唯一無二のハイパースキルを持っている人しか、これは書けない！「鹿をマンションの部屋に持ち込もうとすると人にしか思えないサイズで怪しさこの上ない」なんてディティール、脳内では絶対に考えられないと思うんですよねえ…！この世は、まだ生きるに値するぞ！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

- 主人公とともに猟師として知識だけでも成長していけそうな作品

自営業 / 小野うこ

- 猟師のノンフィクション漫画実体験なのが面白いです

Hair Make Lounge tetote 代表 / 力丸 真

「姉と修羅」小野寺浩二

- 妄想の鬼・小野寺浩二が帰ってきた！わき腹に浪漫回路がある方もそうでない方も必読のデンジャラス姉萌えジェットコースター！一度は乗ってみて損はないと、多分、ないと思います！

同人誌即売会 眼鏡時空 主宰 / 田中海渡

「死にたくなるしょうもない日々が死にたくなるくらいしょうもなく死ねど死にたくない日々」阿部共実

- 今そこにある感情にどこまで誠実に向き合えるか？ってことを考え抜いた末の表現がここにあると思います。どんな絵で、言葉で、キャラクターで、シチュエーションで、物語であれば、その感情を表せるだろう、ということ。『空が灰色だから』からずっと作者が続けているその試行錯誤が、本作 2 巻に至ってもものすごいものに結実していてびっくりしました。

会社員 / 末永龍介

「死人の声をきくがよい」ひよどり祥子

- ごく個人的な趣味ですが……昭和ホラーのテイストと、早川さんのかわいさがクセになります。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

「私・空・あなた・私」いくえみ綾

- 20代の娘2人とエステティシヤンのその母が暮らす一軒家に、春のある日、中学生女子がたった1人で訪れるところからストーリーは始まる。女子はこの家から「蒸発」した父とその浮気相手の間の子で、ずっと暮らしていた祖父母の家に居られなくなったところを、この家の母（娘2人には自身のことを「胡桃さん」と名前で呼ばせている）が引き取ることにしたのだ。女4人で暮らすことになったその家の、庭の剪定をする若い植木職人（イケメン）がそこに絡み……。などと設定を書いても、未読のひとにはどんな話なのかさっぱり分からないだろう。一人ひとりの関係性と感情の機微を、緻密に優しく時どき残酷にあやなす、いくえみワールドの真骨頂。読まなければ分からない、流して読んでも分からないこの空気（既刊単行本2冊をじっくり読み返すべし）。緊張と、弛緩。ちょっとしたトラブルの予感と、ちょっとしたうれしい気持ち。相手を思いやること、自分を大事にしてやること。真剣さの裏に見え隠れする破滅願望と、いいかげんさの中にある切実な真摯さ。読み込むほどに新しい何かが見つかる。いま連載中で単行本が出ている4作品はそれぞれおもしろいのですが（それだけでもすごいことなだけ）、15年秋に最新刊が出たばかりの本作を今回は推したい。小道具（アシダカグモ）の存在感と役回りも抜群！

日本経済新聞記者 / 天野賢一

「事件記者トトコ！」丸山薫

- ド天然な新聞記者トトコのドタバタコメディですが、大正時代を彷彿とさせるちょっとファンタジーな世界観がとても素敵です。登場人物も人間のほか機械人形あり獣人ありと賑やかで、ともすればとっちらかりそうな設定なのにちゃんとまとまってるんですよねー。読んでいてとっても楽しい。

図書館司書 / 堀江千秋

「七つ屋志のぶの宝石匣」二ノ宮知子

- 知らない世界のきらびやかな世界を描かせたらこの先生の右には出ない、少しミステリアスで今季一番ドラマ性の高いマンガだと思います！日情感を出しながらも、どこまでも広くどこまでも深くなる期待感が今から楽しみで仕方ないです。ドラマ化しそうだなぁ。。。

デザイナー / 佐藤 ユウ

「篠崎さん気をオタしかに！」氷川翔

- もっと評価されて欲しい！ありがちそうに見えて、そうでもない上手い場所をついているコミック。読めばわかる、は禁句かもしれないが、とにかく読んでみて欲しい。

文教堂書店浜松町店コミック担当 / 金田健太郎

「重版出来！」松田奈緒子

- 苦労した仕事が1つの形になったり、夢破れて故郷に帰ったり、働く人の背景に隠れている膨大なドラマと熱量。読みながら、グッと奥歯を噛み締めていました。

教師 / 持丸宏司

- 熱い。編集者視点のマンガ道。

DJ / 高橋ひでつう

「女の友情と筋肉」KANA

- 本当に友情満載です。じわじわ笑えます。空飛べるのが羨ましい！

有隣堂 / 桶谷佳代

- 設定負けしない、共感をさそう会話や、間の取り方に引き込まれる。

マンガソムリエ・コラムニスト / 原田まりる

「女子攻兵」松本次郎

- この賞にはまったく不似合いで、最終候補に残る可能性も低いと思いますが、7巻で完結してしまったのでやっぱり出します。自分にウソはつけない！ 次元世紀2011年。異次元に移住した人々が、地球からの独立を求めて異次元独立開放戦線（EZO）を結成、地球統治連合軍と泥沼戦争に突入。地球側は次元兵器「女子攻兵」を開発、戦線に大量投入するが、この「JK型」巨大ロボット兵器は、長く搭乗するとパイロットに深刻な精神汚染を引き起こし、暴走する致命的欠陥があった。タキガワ中尉はそんな暴走女子攻兵を狩る部隊を率いていたが、タキガワ自身にも「ツキコ」と名乗る存在から、ありえない絵文字だらけのケータイメールが届き始める……。とまあ、まさにアレな出オチ設定ですが、さすがは松本次郎、巻を重ねるごとにハードな「現実崩壊SF」となって、最後までまったく緊張が途切れない。女子攻兵のパイロットはタキガワを含めてみな中年のオッサンなのに、精神汚染が始まると内面までJKそのものになり、〈このままみんな女子攻兵でいられたらステキですね センパイ？〉なんてセリフを吐き始める。凄惨な戦場が一瞬にして女子トークの花園になる、この辺のシュールさは筆舌に尽くしがたいものがあります。もしあなたが『未来世紀ブラジル』とか『ブレードランナー』とか押井守が好きなら、迷わず手に取るべきです。

読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局 専門委員 / 石田汗太

「昭和元禄落語心中」雲田はるこ

- 快作。与太郎が大親分との「死ぬか生きるか」の対決を威勢のいいタンカで突破する作劇にはうならされました。落語を武器にして、勝ち負けをつけずにスッキリ落着。同時に芸の開眼と人間的成長まで描いてしまうとは！

朝日新聞記者 / 小原篤

- 巻数的にマンガ大賞ラストチャンスのため、最後の一押しさせていただきます！現代編に戻ってきたところで物語はいよいよ佳境に、アニメも始まって再注目の一作であると自負します。時代の移り行き、芸の継承と発展、老いとの格闘……魅力的で面白い漫画と、ひとつの芸術論が見事に両立されているように感じます。

Books アイ苺荷谷店 / 野口忠義

「深夜のダメ恋図鑑」尾崎衣良

- ダメ男にいらっとくる瞬間がある人これを読むとすっきりします！スカッとします！あるある！という場面でなんともえげつない言葉で言い負かしてくれます笑

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

「神様のバレー」渡辺ツルヤ・西崎泰正

- 「万年勝てないチームを強豪に！」というみんな大好きな話ですが、謎のデータアナリストのおかげでずるがしこく裏切ってくれます。アナリストが見てるのは、数字ではなく人間なんですね。

Tokyo Otaku Mode / モリサワタケシ

「親なるもの 断崖」曾根富美子

- バナー広告からじわじわとクチコミでヒット、復刊までに至った道のりを見ると稀有な例…と言いたいところですが、作品の力からすれば、再発掘されるのは当然だったのかもしれませんが。「ブンむくれ！！」「レジより愛をこめて」の曾根先生が、こんな骨太な昭和史を描かれていたとは、恥ずかしながら知りませんでした。今後の作品も楽しみです。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

「人は見た目が100パーセント」大久保ヒロミ

- ぱっと見なんともくだらないタイトルのマンガだなあと思ったのにどうしても気になり買ってしまった。子供を出産後太りメイクもちゃんとせず外出している私には『そうそう、そうなの。。。』の連続で結局心にとっても引っかかってしまったマンガでした。

カメラマン / 平沼久奈

「人生山あり谷口」谷口菜津子

- 登山はなめたらアカンなー、と再認識しながらあまりにひどい登山にヘラヘラ笑いつつ、恋人を想うところで涙。良書！

恵文社バンビオ店 店長 / 宮川元良

「水玉ハニーボーイ」池ジュン子

- 話の展開が重すぎずいつも軽やかで、楽しく読めます。オネエ男子、とてもいい。

園田美智子 / 園田美智子

「星の案内人」上村五十鈴

- 昨年、実際に一番オススメした作品。あまり知られていないのが残念でもあり、ほんのちょっと嬉しくもあった。(このマンガ知らないなんて損してるなという優越感)でもやはり良い作品はみなさんに読んでほしいという気持ちの方が強く、今回投票。オススメすることで少しでもこの作品を知ってもらえたらなあと思っております。

あゆみ BOOKS 青葉通り店 副店長 / 土屋修一

「清々と」谷川史子

- 人の善性を描き続ける谷川作品があれば、こんな世界でもまだ生きていける。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

「雪花の虎」東村アキコ

- もちろん「タラレバ娘」もものすごい突き刺さってくるし殺傷能力的には「タラレバ」の方が全然上なんですけど、あえて東村アキコという天才漫画家の「新たな夜明け」に期待して、こちらを推薦いたします。政宗女説、ほぼ確じゃねえかっていう気持ちにさせられますね。東村先生の信念を感じます。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

「絶対にマネしないでください」蛇蔵

- 自分がドラマ化されるために生きているような人間に、面白い人はいない。目的を淡々と追求していく人が、面白く、そして恐ろしい。現代の理系トホホ話から、科学を盲信して既存の価値観をぶっ壊しまくる登場人物たち（いぞもっとやれ）が次々と登場し、そしてその人達の行動の基盤となっているのが、現代の学生のスケールをはるかに超えた歴史上のサイエンティストたちですが、彼らの偉大さ、はいやもっともっと輪をかけてクレイジーだったんだ、と知る瞬間。ドリトル先生とジキルとハイドのモデルが同じ科学者だったなんて！出てくる実験が実際にできる、けど、絶対にマネしないでください、って、こんな痛快な話、ありますか！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

「先生の白い嘘」鳥飼茜

- こんな痛々しいテーマを・・・と思う一方で、【マンガ】でこのような内容を取り上げているのにまず驚く。性の不平等に向き合う・・・これは女性のほうが共感できる内容なのかな。リアルで生々しい内容と主人公の女教師の行末が気になり、一気に読めてしまう。

アニマックス 広報 / 西尾 美里

「先生君主」幸田もも子

- 今年のベストオブキュン！弘光先生かっくいー！！

アナウンサー / 松尾 翠

「太郎は水になりたかった」大橋裕之

- 大橋裕之、宮崎夏次系、真造圭伍の三人は青春文学コミック旗手。

書案阿佐ヶ谷店 / 石田充

「惰性 67 パーセント」紙魚丸

- ウェーイ www とは一線を画すものの、結局ばかな大学生の日常。あるあるしかない。思い当たることしかない。紙魚丸先生の作品はどれもこれも大好きなんで、これからもよろしくおねがいいたします。

オリオン書房ノルテ店 / 池本美和

- 大学生の男女 4 人のひたすらダラダラした日常を舞台としたギャグ漫画です。2015 年は間違いなくこの漫画が一番笑ったので投票してしまいます。正直どの話を読んでもど下ネタですが、その割に下品すぎはしないし、おススメ！と言にくい漫画だったりするのですが、色んな人に読んで貰いたいな、と思ったので投票します。

事務職 / 工藤圭

「大砲とスタンプ」速水螺旋人

- 紙とペンとハンコで戦争で戦う兵站軍マンガ。人類の歴史の最良はソ連と官僚主義を産んだことです、という世界観。膨大な知識量に裏付けされて吹かれる大ぼらが楽しくないわけがない。架空兵器最高。架空の街並み最高。膨大な情報量がチマチマしたコマゴマにみっちりつまっている感が読んでいて本当に楽しい。それが今なら 5 巻分ですよ。一気に読みしたら目眩するだろうな。

ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

「淡島百景」志村貴子

- モデルは宝塚かと思われる妙齢の女子だけの劇団を舞台に繰り広げられる人間模様に心が釘付け。演劇そのものを描かないことで「舞台に立つ人間」の人生を、演劇を描いていて、目から鱗です。

お菓子研究家 / 福田里香

「恥をかくのが死ぬほどこわいんだ。」サレンダー橋本

■ 天才現る！の一言に尽きる。

マンガソムリエ・コラムニスト / 原田まりる

「中2の男子と第六感」福満しげゆき

■ 相変わらず、著者の心の闇をポップに見させられてるような感覚。オリジナリティーと不思議さが半端ない。

PENICILLIN / HAKUEI

「懲役339年」伊勢 ともか

■ すごいなあ、おもしろいなあとおもって読んでいます。

大日本印刷 / 佐々木愛

「蝶のみちゆき」高浜寛

■ とにかく綺麗です。大切な人と思う気持ちが、まっすぐで、とても切ないです。

有隣堂 / 桶谷佳代

「椿荘101号室」ウラモトユウコ

■ 生活力無し・考え方も短絡的な主人公春子ですが、読み進めていくうちに、彼女が心の中に抱えていたものの重さにハッとさせられます。そして、その重いものときちんと向き合い、答えを出していくラストに暖かい気持ちになりました。

ホビー会社勤務 / 畑中 瀬路奈

「低反発リビドー」高野雀

■ 普通の人なんてどこにもいないいくつもの世帯、人が住むマンションひとつとっても全員がいろんな性格、性癖をもつ各部屋に住む人の、誰にでもあるけど近しい人にしか見せない少しだけ変態の部分を描いていてなんとも面白い

ヴァイオリニスト / 佐藤帆乃佳

「弟の夫」田亀源五郎

■ やはりこの作家がオーバーグラウンドに出てきたことに大きな意味があると思います。話題先行型の作品ですが、本当に繊細で優しい世界観。素晴らしいです。

ライター・研究者 / トミヤマユキコ

■ 娘と二人暮らしをしている男が、双子の弟でカナダで同性婚した“弟の夫”と生活する中で、少しずつ凝り固まった考えを変化させていく物語。ホームドラマとしての切なさや暖かさ、文化の違いによるコミカルさと同時に、偏見や思い込みへの押しつけがましくない説得がある。家族がゲイであることに戸惑い、男女カップル間では気にならないことまで考えてしまう主人公・ヤイチの心を、幼くて純真な娘・カナの問いと、わかりやすい日本語で応じる“弟の夫”・マイクの答えが、次第に解していつてくれる。また、偏見・固定概念へのアプローチが、セクシャリティの問題にとどまらないところもすごくいい。マイクを初めて見たカナが「外人だァ」と言うと、かれは笑顔のまま「ガイジンじゃありません、カナダ人」と訂正する。また、亡き親のあとを継いで不動産で収入を得ていること（他の多くの同世代男性のように外に働きに出ていないこと）を「仕事って感じじゃない」と後ろめたく思っているヤイチに対して、マイクは「毎日ゴハン作ってソウジしてセンタクして、それ立派なお仕事でしょ？」と笑う。すべてに対して、「北風と太陽」の「太陽」方式でものごとが進む。マイクは相手の無知や偏見を怒ったり嘆いたりするのではなく、諦めずにやさしい言葉で諭して徐々に心を揺り動かしていく。カナにしてもその同級生にしても、子供だからと言って現実はこちらまで柔軟で素直に受け入れてくれるばかりではないと思う。けれど、その現実を長い間戦い続けている田亀源五郎が描くこの優しい世界を、一人でも多くの人に読んでほしいと願う。

主婦 / 小田真弓

「天国ニヨーボ」須賀原洋行

- 『気分は形而上』で作者の奥様をモデルとした「よしえサン」のファンになってから四半世紀。前作の「実在ゲキウマ地酒日記」の最終回で夫唱婦隨の奥様が亡くなったことを知り、ひとりのファン（作者に対しても「よしえサン」に対しても）としてショックを受けた。心のなかでお悔やみを申し上げながら、いつかまたペンを手にとってくださることを祈っていた。そこに、発明的とも言えるほどとんでもないたてつけの作品でのカムバック。この1巻には票を入れざるを得ません。

有限会社馬場企画／編集者・ライター／松浦達也

「賭ケグルイ」河本ほむら、尚村透

- 人生を賭けたギャンブル。そんな勝負を自分の代わりに主人公の夢子がしているような気分で読んでいます。脳汁が出る作品です。

ブックファースト新宿店／渋谷 孝

- ギャンブルをやらない者にとって、ギャンブルを題材にしたマンガはある意味、ギャンブルの疑似体験をさせてくれるという抑えがたい魅力がある。賭ケグルイは、更に強烈なキャラクターと美少女の要素を追加！なんという娯楽作品・・・！主人公夢子のなぞめいたかわいさとギャンブル狂いぶりが毎巻増していて、どんどん面白くなっていく予感が。生徒会長との対決がこれから楽しみ！！

アニマックス 広報／西尾 美里

- この賞にふさわしいとは言いがたいんですが、非常に好きな作品。主人公の夢子がそもそも「ギャンブル依存症」気味ということで、従来の独創ギャンブルマンガとは一線を画した感じ。勝負するのが美少女ばっかで、しかもどんどんホラーじみてエスカレートしていくあたり、退廃的で淫靡なムードも漂いますが、実はきちんと「学園青春もの」の枠内に収まっている。負けた方がちゃんと人間的に成長するんですね。日本人ほど負けて損するのがイヤで、ギャンブル嫌いの国民は世界でも珍しいんだとか。「勝負強い人間を育てるのが教育方針」という高校は、経済界で本当に期待されそうでコワイです。

読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局 専門委員／石田汗太

「土佐の一本釣り」青柳裕介

- 廉価版での再販ですが、今年一番感動した作品だったので言及をお許しください。昭和の漁師町を舞台にした時代の雰囲気や人生観には日本人がみなどこかに収めている心のふるさとも感じることができた。

往来堂書店／三木雄太

「逃げるは恥だが役に立つ」海野つなみ

- 「契約結婚」という一見センセーショナルな題材を、こうも論理的に淡々と描きますか！と、1巻からずーっーと感心させられっぱなしの本作、2015年は6巻まで到達。その6巻が！まさかの恋愛展開！この作品で、この主人公ふたりの恋愛にこんなに甘い展開が訪れてドキドキさせられる日が来るとは！でも、それで単純にめでたしめでたしにならないのが、このお話の面白いところ。恋愛と生活をどう融合させていくのか、二人の関係ははたしていったいどこに着地するのかもたしかに気になりますが、結末よりも、ちょっとした違和感を逃さず突き詰めて考えていく過程がたいへん興味深いです。

伊吉書院 類家店／中村深雪

- お互いの利害が一致して、周りには内緒の契約結婚。たんとんと話が進んでるし、結婚とは？人生とは？と考えさせられるな～、ためになるマンガだな～、とか思ってた！急に恋愛度がアップしてきました。そうそう。ぶつかって、傷ついて、そうやって手に入れたものは尊いんだよ、平匡さん！自転車の運転と同じで転ばなきゃ乗りこなせないのが恋愛ですよ。

セラピスト／内野智未

「透明なゆりかご」沖田×華

- ほのぼのエッセイ風のカバーと裏腹の、シビア&ダークなリアリティが胸に突き刺さりました。

ダ・ヴィンチ編集長 / 関口靖彦

- 「妊娠」「出産」といえば、ほとんどの方がまず抱くイメージは、それはそれは幸せなものだと思います。とある産婦人科で働く見習い看護師の目線で描かれたこの作品の中に出てくるのは、皆が思い描くそれらとはだいぶ異なる、目を背けたいようなエピソードの数々。人によっては、読んでいてつらくなるかもしれません。命の力強さ、人間の弱さ、愛情、母性、幸せ、希望…目に見えない大事なことがたくさんたくさん描かれています。

伊吉書院 類家店 / 中村深雪

- ハードな内容ながらも作者の独自の価値観と作風がいい塩梅。雑誌で一話読んだ時から、これはクルね！と感じた作品。

漫画家専門鍼灸師・理学治療士 / 碓氷麻里子

- いま一児の母ですが、そうか、産婦人科では中絶も扱うんだ、と気付かされました。しかもその数が多いことになんとも悲しくなりました。子供を授かりたくて不妊治療を受ける人が多くなっている一方、中絶も増えているという事実。。どうか女の人だけでなく男の人にも読んでほしいなと思いました。

薬剤師 / 山崎友里

「背すじをピン！と？鹿高競技ダンス部へようこそ？」横田 卓馬

- 週刊少年ジャンプで初の競技ダンスのスポーツ漫画。主人公はジャンプ作品としてはかなり地味ですが、そこが読者と近い存在なので感情移入しやすいです。派手な能力やライバルが出てくるのではなく、ただひたすら部活に打ち込んで、大会で踊りきろうとする。どこにでもある、誰にだってある部活風景なのです。(一部凄い先輩もいますが) その姿には応援せずにはいられません。ダンスというマンガでは表現が難しいスポーツを、躍動感ありで表現しています。迫力満点です。つっちーとわたりちゃんの成長をもっと多くの方に見て頂きたいと思い、1票入れます。

LIBRO ecute 大宮店 コミック担当 / 首藤 瑛

- ウリナリ社交ダンス部を思い出した(笑)競技ダンスを題材に描くとは・・・先が楽しみ。

芳林堂書店高田馬場店コミック責任者 / 天野能宏

「白暮のクロニクル」ゆうきまさみ

- 「ミステリー」というよりは「怪奇譚」といったほうがしっくりくる印象です。雑誌よりも単行本で読みたい作品の一つです。いよいよ「羊殺し」の核に迫ってくるかと思いますが、どう展開するのか大変楽しみです。

会社員 / 林礼春

「薄花少女」三浦靖冬

- 幼い少女になってしまったばあやと、ぼっちゃんの掛け合いが微笑ましいです。のんびり平和に暮らしている普段の生活も、ふとした瞬間の切なさもたまりません。コミックの紙の質も物語にぴったり合っていると思います。

株式会社ゲーマーズ 本部 / 岡田 はる花

「鼻紙写楽」一ノ関圭

- 記憶が確かなら、一ノ関圭を知ったのは沙村広明がきっかけだったと思う。『茶箱廣重』と『らんぶの下』を手に入れて素晴らしい絵に感激し時間を忘れたことを憶えている。正直、新刊が出るとは思っていなかった。でも、待ったかいがあった。昨年一番心躍りつつ読んだ作品だろう。東洲斎写楽、五代目市川團十郎、蔦屋重三郎などが登場し、浮世絵、歌舞伎、出版という広い世界を物語は縦横無尽に駆け巡る。

鳥取県立日野高校司書 / 野間勤

「辺獄のシュヴェスタ」竹良実

- マンガを読むのは、登場人物との知恵比べだ。俯瞰で状況を見ることができる読者は、その状況でのキャラクターのふるまいに共感を覚えたり、愚かさを嗤ったりすることもある。が、一番快哉を叫びたくなるのは、彼ら彼女らが、我々の創造を超えた、ファインプレーを見せてくれるときだ。魔女狩りから始まる修道院の物語、というおよそ普通の日本人には馴染みがないであろうシチュエーションに、絵柄的には実に馴染みやすい日本マンガの得意な十代の女子のキャラクターが登場するのだが、そのキャラクター、特に主人公たるエラは、99%の読者の想像を超えてくる。陰惨になりそうななかにほんのりと感じる希望も含め、スリリングでスリリングで仕方がない！

ニッポン放送アナウンサー / 吉田尚記

- 中世ヨーロッパで行われたという魔女狩りに、成り行きで養子として育ててもらった大切な養母を殺されてしまった主人公のエラ。その魔女狩りを施行した修道院に連行されてしまうがそこにはエラの決意が秘められていた…。そんな幸せから暗転してしまったエラの長くて辛い復讐劇が密やかに始まる。新人離れした画力とその壮絶な読者に息つく暇を与えないストーリーが魅力です。次々と捉えた魔女の子達を洗脳してしまおうとする修道院の罠を身体を張って掻い潜り、息をひそめて復讐の時を待つその臨場感と一緒にドキドキしながら読んでしまいます。果たしてエラは大切な人の敵を討つことができるのか!?

通販部 / 日吉 雄

「宝石の国」市川春子

- 市川春子のマンガが読めるという幸福に感謝するためにも、受賞するまで投票し続けたい。

書楽阿佐ヶ谷店 / 石田充

「忘却のサチコ」阿部潤

- 大好きな飯テロマンガとして、たくさんあった中でサバ味噌のおいしいそうな食べ方にいっぴょういれてしまいました。食べ物マンガは結局どのぐらい非現実感を、もともと虚構であるマンガでやれるかにかかってます。リアクション勝負かと思うとそういうわけでもない。どういえぱいい？そう思わず色々「忘れてしまう」なんてすげえいい。

スタジオフーズ / 小林智之

「僕たちがやりました」金城宗幸、荒木光

- あり得そうであり得ないようなストーリーが、とてもリアルに響いてきます。青春の青臭さがブンブンしてるところもいい。

PENICILLIN / HAKUEI

- 1巻の最後のドンデン返しから始まるミステリー？がたまりません。`やった側`の描写はドキドキしかありません・・・

会社員 / 金子幸恵

「僕のヒーローアカデミア」堀越耕平

- やっぱりこの漫画が好きです。昨年から失速するどころかどんどん先が楽しみになる漫画です。能力とそれを使いこなすためのカラダとアタマ、少年の成長していく姿、そしてその戦いを楽しみにしています。

株式会社スマイルアクス 営業 / 岡村光徳

- 一個だけ毎年少年漫画を入れておきます。去年も入れてしまいました。アニメ化するし、どうかな、クローバーにしようか悩んだ結果。来年は来ないから今年はアカデミア。くそいいな一少年時代。

スタジオフーズ / 小林智之

「僕らはみんな河合荘」宮原るり

- まさにラブコメの王道です。取り立ててとりえのない主人公が、さまざまな障害（？）に遮られながら、またひどく鈍いヒロインに振り回されながらも、ちょっとずつ距離を縮めていく。ラブコメが好きなら（下ネタの好き嫌いはあるかも）きっと楽しめると思います。

会社員 / 林礼春

「魔法使いの嫁」ヤマザキコレ

- だんだんと距離感が変わってきた2人。主人公のチセも、徐々に世界が広がり、自分を認められるようになってきたのか。どんな結末が待っているのか、楽しみな作品です。

会社員 / 金子幸恵

- 丁寧に描かれたファンタジーの世界観が素敵なのです。

主婦 / 紺野 泉

- 前年でもノミネートされましたが、やはり外せない作品です。魔法使いとして成長していく少女チセ、見守る人外エリ阿斯。二人の仲が少しずつ前へと進んでいくのが微笑ましい。繊細なファンタジー世界の描写は素晴らしく、行けるのなら、チセ達のいる世界へ迷い込みたくなる……。今後の二人の展開をずっと見守りたくなる。そんな作品です。[作品タイトル5] 恨み来、恋、恨み恋。

LIBRO ecute 大宮店 コミック担当 / 首藤 瑛

「魔法自家発電」谷 和野

- 短編・中編のよみきり集です。絵柄の独特の雰囲気と、すこし不思議なお話とあいまって、魔法をかけられたような、夢が現かかわらなくなるような読後感です。日常で見落としてしまいそうな、どこにでもあるささいな人の優しさを拾ってくれたようなお話ばかりで、とてもほっとしました。

会社員 / 宇田川 結衣子

「枕魚」panpanya

- 足摺り〜も本当に本当に素敵でしたが、個人的にはこちらのほうがさらに好きです。読んでいくうちに混沌としてきて、まるで自分の普段の世界にまでこの漫画の影響が、自分自身ではなく自分のまわりにまで及ぼしているような錯覚。それが読後感です。自分に影響していると感じる漫画は多々ありますが、自分のまわりにまでそれを感じる漫画は多くありません。ぜひみなさんに読んでいただきたいです！

メガマン / 涼平

「漫画アシスタントの日常」大塚志郎

- リアルとフィクション（エンタメ）のバランスが素晴らしい！漫画の制作現場、創作の現場がこのマンガのようなモノかどうかはわかりませんが、作家の持つ経験と描写から修羅場の様子や葛藤、狭い世界ならではの人間関係によるドラマなど、常に漫画界のタブーと書いてある通り、青年漫画らしく、夢のようなことばかりじゃない場面もありつつもエンタメとして読ませる内容に仕上がっていて、とても読み応えがあります。連載で読んでいますが、毎回舞台が違うこともまた面白いです。「修羅場にヘルプで入った話」「ダメな作家の元に行った話」「初めてアシスタントになった時に話し」などなど、主人公たちが毎回違う環境に置かれた条件で描かれ、それが1話完結でしっかりまとめられているので、毎月読み終わった後、今月も面白いなあ、と良い読後感を味わえてくれます。主人公の志歩が非常にまじめで、ある意味融通が利かないキャラなため、彼女だけだと息が詰まる作品になりそうところを、大抜さんという女子力が高い仲間の存在が作品の空気を読みやすいモノにしてくれていますね。今後、タイトルのアシスタントから漫画家になっていく、なっていけるのか、主人公たちの成長を楽しみにしたいと思います。

COMIC ZIN 商業誌部門責任者 / 塚本浩司

「無尽 -MUJIN-」岡田屋鉄蔵

- 血の通った肉の描写。血筋の運命に翻弄される主人公。幕末に生きた人間の「血」が見事に描かれている。2巻ではあの人達も出てきて、幕末好きにはたまらんです。

医師 / 岸本倫太郎

- 作者の調査・構成・描写すべてのレベルが高く一つ一つのエピソードに説得力があり、全体で素晴らしいストーリーになっている。キャラクターに血を通わせることに成功した作品だった。いま江戸ものを描かせたらピカイチの作家だと思う。

往来堂書店 / 三木雄太

「娘の家出」志村貴子

- 実は初めてきちんと読んだ志村作品ですが、素晴らしかったです。登場する少女たちの家庭は、みんなどこか「不完全」。ステレオタイプではない登場人物たちのひとりひとりに、愛しさが宿ります。ジュリーの「勝手にしやがれ」を心のテーマソングにしているお母さんの話が、特に大好き。

ブログ「マンガ食堂」管理人 / 梅本ゆうこ

「目玉焼きの黄身 つつぶす？」おおひなたごう

- 食べ方に特化した漫画でくだらなくてじつにいい

Hair Make Lounge tetote 代表 / 力丸 真

「乱と灰色の世界」入江亜季

- ついに完結ー！！魔女ファンタジーの傑作です。おーたろーは残念だったけど、乱ちゃん大人になったね、日比とのラブもなんだかほのぼのしますね？。好感度キャラ多くてみんな応援したくなります。

漫画家専門鍼灸師・理学診療士 / 碓氷麻里子

- 本の表紙、装丁にまで作者の作品への愛があふれてて大好きです！大人になりたかった魔法少女の成長物語ですが、すごく心洗われて、思いやりって大事だなと思わせてくれる作品です！自然と涙が溢れ出してしまうので静かな部屋でひとりで読むことをお勧めします！

薬剤師 / 山崎友里

- ずっと推し続けてきた作品が、ついに完結。そしてこの完結巻がすばらしかった!! 冷たい水を飲んだような、大泣きした後に顔を洗った後のような、通り雨が過ぎたような、清々しい読後感だった。どんなに暗い展開になっても、ワクワクキラキラした気持ちで胸を満たしてくれたことにも感服。私自身もなんとなくスタートダッシュ的に早い段階で作品を推してしまうことが多いのだけれど、完結の仕方もきっちり評価されるといいなあと思う。

漫画ライター / 門倉紫麻

「累」松浦だるま

- 生まれつきの醜さの所為でひどい目にあい続け、望むように生きられなかったかさね。持って生まれた美しさゆえに執着され、自由に生きられなかった野菊。自分や他人の美醜によって人は翻弄され、人生をかき乱される。美醜がその人の性格を、人生を決めてしまうことも少なくない。巻をすすめるごとに美しさに固執してがんじがらめになっていくかさねは果たしてどこに行きつくのか、どこまで行ってくれるのかとても楽しみ。とにかく第一話からずっとフルスロットルで陰湿で、フルスロットルで面白い。ここ数年ずっと夢中。

主婦 / 小田真弓

「零戦少年」 葛西りいち

- （当時としては）不純な理由で志願した零戦操縦士。当時の若者のリアルな姿が描かれる導入だが、戦局に巻き込まれてシビアな状況に立たされるのもまたリアル。戦時下の若者の綺麗事ではないリアルを描き切った渾身の力作。
医師 / 岸本倫太郎

「恋愛怪談サヨコさん」 関崎俊三

- 独特かつ絶妙なギャグが冴える怪談ラブコメ。クライマックスの展開も秀逸。全 8 巻で完結した今こそ強く推したい。
書評系ライター / 福井健太

「恋情デスペラード」 アントンシク

- お江戸ウェスタン活劇という設定により舞台、武器、キャラクターのどれもがケレン味に溢れていて画面が熱い。
往来堂書店 / 三木雄太

「狼の口 ヴォルフスムント」 久慈光久

- 中世悪代官物語でした。もう 7 巻だ。代官ヴォルフラムが為す悪事が山と積み重ねられ続けて、掛け金が天井知らずに高まっていく緊張感、この復讐はいかに果たされるべきや！？ という期待はすごかった。もっと驚いたのがその復讐が果たされたと思ったらさらにそれを超える巨悪が現れてそいつが倒される気配が微塵もないことだよ！ネタバレ？ 歴史の教科書に書いてあるんだよなあ…スイスこええ
ソフトウェアエンジニア / 第貳齋藤

「囀る鳥は羽ばたかない」 ヨネダコウ

- いい BL キタ！すでに人気作だけど普通に読め！ 100 冊読め！
作家 / 海猫沢めろん
- ヤクザもので変態で純愛という切なくも美しい、これは奇跡の物語です。物語はちょうど佳境です。未読のかたが読みはじめるなら。いまがまさに旬だと思います。
お菓子研究家 / 福田里香

「薔薇王の葬列」 菅野文

- 読み応え満点なこの作品。まだまだ認知度が低いことがネック。女性に限らず、男性にも一気読みをオススメ！
本と文具ツモリ / 津守晋祐
- 歴史は厳密には科学であって文学ではない。現在の時間で起こっていることのすべてが事実の積み重ねであるように、過去の時間で起こったこともすべてに事実があって、その積み重ねと繋がりによって歴史は作られて来た。時間を巻き戻して原初まで遡ってカメラで撮影していけるのなら、歴史の本には事実だけが書かれ、登場人物たちによる言動もすべて事実によって裏打ちされたものになる。それは面白いかどうかはともかく。 いや、事実であっても面白い人はいる。現実に関のこの時間を生きる少くない人たちの人生といったものが、とてつもなく面白い物語として見られ読まれ感じられている。事実は小説よりも奇なりというように、奇妙奇天烈な人生を歩んだ人たちの足跡を、圧倒的な物語として味わうことが出来ている。けれども、だから歴史から文学を廃してしまって良いということにはならない。過去に遡ってすべてを記録するカメラが存在しない以上、その時に起こったことを知るためには、残された書物であり、絵画であり、遺物であり、口承でありといったものを集め、そこから何が起こったのかを探り、想像し、類推して重ね合わせ、ひとつの時間を織り上げてくしかない。そこには必然として、物語を想像して飛躍させる文学の所作が必要となる。 歴史としての、あるいは科学としての事実から逸れてしまった

もの、かけ離れてしまったものも混じってくるかもしれない。ただの庶民が英雄に祭りあげられていたり、凡庸な君主が英明な支配者として讃えられているかもしれない。逆に、聡明な君主が悪逆非道の限りを尽くした暴君として誹られることも起こるだろう。だからといってそれは事実ではないと廃して何の意味がある？ 必要なのは、歴史においてそういう人物が存在したこと、そして様々な物語を残して去って行ったことを想像する文学の言葉だ。例え事実からかけ離れていても、過去に存在し得ただろうそうした人物が、残し得たかもしれないさまざまな物語を求めることで、そこに真実味を感じさせる歴史のビジョンが浮かび上がる。それを受け取り、読むなり見るなり聞くなり味わうなりして僕達は、遠く過ぎ去った時間に思いを馳せ、今という時間に予定調和的な諦めの延長ではない、創造と冒険に溢れた時間を歴史上の事実として刻んでいく。ここに誕生した歴史上の人物たちを主役にし、歴史上の出来事を文学という形に変えて刻み続けた偉大なる劇作家の著作も混ぜて紡がれた菅野文による『薔薇王の葬列』（秋田書店）という漫画もまた、想像と飛躍にあふれた過去の時間を見せてくれる。リチャード三世という、ウィリアム・シェイクスピアの戯曲では残酷にして狡猾な君主とされた男を物語の中心に据え、その肉体にとてつもない秘密を持たせ、だからこそ育まれた鬱屈と渴望を言動に反映させながら、戦乱に明け暮れた中に育ったからこそ持ち得た知略も載せて、激動の薔薇戦争を乗り越えていく姿を描き出す。シェイクスピアに「ヘンリー六世」という史劇も書かせたほど、素材にあふれた時代だけあって後にリチャード三世となる少年リチャードが直面する事件はダイナミズムに溢れ、王位をめぐる対立する王族や貴族たちの権力に貪欲な様子も、繰り返される戦乱や企まれる謀略の中に描かれる。およそ事実として伝えられているそうした事件を味わいつつ、一方で特別な肉体を持って生まれてしまったリチャードの葛藤や懊悩に触れ、その心情に寄り添いながらリチャードが何を望み、何を求めて生きていたのかといったことを、想像の中に辿っていける。それは事実ではなかったかもしれない。だからといって虚構と切って捨てて良いものでもない。肉体に不具合があったと伝えられるリチャード三世が、父を奪われ兄を廃される中で戦い、勝ち得た王位をやがて奪われていく歴史上の出来事の裏側に、もしかしたらあったかもしれない要素として、含み置いて考えることを誰が咎め立てられよう。仮にそうだったからこそ、こうなったかもしれない歴史の帰結。その延長としての現在。そう思うことで関心の無かった過去がぐっと身近になってくる。そこからまいちど、本当の事実とは何だったのかといった想像にも、思考を向かわせることができるのだ。積み重なっていく巻数の中でリチャードは、だんだんと変化していく己の肉体に戸惑い、時に嫌悪しながらもその肉体を使い危地を脱していく。漫画では絵によって特別な肉体を持ってしまった人物像を、少年性というよりも中性的な雰囲気を持ったスタイルによって描き出す。実在の肉体に依らない漫画だからこそその自在さが、そうした人物描写を化膿している。見ればどちらとも取れ、どちらにも取れない曖昧な存在が見え、だからこそそれを己と意識して苦悩するリチャードの姿が見えてくる。そこにはいったいどんな葛藤があるのだろうか。それとも次第に肉体の側へと靡いていく心情があったのだろうか。第5巻の終わりにかけてリチャードに浮かんできたひとつの感情、あるいは恋情といったものに漂う変化する心情が、王位を目指す物としての立場と、変化を続ける肉体とのギャップの中でどういう方向に膨らんでいくのかが、今は知りたくてならない。事実としての歴史では、リチャードはいずれ王となってそしてボズワースの戦いに臨み戦死する。ヘンリー六世は王位に復帰した後に退位させられ、ロンドン塔で処刑され、ヘンリー六世の息子のエドワードも処刑される。リチャードの周囲に現れ関わりを持った者たちの、そうした事実が物語のなかでどう描かれ、それによってリチャードにどのような変化が起こるかも、これからの展開で興味が向かうところだ。そこまで描かれるのかも含めて、これからも紡がれていく物語に、物語としての事実を目を配っていこう。

書評家 / タニグチリウイチ

「颯爽な家政婦さん」小池田マヤ

- 家政婦さんシリーズです。背が高く男っぽくてブスだけどSランクの家政婦さんの里さん。他人のお家での仕事のためいろんな家の人に遭遇します。そのストーリーがなかなか見ごたえがあって…！掃除の豆知識や料理のレシピなどもあって楽しいのです♪特に主婦向けの漫画かな？と思いますが、ここは是非男の人にもこんな世界が！？て驚いて欲しいので是非読んでください！小池田先生、続編期待してます！！

薬剤師 / 山崎友里